

第七條 大林區署長ハ前條ノ豫定案ニ付總括表ヲ作り前年度十二月三十一日限り農商務大臣ニ差出シ認可ヲ受ケ各豫定案ヲ確定スヘシ

第八條 前條ノ總括表ニハ左記各號ノ一ニ該當スル事業ノ豫定案、附屬書類及圖面ヲ添附スヘシ

一 第十三條但書ノ制限ヲ超ユル増伐又ハ既定ノ施業計畫ニ依ラサル收穫但シ間伐又ハ第十四條第一項第八號乃至第二十一號ノ一ニ該當スル場合ノ收穫ヲ除ク

二 新規企畫ニ係ル間伐ニ非ラサル斫伐、製材及貯材

三 新規企畫ニ係ル砂防植栽及崩壊防止

四 用地ノ買上ヲ要スル苗圃

五 新設ニ係ル林道(歩道及牛馬道ヲ除ク)河川及貯木場

第九條 豫定案確定後新ニ事業ヲ執行シ又ハ豫定案ヲ變更スルノ必要アル場合ニ於テハ林區署長ハ追加豫定案又ハ變更豫定案ヲ編成スヘシ

前項ノ場合ニ於テ各豫定案ヲ通シタル經費ノ不用總額(實行又ハ變更ノ剩餘金並ニ不實行ノ經費ノ和)ヲ超過シ又ハ前條各號ノ一ニ該當スル事業ニ付テハ大林區署長ハ追加豫定案又ハ變更豫定案ヲ差出シ農商務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ確定スヘシ

前項ノ場合ヲ除クノ外大林區署長ハ追加豫定案及變更豫定案ヲ專決確定スルコトヲ得

前項ニ依リ追加豫定案ヲ專決確定シタルトキハ總括表ヲ作り前半年度分チ十月三十一日限り後半年度分チ翌年四月三十日限り農商務大臣ニ之ヲ報告スヘシ

第十條 左記各號ノ一ニ該當スル場合ヲ除クノ外變更豫定案ハ小林區署長之ヲ專決確定スルコト

ヲ得但シ當該小林區署所屬ノ各豫定案ノ經費ノ不用總額(不實行ノ經費ヲ除ク)ヲ超過シ又ハ第八條各號ノ一ニ該當スル事業ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

一 收穫豫定案ニ於テ當初ノ豫定ニ對シ價格ノ減少又ハ一割ヲ超ユル面積若ハ材積(用材、薪材別材積)ノ増加

二 斫伐及貯材ノ豫定案ニ於テ當初ノ豫定ニ對シ一割ヲ超ユル面積又ハ材積(用材、薪材別材積)ノ増減

三 造林豫定案ニ於テ當初ノ豫定ニ對シ二割ヲ超ユル新植若ハ砂防工ノ面積ノ減少又ハ他ノ小林區署ノ造林計畫ニ影響ヲ及ボスモノ

四 土木豫定案ニ於テ修繕事業以外ノモノノ變更

前項ニ依リ變更豫定案ヲ確定シタルトキハ遲滯ナク變更豫定案ノ寫ヲ添ヘ大林區署長ニ之ヲ報告スヘシ

第十一條 豫定案面積中主伐、間伐、砂防工及成林撫育ニ在リテハ區域面積、新植、天然生育、苗圃及防火線ニ在リテハ施行面積、補植、手入及修繕ニ在リテハ當初施行面積ヲ掲記スヘシ
主伐、間伐、砂防工、成林撫育、新植並新規企畫ノ苗圃、防火線及天然生育ニハ其ノ事業箇所ノ實測圖ヲ豫定案ニ添附スヘシ

第二節 收穫豫定案

第十二條 本豫定案ハ斫伐事業ノ資材ニ供シ又ハ賣拂處分ヲ行フヘキ立木竹(被害木竹及主林木タル小柴ヲ包含ス)ノ收穫ヲ豫定スルモノトス

第十三條 毎年度ノ主伐面積又ハ主伐材積(材積ヲ標準トシテ伐採量ヲ定メタル場合ニ限ル)ハ施業案斫伐照査簿ニ於テ算定シタル當該年度斫伐標準量ニ依リテ之ヲ定ムヘシ但シ施業上已ムヲ得サル場合ハ標準量ニ對シ減伐又ハ百分ノ二十以内ノ増伐ヲ爲スコトヲ得

第十四條 主產物(斫伐事業ノ資材ニ供スルモノヲ除ク)ノ伐採又ハ處分ニシテ左記各號ノ一ニ該當シ既定ノ施業計畫ヲ案サス且豫見シ難カリシ場合ニ於テハ追加豫定案ヲ編成スルコトヲ要セス但シ第一號乃至第七號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ一廉見積價額三百圓ヲ超ユルトキハ此ノ限ニ在ラス

一 公用又ハ公益事業ノ爲賣拂フトキ

二 非常災害アリタル場合ニ於テ其ノ罹災者ニ應急ノ小屋掛又ハ薪炭ノ材料ヲ賣拂フトキ

四 國有林野内ニ開坑セル鑛業人ニ鑛業用材ヲ賣拂フトキ

四 國有林野ヲ借受又ハ使用スル者ニ其ノ小屋掛又ハ直接必要ナル器具若ハ薪炭ノ材料ヲ賣拂フトキ

五 國有林野附近ノ住民ニ其ノ家庭工業ノ原料又ハ直接必要ナル器具若ハ薪炭ノ材料ヲ賣拂フトキ

トキ

六 國有林野ノ事業請負人又ハ國有林野ノ產物買受人ニ直接必要ナル材料ヲ賣拂フトキ

七 林區署ノ行フ斫伐、造林若ハ土木ノ事業又ハ林野ノ調査ニ付キ必要ナル材料ヲ供スルトキ

八 損傷木竹ニ係ルトキ

九 不要存置林野ノ立木竹ニ係ルトキ

十 國有林野ヲ他ノ官有地ニ組替ヘタル場合ニ於テ其ノ地上ニ保留シアル立木竹ニ係ルトキ

十一 民地官木竹ニ係ルトキ

十二 部分林ノ產物ヲ賣拂フトキ

十三 國有林野ヲ讓與シ又ハ他ノ官有地ニ組替ユル爲ナルトキ

十四 國有林野ノ貸付又ハ豫約開墾ニシテ其ノ地上ノ立木竹ヲ伐採スルニ非サレハ其ノ目的ヲ達スルコト能ハサルトキ

十五 新植豫定地又ハ造林地ノ上ニ存スル障害木竹ニ係ルトキ

十六 測量又ハ境界査定ノ支障木竹ニ係ルトキ

十七 檢證、標本ノ製作又ハ林野ニ關スル試驗調査ノ爲必要ナルトキ

十八 道路、鐵道、軌道、河川、溝渠、堤塘、溜池等ノ新設ノ場合ニ於テ其ノ敷地ニ存スル立木竹ニ係ルトキ

十九 道路、鐵道、軌道、電線、家屋、耕地等ニ對スル支障木竹又ハ危險木竹ニ係ルトキ

二十 生存ノ見込ナキ焼木竹、枯木竹、轉倒木竹、盜伐木竹、誤伐木竹、伐倒木竹、挫折木竹、末木、枝條、根株、棄捐木竹又ハ盜伐若ハ誤伐其ノ他ノ事由ニ因リテ生シタル製品ニ係ルト

二十一 水火災ノ防禦又ハ軍用ノ爲ナルトキ

前項ニ依ル處分ハ編成年前三年度ノ平均額ヲ參酌シタル見積額ヲ一括シテ豫定外トシテ豫定案ニ計上スヘシ

第三節 斫伐豫定案

第十五條 本豫定案ハ伐木、造材(木炭及副生品ヲ含ム)、搬出(汽車、汽船等ニ依ル輸送ヲ除ク)、製品ノ保管、處分及輸送ヲ豫定スルモノトス

第十六條 本豫定案ニハ左ノ口座ヲ設クヘシ

- 一 當年度著手當年度完了事業
- 二 前年度著手當年度完了事業
- 三 當年度著手翌年度完了事業
- 四 前年度ヨリ越(前年度豫定案ノ口座三ニ屬スルモノヲ除ク)
- 五 他署ヨリ轉換(一、大林區管内生産 二、大林區管外生産ニ區分ス)
- 六 挽材事業

七 輸送事業

第十七條 製品ノ細別及經費ノ内容ニシテ豫定案ノ記載ノミニテ明ナラサルモノハ別ニ明細表ヲ添附スヘシ

新ニ斫伐事業ノ企畫又ハ簡易製板場ノ設置ヲ豫定シタル場合ハ計畫説明書ヲ添附スヘシ

第四節 製材豫定案

第十八條 本豫定案ハ製材所ニ於ケル製材原料ノ受拂、加工、製品ノ保管、處分及輸送ヲ豫定スルモノトス

第十九條 本豫定案ハ作業及經費ニ區分シ作業ニ付テハ左ノ口座ヲ設クヘシ

- 一 前年度ヨリ越(製材原料ハ(一)大林區管内生産(二)大林區管外生産ニ區分ス)
- 二 當年度受入(區分一ニ同シ)

第二十條 種目別經費ノ内容ニシテ豫定案ノ記載ノミニ依リ明ナラサルモノハ別ニ明細表ヲ添附スヘシ

第二十一條 支出中ニハ固定資本償還額(製材所固定資本整理手續ニ依リ調製シタル固定資本原簿面ノ前々年度年度割償還額)ヲ算入シ損益歩合ハ固定資本額(製材所固定資本整理手續ニ依リ調製シタル固定資本原簿面ノ前々年度末ノ償還未済額ト不要償還額トノ和)運轉資本(當年度受入原料總價額ト製材經費總額トノ和ノ三分ノ一)ノ和ニテ除シテ算出スヘシ

第五節 貯材豫定案

第二十二條 本豫定案ハ貯木場ニ於ケル製品ノ受入、保管、處分及輸送ヲ豫定スルモノトス

第二十三條 本豫定案ハ作業及經費ニ區分シ作業ニ付テハ左ノ口座ヲ設クヘシ

一 前年度ヨリ越(一、大林區管内生産 二、大林區管外生産ニ區分ス)

二 當年度受入(區分一二同シ)

第二十四條 種目別經費ノ内容ニシテ豫定案ノ記載ノミニ依リ明ナラサルモノハ別ニ明細表ヲ添
附スヘシ

第六節 造林豫定案

第二十五條 本豫定案ハ造林ニ關スル事業ヲ豫定スルモノトス

第二十六條 本豫定案ハ左ノ項目ニ分ツヘシ

第一項 人工植栽

第一目 新植

第二目 補植

第三目 手入

第二項 天然生育

第一目 下種、萌芽

第二目 補植

第三目 手入

第三項 砂防植栽

第一目 砂防工

第二目 修繕

第三目 新植

第四目 補植

第五目 手入

第四項 苗圃

第一目 播種(種子採集又ハ購入ヨリ第一回床替前迄ノ事業ヲ包含ス)

第二目 床替(第一回床替ヨリ林地移植前迄ノ事業ヲ包含ス挿穂ハ床替ニ準ス)

第三目 雜(器具機械ノ購入及修繕、藩籬及溝渠ノ築設及修繕番小屋及肥壺ノ設置、定夫、借

地料、開墾、用地買上、保護等)

第五項 保護設備

第一目 固定防火線

第二目 修繕

第三目 臨時防火線

第四目 雜(天災豫防、動物防止、藩籬、造林地巡守、火見臺、番小屋等)

第六項 成林撫育

第一目 間伐(收支相償フ場合ニ於ケルモノハ收穫豫定案ニ入レ本目以外トス)

第二目 枝打

第三目 蔓切

第四目 倒木起

第七項 共通(雇員、支消品、通信、廣告等各事業共通ノ性質ヲ有スルモノ)

第二十七條 種目別經費ノ内容ニシテ豫定案ノ記載ノミニ依リ明カナラサルモノハ明細表ヲ添附スヘシ

砂防工及其ノ修繕ニ在リテハ豫算明細表ヲ添附スヘシ

苗圃用地ヲ買上ケル場合ニ在リテハ計畫説明書及買上用地圖ヲ添附スヘシ

第七節 土木豫定案

第二十八條 本豫定案ハ運搬設備、貯木場及雜工等ニ關スル事業ヲ豫定スルモノトス

第二十九條 本豫定案ハ左ノ項目ニ分ツヘシ

第一項 林道

第一目 設計

第二目 新設

第三目 修繕

第四目 雜(移動軌條、借地料等)

第二項 河川

第一目 設計

第二目 新設

第三目 修繕

第四目 雜(第一項第四目ニ同シ)

第三項 貯木場

第一目 設計

第二目 設備

第三目 修繕

第四目 雜(第一項第四目ニ同シ)

第四項 雜工(堤塘、溝渠、護岸、崩壞防禦等)

第五項 共通(雇員、支消品、測量機械、廣告、通信等各事業共通ノ性質ヲ有スルモノ)

第三十條 本豫定案ニハ計畫説明書、豫算明細書及設計圖書ヲ添附スヘシ

第八節 林業試驗豫定案

第三十一條 本豫定案ハ林業試驗ニ關スル事業ヲ豫定スルモノトス

第三十二條 本豫定案ハ左ノ各項ニ分ツヘシ

第一項 立地ニ關スル事項

第二項 造林ニ關スル事項

第三項 森林保護ニ關スル事項

第四項 林產物利用ニ關スル事項

第五項 森林施業ニ關スル事項

第六項 共通(雇員、支消品、印刷、通信等各事業共通ノ性質ヲ有スルモノ)

第三十三條 本豫定案ニハ試驗方法、説明書及經費明細表ヲ添附スヘシ

第二章 實行

第三十四條 大林區署長ニ於テ豫定案ヲ確定シタルトキ又ハ第十四條第一項ノ場合ニ於テハ小林

區署長ヲシテ之ヲ實行セシムヘシ但シ大林區署長ニ於テ其ノ全部又ハ一部ニ付自ラ實行スルコ

トヲ得

土木豫定案及林業試驗豫定案ノ實行並斫伐、製材、貯材事業ニ屬スル製品ヲ管外ニ販賣又ハ輸

送スルニ付テハ大林區署長自ラ之ヲ實行スヘシ但シ特ニ小林區署長ヲシテ實行セシムルコトヲ得

第三十五條 小林區署長ニ於テ第十四條第一項ノ伐採又ハ處分ヲ行フ場合ニ於テ左ノ各號ノ一ニ

該當スルトキハ大林區署長ノ認可ヲ受クヘシ

一 第一號、第八號又ハ第九號ニ該當スルトキ

二 第二號乃至第七號、第十號乃至第二十號ニ該當シ一廉見積價額百圓ヲ超ユルトキ

第三十六條 大林區署長ハ副產物ノ採取又ハ處分ニ付テハ小林區署長ヲシテ之ヲ實行セシムヘシ

第三十七條 林區署長ハ天災其ノ他不可抗ノ障礙ニ因リ實行シ能ハサル場合又ハ技術上若ハ經濟

上實行ヲ不得策トスル場合ニ非サレハ豫定案ヲ不實行ニ歸セシムルコトヲ得ス

第三十八條 小林區署長豫定案ヲ不實行ニ歸セシムタル場合ニ於テハ其ノ都度大林區署長ノ

認可ヲ受クヘシ但シ事業執行ノ必要消滅ニ因ル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス此ノ場合ニ於テハ

遲滯ナク事由ヲ具シ大林區署長ニ之ヲ報告スヘシ

第三十九條 大林區署長ハ第三十七條ニ該當シ毎年度豫定案ノ不實行ニ歸シタルモノノ總括表ヲ

調製シ前半年度分ヲ十月三十一日限り後半年度分ヲ翌年四月三十日限り農商務大臣ニ之ヲ報告

スヘシ

第四十條 前三條ノ規定ハ事業箇所ヲ異動シ又ハ收穫豫定案ノ同一事業箇所内ニ於ケル立木賣却

ヲ官行斫伐ニ官行斫伐ヲ立木賣却ニ變更スル場合ニ之ヲ準用ス

第四十一條 事業實行上災害其ノ他ノ事故發生シタルトキハ左ノ事項ヲ具シ遲滞ナク 小林區署長ハ大林區署長ニ大林區署長ハ農商務大臣ニ之ヲ報告スヘシ但シ事輕微ナルトキハ此ノ限ニ在ラ

ス

- 一 災害其他事故ノ種類、程度、發生ノ日時、場所、原因等
- 二 發生當時ノ措置
- 三 損害額及事業ノ功程ニ及ホス影響
- 四 善後策

前項ノ場合ニ於テ事重大ナルトキハ其ノ概況ヲ急報スヘシ

第四十二條 斫伐、製材、貯材、造林、土木及林業試驗ノ豫定案ノ當年度實行殘部ヲ翌年度ニ繰越シタルトキハ小林區署長ハ翌年度四月十五日限り大林區署長ニ大林區署長ハ翌年度四月三十日限り農商務大臣ニ之ヲ報告スヘシ

第四十三條 繰越事業ハ前年度ノ當該豫定案ニ依リ之ヲ實行スヘシ

第四十四條 斫伐、製材又ハ貯材ノ豫定案ニ於ケル當該年度ノ製品ノ賣拂若ハ引渡又ハ製材原料ノ拂出ヲ終了セス翌年度ニ互ルニ至リタルモノハ前年度ヨリノ越トシテ實行スヘシ

第四十五條 林區署ハ毎年度實行簿ヲ調製シ其ノ事業ノ實行ニ關スル事項ヲ記載整理スヘシ
製品以外ノ物品(盜伐其他作業以外ノ原因ニ依リ生シタル加工品)ニ付テハ斫伐實行簿ノ乙、製品受拂中ニ別ニ口座ヲ設ケ之ヲ記載整理スヘシ

第四十六條 實行簿ハ左ノ區分ニ依リ之ヲ調製スヘシ

- 一 收穫實行簿
- 二 斫伐實行簿
 - 甲、伐木及造材
 - 乙、製品受拂
 - 丙、經費支出
- 三 製材實行簿
 - 甲、原料受拂
 - 乙、製品受拂
 - 丙、經費支出
- 四 貯材實行簿
 - 甲、製品受拂
 - 乙、經費支出

五 造林實行簿

六 土木實行簿

七 林業試驗實行簿

八 副産物處分實行簿

第四十七條 事業箇所別ニ日誌ヲ備ヘ事業ノ經過ヲ明瞭ナラシムヘシ

第四十八條 小林區署長ハ毎年九月苗圃ニ於ケル現在苗木數及其ノ需用關係ヲ調査シ十月十五日限り大林區署長ニ之ヲ報告スヘシ

第四十九條 小林區署長ハ事業ノ實行ヲ終了(分割シタルモノハ其ノ各部毎ノ終了)シタルトキハ其ノ都度實行簿寫ヲ添ヘ之ヲ大林區署長ニ報告スヘシ但シ別ニ成規ノ報告ヲ爲スモノニ付テハ

此ノ限ニ在ラス

斫伐、製材、貯材及土木事業ノ實行ニシテ翌月ニ互ルトキハ其ノ前月分ニ付翌月五日限り前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第五十條 毎年度實行シタル事業ニ付テハ其ノ總括表ヲ作り小林區署長ハ翌年度六月三十日限り

大林區署長ニ大林區署長ハ八月三十一日限り農商務大臣ニ之ヲ報告スヘシ

第五十一條 大林區署長ハ斫伐事業箇所毎ニ伐木、造林、搬出、製品ノ保管、處分及輸送ノ成績ヲ調査シ當初ノ豫定ニ對シ材積、價額又ハ經費ニ於テ三割以上ノ異動ヲ生シタルモノアルトキハ左ノ事項ヲ具シ關係豫定案ヲ添附シ處分完了ノ翌年度七月三十一日限り農商務大臣ニ之ヲ報告スヘシ

一 事業ノ經過

二 事業ノ成績

三 豫定ニ對シ異動ヲ生シタル事由

第五十二條 新植又ハ補植ニ於テ二割以上苗圃ノ播種ニ於テ四割以上床替ニ於テ三割以上ノ枯損(播種ハ發生豫定數、床替ハ床替本數ニ對スル樹種毎ノ枯損)アリタルトキハ左ノ事項ヲ具シ小林區署長ハ大林區署長ニ大林區署長ハ農商務大臣ニ其ノ都度之ヲ報告スヘシ但シ新植又ハ補植ノ枯損三割未滿ニシテ面積狹少ナルモノニ付テハ大林區署長ハ其ノ報告ヲ省略スルコトヲ得

一 面積、樹種、數量、經費、損害額

二 造林ノ狀況

三 不結果ヲ生シタル事由

四 改善ノ方法及時期

既往ノ造林事業ニシテ三割以上ノ枯損ヲ生シ又ハ生育不良ニシテ成林ノ見込ナキモノ(天然生育ニ在リテハ其ノ目的ヲ達シ得ヘキ時期ニ至リ尙豫期ノ林相ヲ形成シ得サルモノ)アルトキハ小林區署長ハ毎年十月三十一日限り大林區署長ハ毎年十二月三十一日限り前項ノ手續ヲ爲スヘシ但シ既ニ報告セルモノニシテ其ノ後被害ノ著シク増加セサルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五十三條 土木事業ニシテ當初ノ計畫ニ對シ運搬量若ハ貯材量ヲ著シク減少セルモノ運搬費ヲ著シク増加セルモノ又ハ改善ヲ要スルモノアルトキハ左ノ事項ヲ具シ小林區署長ハ其ノ都度大林區署長ニ大林區署長ハ翌年五月三十一日限り農商務大臣ニ之ヲ報告スヘシ但シ既ニ報告セルモノニシテ其後著シク不良ヲ加ヘサルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

一 利用ノ狀況

二 運搬量、運搬費、貯材量

三 計畫ニ對シ差異ヲ生シタル事由

四 改善ノ方法及時期

第五十四條 林業試験ヲ完了シタルトキハ其ノ都度其ノ成績ヲ其ノ未タ完了セサルモノニ在リテ

ハ翌年度四月三十日限り其ノ經過ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

附 則

本令ハ大正三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
左ノ訓令及達ハ之ヲ廢止ス

一 林業試験規程

一 明治四十一年二月訓令第一號

一 明治四十四年八月林第三千五百七十六號達

一 造林統計規程

一 國有林野事業豫定案規程

一 明治三十九年十二月林發第三百七十號達

明治三十四年十一月訓令第二十七號大林區署統計報告樣式中第五號乃至第七號、第九號及第十號樣式ヲ削ル

(樣式略)

造林臺帳規程

明治四十二年六月
農商務省訓令第二十三號

第一條 林區署ハ左ノ區分ニ從ヒ造林臺帳ヲ備ヘ之ヲ保存整理スヘシ

一 造林事業ニ付テハ小林區署ニ於テ其ノ正本ヲ調整整理シ其ノ副本ヲ大林區署ニ備附ヘシ

二 土木事業ニ付テハ大林區署ニ於テ其ノ正本ヲ調整整理シ其ノ副本ヲ關係小林區署ニ備附ヘシ

第二條 造林臺帳ハ左ノ九種ニ別チ別記樣式ニ依リ之ヲ調整スヘシ

一 人工植栽臺帳

二 天然生育臺帳

三 砂防植栽臺帳

四 苗木養成臺帳

五 保護設備臺帳

六 林道臺帳

七 河川臺帳

八 貯木場臺帳

九 雜工臺帳

成林撫育ニシテ從來臺帳ニ記載ナキ植栽地ニ對スルモノ又ハ從來備ヘアル臺帳ニ記載ノ餘地ナキモノニ在リテハ前項各號ノ外別ニ成林撫育臺帳ヲ調整スヘシ

第三條 造林臺帳ハ左記各號ノ區分ニ依リ之ヲ整理スヘシ

一 人工植栽、天然生育、砂防植栽及保護設備ハ事業區（事業區ナキ場合ハ豫察事業區、豫察事業區ナキ場合ハ團地）毎ニ各別冊トス但シ事業區ニシテ二以上ノ小林區署管轄區域ニ跨ル場合ニ於テハ各管轄區域ニ屬スル部分毎ニ別冊トス

二 苗木養成ハ苗圃毎ニ別冊トス

三 貯木場及雜工ハ一小林區ヲ通シテ各別冊トス

四 林道及河川ハ輸送ノ連絡アル一線路毎ニ歩道ハ事業區毎ニ各別冊トス但シ同一河川ニシテ名稱ヲ異ニスルモノニ在リテハ其ノ名稱ノ異ナル毎ニ別冊ト爲スコトヲ得
林道及河川ノ雜ハ各別冊トス

第四條 造林臺帳ハ保護設備中臨時防火線及雜ヲ除クノ外左記各號ノ區分ニ依リ各紙葉ヲ別チ逐年記入スルモノトス

一 人工植栽、天然生育及砂防植栽ハ事業箇所及著手年度

二 保護設備、貯木場及雜工ハ箇所

三 苗木養成ハ播種年度及樹種

四 林道ハ幹線及各支線

五 河川ハ本流及各支流

六 林道及河川ノ雜ハ種類

保護設備中臨時防火線及雜ニ在リテハ特ニ紙葉ヲ別タス施行ノ順序ニ依リ逐次記載スルモノトス

第五條 造林臺帳ハ豫定ノ事業成功ノ都度記載スルモノトス

第六條 造林臺帳ニハ苗圃及貯木場ニ限リ箇所毎ニ平面圖ヲ添附シ其ノ他ハ每冊ニ位置圖ヲ添付スヘシ

第七條 林區署ハ各事業ニ付テ毎年一回以上成績及現況等ヲ調査シ其ノ結果並年月日ヲ造林臺帳ニ登載シテ調査官吏之ニ捺印スヘシ

第八條 造林臺帳ニ記載シタル事項ニ關シ誤謬ヲ發見シタルトキハ朱ノ二線ヲ畫シテ之ヲ訂正シ又其ノ事項ヲ變更若ハ加除セントスルトキハ備考又ハ摘要ニ其ノ事由及年月日ヲ記入シ主任官吏之ニ捺印スヘシ

第九條 小林區署長ハ毎年一回造林臺帳ヲ大林區署長ニ提出シテ檢閲ヲ受ケヘシ

第九條ノ二 大林區署長ハ毎年度人工植栽、天然生育、砂防植栽、苗木養成及成林撫育各事業ノ完了シタルモノニ付別記様式ニ依リ成果表ヲ調製シ翌年度十一月三十日限り農商務大臣ニ之ヲ報告スヘシ

附 則

第十條 明治三十三年五月訓令第二十二號及同年同月林發第六十三號達ハ之ヲ廢止ス

第十一條 本規程ハ造林第一事業ニ在リテハ四十二年度ニ於テ新ニ施設スルモノヨリ之ヲ適用シ四十二年度以前ノ施設ニ係ル事業ニシテ同年度以降其ノ補修ヲ爲スモノナルトキハ尙從來ノ臺帳ニ引續キ之ヲ記帳スルモノトス
造林第二事業ニ在リテハ從來ノ臺帳ニ記帳セルモノト雖其ノ全部ヲ本規程ニ依ル臺帳ニ移記シ順次整理スルモノトス但シ本規程ニ依ル記載事項中調査シ能ハサルモノハ空欄ト爲スコトヲ得

(別記略)

國有財産法

大正十年四月
法律第四十三號

- 第一條 本法ニ於テ國有財産ト稱スルハ國有ノ不動産並勅令ヲ以テ定ムル國有ノ動産及權利ヲ謂フ
- 第二條 國有財産ヲ分チテ左ノ四種トス
 - 一 公共用財産 國ニ於テ直接公共ノ用ニ供シ又ハ供スルモノト決定シタルモノ
 - 二 公用財産 國ニ於テ神社ノ用又ハ國ノ事務、事業若ハ官吏其ノ他ノ職員ノ住居ノ用ニ供シ又ハ供スルモノト決定シタルモノ
 - 三 營林財産 國ニ於テ森林經營ノ目的ニ供シ又ハ供スルモノト決定シタルモノ

四 雜種財産 前各號ニ屬セサルモノ

第三條 國有財産ニ關スル事務ハ各省大臣之ヲ管理シ國有財産ニ關スル總轄事務ハ大藏大臣之ヲ管理スヘシ

第四條 國有財産ハ雜種財産ヲ除クノ外之ヲ讓渡シ又ハ之ニ私權ヲ設定スルコトヲ得ス但シ其ノ用途又ハ目的ヲ妨ケサル限度ニ於テ其ノ使用又ハ收益ヲ爲サシムルハ此ノ限ニ在ラス

第五條 雜種財産ハ左ニ掲クル場合ニ限り之ヲ讓與スルコトヲ得

- 一 帝室用又ハ公共團體ニ於テ公共用若ハ公用ニ供スル爲必要アルトキ
- 二 公共用財産又ハ公用財産ノ用途ヲ廢止シタル場合ニ於テ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ其ノ維持保存ノ費用ヲ負擔シタル者、其ノ用途ニ代ルヘキ他ノ施設ヲ爲シタル者其ノ他ノ緣故者又ハ關係者ニ讓與スルトキ

三 神社、寺院又ハ佛堂ノ合併シタル場合ニ於テ之ニ因リ其ノ供用ヲ止メタル國有財産ヲ其ノ合併シタル神社、寺院又ハ佛堂ニ讓與スルトキ

第六條 雜種財産ハ法律ヲ以テ特別ノ定ヲ爲シタル場合ニ限り之ヲ出資ノ目的ト爲スコトヲ得

第七條 雜種財産ハ土地及建物以外ノ土地ノ定著物ニ限り帝室用又ハ國、公共團體若ハ私人ニ於テ公共用、公用若ハ公益事業ニ供スル爲必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ他ノ土地及建物以外ノ土地ノ定著物ト交換ヲ爲スコトヲ得
前項ノ交換ヲ爲ス場合ニ於テ其ノ價格均シカラサルトキハ金錢ヲ以テ補足スヘシ

第八條 用途及期間ヲ指定シテ國有財産ノ賣拂、讓與又ハ交換ヲ爲シタル場合ニ於テ指定期間内ニ之ヲ其ノ用途ニ供セス又ハ之ヲ其ノ用途ニ供シタル後指定期間内ニ其ノ用途ヲ廢止シタルトキハ政府ハ其ノ契約ヲ解除スルコトヲ得

第九條 國有財産ノ賣拂代金又ハ交換差金ハ財産引渡前之ヲ納付セシムヘシ但シ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ延納ノ特約ヲ爲スコトヲ得

第十條 國有財産ニ付境界査定ヲ施行セムトスルトキハ豫メ期日ヲ定メテ隣接地所有者ニ之ヲ通知シ其ノ立會ヲ求ムヘシ

隣接地所有者期日ニ於テ立會ハサルコトアルモ境界査定ヲ施行スルコトヲ得

第十一條 境界査定ヲ了シタルトキハ隣接地所有者ニ之ヲ通知スヘシ

第十二條 前二條ノ規定ニ依リ通知ヲ受クヘキ者ノ住所居所共ニ不明ナルトキハ通知ノ要旨ヲ公告スヘシ

前項ノ規定ニ依リ公告シタル場合ニ於テ公告ノ初日ヨリ起算シ三十日ヲ經過シタルトキハ通知ヲ受ケタルモノト看做ス

第十三條 隣接地所有者其ノ他境界査定ニ對シ不服アル者ハ訴訟シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十四條 國有財産ニ付境界査定又ハ測量ヲ爲ス爲政府ニ於テ他人ノ土地ニ立入り、目標ヲ設置シ又ハ障害物ヲ除却スルノ必要アルトキハ當該土地又ハ物件ノ所有者及占有者ハ正當ノ理由ナ

クシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス但シ之ニ因リテ生シタル損害ニ付賠償ヲ求ムルコトヲ得

第十五條 國有財産ノ貸付ハ左ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス

- 一 植樹ヲ目的トシテ土地及建物以外ノ土地ノ定著物ヲ貸付スル場合ニ在リテハ八十年
 - 二 前號ノ場合ヲ除クノ外土地及建物以外ノ土地ノ定著物ヲ貸付スル場合ニ在リテハ三十年
 - 三 建物其ノ他ノ物件ヲ貸付スル場合ニ在リテハ十年
- 貸付期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ更新ノ時ヨリ前項ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス

第十六條 國有財産ハ帝室用又ハ公共團體若ハ私人ニ於テ公共用、公用若ハ公益事業ニ供スル爲必要アル場合及勅令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外無償ニテ之ヲ貸付スルコトヲ得ス

第十七條 國有財産ノ貸付料ハ毎年定期ニ之ヲ納付セシムヘシ但シ數年分ヲ前納セシムルコトヲ妨ケス

第十八條 國有財産ヲ貸付シタル場合ニ於テ其ノ貸付期間中帝室用又ハ國、公共團體若ハ私人ニ於テ公共用、公用若ハ公益事業ニ供スル爲必要ヲ生シタルトキハ政府ハ其ノ契約ヲ解除スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ契約ヲ解除シタル場合ニ於テハ借受人ハ之ニ因リテ生シタル損害ニ付賠償ヲ求ムルコトヲ得

第十九條 貸付期間ノ終了又ハ貸付契約ノ解除ニ當リ政府ニ於テ時價ヲ提供シ其ノ國有財産ノ上

ニ存スル建物其ノ他ノ物件ヲ買取ルヘキ旨通知シタルトキハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十條 前五條ノ規定ハ貸付ニ依ラスシテ國有財産ノ使用又ハ收益ヲ爲サシムル契約ニ付之ヲ準用ス

第二十一條 雜種財産ニ付土地ノ開拓又ハ水面ノ埋立若ハ干拓ヲ爲サムトスル者アル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ事業者ニ對シ事業ノ成功ヲ條件トシテ其ノ財産ノ賣拂、讓與又ハ貸付ノ豫約ヲ爲シ其ノ事業ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ事業ヲ爲サシムル契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ事業ノ成功ニ要スル豫定期間事業者ヲシテ其ノ成功シタル部分ニ付無償ニテ使用又ハ收益ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十二條 前條第一項ノ規定ニ依リ事業ヲ爲サシムル契約ヲ爲シタル場合ニ於テ指定期間内ニ事業者其ノ事業ニ著手セサルトキハ政府ハ其ノ契約ヲ解除スルコトヲ得

第二十三條 第二十一條第一項ノ規定ニ依リ事業ヲ爲サシムル契約ヲ爲シタル場合ニ於テ豫定期間内ニ事業成功セサルトキト雖土地又ハ水面ノ狀況ニ依リ支障ナシト認ムルトキハ事業者ニ對シ其ノ成功シタル部分ノ賣拂、讓與又ハ貸付ヲ爲スコトヲ得

第二十四條 從前ヨリ引續キ寺院又ハ佛堂ノ用ニ供スル雜種財産ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ用ニ供スル間無償ニテ之ヲ當該寺院又ハ佛堂ニ貸付シタルモノト看做ス

寺院又ハ佛堂ノ土地ニ係ル雜種財産ハ其ノ用ニ供スル爲必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ

無償ニテ第十五條ノ規定ニ拘ラス之ヲ當該寺院又ハ佛堂ニ貸付スルコトヲ得

第二十五條 政府ハ國有財産ノ種類ニ從ヒ其ノ臺帳ヲ備フヘシ

臺帳ニ記載スヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十六條 政府ハ毎會計年度間ニ於ケル國有財産増減總計算書及毎五年三月三十一日現在ノ國有財産現在額總計算書ヲ調製シ會計検査院ノ検査ヲ經テ之ヲ帝國議會ニ報告スヘシ

前項ノ國有財産増減總計算書ニハ各省ノ國有財産増減報告書ヲ、國有財産現在額總計算書ニハ各省ノ國有財産現在額報告書ヲ添附スヘシ

附 則

第二十七條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十八條 第二十五條及第二十六條ノ規定ハ當分ノ内公共用財産ニ付之ヲ適用セス

第二十九條 第二十六條ノ規定ニ依ル國有財産増減總計算書ハ本法施行ノ日ノ屬スル年度分ヨリ、國有財産現在額總計算書ノ第一回分ハ本法施行ノ日ノ現在ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第三十條 北海道國有未開地處分法中ノ規定ハ本法ノ規定ニ牴觸スルモノト雖當分ノ内仍其ノ效力ヲ有ス

第三十一條 國有林野法第二條、第四條乃至第七條、第九條、第十二條乃至第十四條、第十六條、

第二十四條及第二十五條ノ規定ハ其ノ效力ヲ失フ但シ本法施行前ニ係ル國有林野ノ増減異動報

告ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

第三十二條 從前ノ法令ニ依リテ爲シタル處分、契約其ノ他ノ行爲ハ本法中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本法ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第三十三條 本法ヲ朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ施行スル場合ニ於テ必要アルトキハ勅令ヲ以テ特別ノ定ヲ爲スコトヲ得

國有財産法施行令

大正十一年一月
勅令第十五號

第一章 總 則

第一條 左ニ掲グル動産及權利ニシテ國有ノモノハ之ヲ國有財産法第一條ノ國有財産トス

- 一 船舶、浮標、浮棧橋及浮船渠
- 二 不動産又ハ前號ニ掲グル動産ノ從物
- 三 事業所ニ於ケル機械及重要ナル器具
- 四 地上權、地役權、鑛業權、砂鑛權其ノ他之ニ準スヘキ權利
- 五 株式及出資ニ因ル權利

前項第三號ノ事業所ノ範圍ハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

第二條 各省大臣公共用財産又ハ公用財産ノ用途ヲ廢止セムトスルトキハ豫メ大藏大臣ニ之ヲ通

知シ特ニ大藏大臣ト協定シタルモノヲ除クノ外用途廢止後遲滯ナク之ヲ大藏大臣ニ引繼グヘシ
前項ノ規定ハ用途ノ廢止ト同時ニ國有財産タルノ性質ヲ失フモノ、國有林野法第三條第二項ノ規定ニ依リ營林財産ト爲スノ必要アルモノ、史蹟名勝天然紀念物ニ指定セラレタルモノ及帝國鐵道會計、大學資金、學校及圖書館資金又ハ在外國帝國專管居留地特別會計ニ屬スルモノニ付之ヲ適用セス

第三條 各省大臣國有財産ノ管理換ヲ受ケムトスルトキハ所管大臣及大藏大臣ニ協議スヘシ

第四條 左ニ掲グル場合ニ於テハ所管大臣ハ大藏大臣ニ協議スヘシ

- 一 公用財産タル土地ノ用途ヲ變更セムトスル場合ニシテ大藏大臣ノ定ムルモノニ該當スルトキ
- 二 公用財産ト爲スノ目的ヲ以テ土地ノ交換ヲ爲シ又ハ寄附ヲ受ケムトスルトキ
- 三 雜種財産ヲ公用財産又ハ營林財産ト爲サムトスルトキ
- 四 營林財産ノ目的ヲ廢止セムトスルトキ

第五條 各省大臣公用財産ト爲スノ目的ヲ以テ土地ノ買入若ハ收用ヲ爲シ又ハ地上權ヲ取得シタルトキハ遲滯ナク之ヲ大藏大臣ニ通知スヘシ

第六條 前二條ノ規定ハ國有財産法施行地外ニ在ル財産及帝國鐵道會計ニ屬シ又ハ屬スヘキ財産ニ付之ヲ適用セス

第七條 國有財産ニ關スル事務ニ從事スル職員ハ其ノ取扱ニ係ル國有財産ヲ讓受タ又ハ自己ノ所

有物ト交換スルコトヲ得ス

第二章 賣拂、讓與及交換

第八條 公共團體ニ於テ維持保存ノ費用ヲ負擔シタル公共用財産ノ用途ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ其ノ公共團體ニ讓與スルコトヲ得但シ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外費用負擔ノ義務ヲ負ヒタル期間カ十年ニ滿タサルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第九條 公共團體又ハ私人ニ於テ公共用財産ノ用途ニ代ルヘキ他ノ施設ヲ爲シタル爲其ノ用途ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ其ノ施設ヲ爲シタル者又ハ其ノ相續人其ノ他ノ包括承繼者ニ讓與スルコトヲ得但シ財產ノ見込價格カ其ノ施設ニ要シタル費用ノ額ヲ超過スルトキハ超過額ニ相當スル部分ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十條 公共用財産又ハ公用財産ノ用途ヲ廢止シタル場合ニ於テ其ノ財産中寄附ニ係ルモノハ之ヲ其ノ寄附者又ハ其ノ相續人其ノ他ノ包括承繼者ニ讓與スルコトヲ得但シ寄附ノ際特約ヲ爲シタル場合ヲ除クノ外寄附ヲ受ケタル後二十年ヲ經過シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十一條 國有財産ニ付交換ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ當該官廳ハ目的物ノ價格ヲ評定シ其ノ基礎ヲ明ニシタル調査ヲ作成スヘシ

評定價格ノ差額カ其ノ高價ナルモノノ價格ノ四分ノ一ヲ超ユルトキハ交換ヲ爲スコトヲ得ス

第十二條 前條第一項ノ規定ハ隨意契約ニ依リ國有財産ノ賣拂ヲ爲サムトスル場合ニ之ヲ準用ス

第十三條 一定ノ用途ニ供セシムル目的ヲ以テ國有財産ノ賣拂、讓與又ハ交換ヲ爲ス場合ニ於テハ當該官廳ハ其ノ用途並ニ之ヲ其ノ用途ニ供スヘキ始期及期間ヲ指定スヘシ但シ當該官廳ニ於テ特ニ其ノ必要ナシト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三章 境界査定

第十四條 國有財産ニ付境界ノ分明ナラサルモノアル場合ニ於テ當該官廳必要ト認メタルトキ又ハ隣接地所有者ノ申請アリタルトキハ當該官廳ハ其ノ境界査定ヲ施行スヘシ

第十五條 境界査定ヲ施行セムトスルトキハ當該官廳ハ其ノ日時及場所ヲ定メ書面ヲ以テ隣接地所有者ニ之ヲ通知スヘシ

前項ノ書面ノ送達ハ期日ニ付豫メ隣接地所有者ノ承諾アリタル場合ヲ除クノ外期日ノ前日ヨリ起算シ少クトモ七日前之ヲ爲スヘシ

第十六條 隣接地所有者期日ニ於テ立會ヲ爲スコト能ハサル事由ヲ申出テタルトキハ當該官廳ハ其ノ期日ヲ變更スルコトヲ得

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用セス

第十七條 境界査定ヲ了シタルトキハ當該官廳ハ書面ヲ以テ隣接地所有者ニ之ヲ通知スヘシ
隣接地所有者ハ當該官廳又ハ其ノ指定シタル官公署ニ就キ査定圖又ハ其ノ謄本ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得

第十八條 當該官廳第十五條又ハ前條ノ通知ヲ爲シタルトキハ配達證明郵便ニ依リタル場合ヲ除クノ外其ノ受領書ヲ徴スヘシ

第十九條 國有財産法第十二條ノ公告ハ官報ヲ以テ之ヲ爲シ且關係市區町村長又ハ之ニ準スヘキ者ヲシテ揭示其ノ他ノ方法ニ依リ之ヲ爲サシムヘシ

第四章 貸付及準貸付

第二十條 公共用財産又ハ公用財産ト爲スノ目的ヲ以テ寄附ヲ受ケタル國有財産ハ其ノ用途ニ供セサル期間無償ニテ之ヲ其ノ寄附者又ハ其ノ相續人其ノ他ノ包括承繼者ニ貸付スルコトヲ得

第二十一條 隨意契約ニ依リ國有財産ヲ貸付セムトスルトキハ當該官廳ハ貸付料ヲ評定シ其ノ基礎ヲ明ニシタル調書ヲ作成スヘシ 國有財産法第十五條第二項ノ規定ニ依リ貸付期間ヲ更新セムトスルトキ亦同シ

第二十二條 前二條ノ規定ハ貸付ニ依ラスシテ國有財産ノ使用又ハ收益ヲ爲サシムル契約ニ付之ヲ準用ス

第二十三條 雜種財産ニ付土地ノ開拓又ハ水面ノ埋立若ハ干拓ノ事業ヲ爲サシムル契約ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ當該官廳ハ事業者ヨリ左ノ事項ヲ具シタル事業計畫書ヲ提出セシムヘシ

- 一 土地又ハ水面ノ所在及面積
- 二 事業ノ目的

三 事業施行ノ方法及順序

四 成功豫定期間

五 收支豫算

六 計畫圖

事業成功ノ後公供ノ用ニ供スヘキ部分アルトキハ其ノ位置及面積ヲ事業計畫書ニ記載セシムヘシ

第二十四條 國有財産法第二十一條第一項ノ規定ニ依リ國有財産ノ賣拂又ハ有償貸付ノ豫約ヲ爲サムトスルトキハ當該官廳ハ賣拂價格又ハ貸付料ヲ評定シ其ノ基礎ヲ明ニシタル調書ヲ作成スヘシ

前項ノ規定ハ國有財産ノ讓與又ハ無償貸付ノ豫約ヲ爲サムトスル場合ニ之ヲ準用ス

第二十五條 事業ノ成功ニ要スル豫定期間ハ契約ノ日ヨリ十年以内ニ於テ之ヲ定ムヘシ 天災其ノ他已ムチ得サル事由ニ因リ必要アリト認ムルトキハ當該官廳ハ前項ノ規定ニ依リ定メタル期間ノ半ニ相當スル期間以内ニ於テ豫定期間ノ延長ヲ承認スルコトヲ得

第二十六條 當該官廳ハ契約ノ日ヨリ二年以内ノ期間ヲ指定シ事業者ヲシテ其ノ事業ニ著手セシムヘシ 前條第二項ノ規定ハ前項ノ期間ニ付之ヲ準用ス

第二十七條 國有財産法第二十三條ノ規定ニ依リ事業者ニ對シ成功部分ノ賣拂、讓與又ハ貸付ヲ

爲サムトスル場合ニ於テハ當該官廳ハ特別ノ事由アリト認ムル場合ヲ除クノ外豫約ニ定メタル
條項ニ準シテ其ノ契約ヲ爲スヘシ

第二十八條 國有財産法第二十四條第一項ニ規定スル雜種財産ノ使用又ハ收益ニ付テハ寺院又ハ
佛堂ニ關スル主務大臣ノ定ムル所ニ依ルヘシ

第二十九條 寺院又ハ佛堂國有財産法第二十四條第二項ノ規定ニ依リ雜種財産ノ貸付ヲ受ケムト
スルトキハ地方長官ヲ經由シ主務大臣、其ノ財産ヲ管理スル大臣及大藏大臣ニ願出ツヘシ
前條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ貸付シタル雜種財産ニ付之ヲ準用ス

第五章 臺帳

第三十條 國有財産ノ臺帳ハ所管ノ各省ニ之ヲ備フヘシ但部局ノ長ニ於テ國有財産ニ關スル事務
ヲ分掌スル場合ニ於テハ其ノ部局毎ニ之ヲ備ヘ各省ニハ其ノ總括簿ヲ備フルモノトス

第三十一條 國有財産ノ臺帳ハ其ノ種類毎ニ之ヲ調製シ左ノ事項ヲ記載スヘシ但シ財産ノ性質ニ
依リ其ノ記載事項ヲ省略スルコトヲ得

一 種目

二 所在又ハ所屬

三 數量

四 價格

五 得喪變更ノ年月日及事由
六 其ノ他必要ナル事項

第三十二條 國有財産ノ臺帳ニ登錄スヘキ價格ハ購入ニ係ルモノハ購入價格、交換ニ係ルモノハ
交換當時ニ於ケル評定價格、收用ニ係ルモノハ補償金額ニ依リ其ノ他ノモノハ左ノ區分ニ依リ
之ヲ定ムヘシ

一 土地ニ付テハ類地ノ時價ニ比準シテ算定シタル金額

二 立木竹ニ付テハ其ノ材積ニ單價ヲ乘シテ算定シタル金額、庭木其ノ他材積ヲ基準トシテ算
定シ難キ立木竹ハ見込價格

三 建物其ノ他ノ工作物及船舶其ノ他ノ動産ニ付テハ建築費、製造費又ハ見込價格

四 權利ニ付テハ第一條第四號ニ掲クルモノハ見込價格、第五號ニ掲クルモノハ拂込金額又ハ
出資金額

第三十三條 土地及立木竹ノ價格ハ國有財産現在額總計算書調製ノ年三月三十一日ノ現況ニ依リ
之ヲ改定スヘシ但シ臺帳ニ登錄シタル後二年ヲ經過セサルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ場合ニ於テ土地ノ價格ハ類地ノ時價ニ比準シ、立木竹ノ價格ハ其ノ材積ニ單價ヲ乘シテ
之ヲ算定スヘシ但シ庭木其ノ他材積ヲ基準トシテ算定シ難キ立木竹ニ付テハ見込價格ニ依ル
前二項ノ規定ハ帝國鐵道會計ニ屬スルモノニ付之ヲ適用セス

第三十四條 作業會計又ハ造幣局特別會計ノ固定資本ニ屬スルモノノ價格ハ前二條ノ規定ニ拘ラ

ス其ノ資本價格ニ依ルヘシ

第六章 計算書及報告書

第三十五條 各省大臣ハ會計検査院ニ證明ノ爲國有財産ノ増減計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ
前項ノ計算書ハ國有財産ニ關スル事務ヲ分掌スル部局ノ長ヨリ直ニ會計検査院ニ送付セシムルコトヲ得

第三十六條 各省大臣ハ毎會計年度間ニ於ケル國有財産増減報告書ヲ調製シ翌年度八月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

大藏大臣ハ各省ノ國有財産増減報告書ニ基キ國有財産増減總計算書ヲ調製シ各省ノ國有財産増減報告書ト共ニ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第三十七條 各省大臣ハ毎五年三月三十一日現在ニ於ケル國有財産現在額報告書ヲ調製シ其ノ年九月三十日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

大藏大臣ハ各省ノ國有財産現在額報告書ニ基キ國有財産現在額總計算書ヲ調製シ各省ノ國有財産現在額報告書ト共ニ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第七章 雜則

第三十八條 本令ニ定ムルモノヲ除クノ外國有財産ノ臺帳ニ關シ必要ナル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム

第三十九條 第三十五條ニ規定スル計算證明書類ノ様式及送付期限ニ付テハ會計検査院ノ定ムル所ニ依ルヘシ

第四十條 前條ニ定ムルモノヲ除クノ外本令ニ定ムル諸計算書ノ様式ハ大藏大臣之ヲ定ム

第四十一條 本令ニ定ムル帳簿及書類ノ様式ニハ國防上祕密ヲ要スル國有財産ニ付必要ナル特例ヲ設クヘシ

附則

第四十二條 本令ハ國有財産法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四十三條 左ノ命令ハ之ヲ廢止ス但シ官有財産ノ増減異動ニシテ本令施行前ニ係ルモノノ報告ニ付テハ從前ノ例ニ依ル

明治七年九月二十三日達皇城周圍内外ノ滄壘等修繕改築ニ關スル件

明治八年第四百四十六號達

明治八年第四百九十八號達

明治九年第四十六號達

明治十三年第六號達

明治十三年七月八日達皇城周圍内外ノ滄壘外岸接近ノ官有地へ家屋建築ニ關スル件

明治十四年第十號達

明治十六年第四十五號達

官有地特別處分規則

官有財產管理規則

官有地取扱規則

明治二十四年勅令第十五號

明治二十七年勅令第九十二號

明治三十六年勅令第九十六號

明治三十九年勅令第二百二十號

明治四十一年勅令第一百十九號

明治四十二年勅令第七十號

大正六年勅令第二百二十四號

第四十四號 本令施行ノ際ニ於ケル各省所管ノ雜種財產ハ國有林野及北海道國有未開地ヲ除クノ

外第二條ノ規定ニ準シ本令施行ノ日ノ現在ニ依リ之ヲ大藏大臣ニ引繼クヘシ

第四十五條 本令施行ノ際國有財產ノ臺帳ニ登錄スヘキ土地及立木竹ノ價格ハ其ノ購入交換又ハ

收用ニ係ルモノト雖爾後二年ヲ經過シタルモノニ付テハ帝國鐵道會計ニ屬スルモノヲ除クノ外

三十二條第一號又ハ第二號ノ規定ニ依リ算定シタル金額ニ依ル

第十六條 各省大臣ハ本令施行ノ日ノ現在ニ於ケル國有財產現在額報告書ヲ調製シ其ノ年十月

十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

十七條 前三條ニ規定スルモノヲ除クノ外本令施行ニ關シ必要ナル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム

國有財產法施行規則

大正十一年二月
大藏省令第十四號

第一條 公用財產タル土地ノ用途ヲ變更セムトスル場合ニシテ之ニ因リ各箇ノ官廳、兵營、病院、

監獄、學校、官舎、工場、倉庫、練兵場、作業場、演習場、射擊場、飛行場、牧場、農場、試

驗場、演習林ノ敷地ニ異動ヲ生スヘキモノニ付テハ國有財產法施行令第四條ノ規定ニ依リ所管

大臣大藏大臣ト協議スヘシ但シ其ノ異動ノ面積カ百坪ヲ超エサル場合及相接觸スル兩敷地ノ區

域ノ相互變更ニシテ其ノ面積カ各敷地ノ面積ノ一割ヲ超エサル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 國有財產ノ臺帳ハ第一號様式ニ據ル但シ帝國鐵道會計ニ屬スルモノ及作業會計又ハ造幣

局特別會計ノ固定資本ニ屬スルモノニ付テハ所管大臣大藏大臣ト協議シ別ニ其ノ様式ヲ定ムル

コトヲ得

國有林野ニシテ別ニ臺帳ノ設備アルモノニ付テハ之ニ總括ヲ附シテ國有財產ノ臺帳ニ代用スル

コトヲ得

第三條 臺帳ニハ土地、建物及國有財産法施行令第一條第四號ニ掲クル權利ニ關スル圖面ヲ附屬セシムヘシ但シ本令施行ノ際ニ於ケル雜種財産ニ付テハ其ノ重要ナルモノヲ除クノ外當分ノ内之ヲ省略スルコトヲ得

第四條 國有財産ノ總括簿ヲ備フル場合ニ於テハ第一號樣式中總括ニ準シテ之ヲ調製シ尙公用財産ノ分ニ付テハ前條ニ準シテ圖面ヲ附屬セシムヘシ

第五條 國有財産現在額報告書及國有財産増減報告書ハ第二號及第三號樣式ニ據ル

附 則

本令ハ國有財産法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(樣式略)

官有財産保管責任ノ件

明治二十三年九月
農商務省訓令第五十三號

小林區署及派出所所屬ノ財産(家屋書類等)ハ其署所官舎居住官吏保管ノ責ニ任スヘシ但シ其ノ責任ハ事務授受ノ日ヲ以テ終始ス

會計法

大正十年四月
法律第四十二號

第一章 總 則

第一條 政府ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

一 會計年度所屬ノ歳入歳出ノ出納ニ關スル事務ハ翌年度七月三十一日迄ニ悉皆完結スヘシ

第二條 租稅其ノ他一切ノ收納ヲ歳入トシ一切ノ經費ヲ歳出トシ歳入歳出ハ之ヲ總豫算ニ編入スヘシ

第三條 毎會計年度ニ於ケル經費ノ定額ハ其ノ年度ノ歳入ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第四條 各官廳ニ於テハ法律勅令ヲ以テ規定シタルモノヲ除クノ外特別ノ資金ヲ有スルコトヲ得ス

第五條 政府ハ日本銀行ヲシテ國庫金出納ノ事務ヲ取扱ハシム

前項ノ規定ニ依リ日本銀行ニ於テ受入レタル國庫金ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ預金トス

第六條 政府ハ國庫金出納上必要アルトキハ大藏省證券ヲ發行シ又ハ日本銀行ヨリ借入ヲ爲スコトヲ得

大藏省證券及借入金ハ當該年度ノ歳入ヲ以テ之ヲ償還スヘシ

大藏省證券及借入金ノ最高額ハ毎年度帝國議會ノ協贊ヲ經テ之ヲ定ム

第二章 豫算

第七條 歳入歳出ノ總豫算ハ前年ノ帝國議會集會ノ始ニ於テ之ヲ提出スヘシ
必要避クヘカラサル經費及法律又ハ契約ニ基ク經費ニ不足ヲ生シタル場合ヲ除クノ外追加豫算
ヲ提出スルコトヲ得ス

第八條 歳入歳出ノ總豫算ハ經常臨時ノ二部ニ大別シ各部中ニ於テ之ヲ款項ニ區分スヘシ
總豫算ニハ帝國議會參考ノ爲ニ左ノ文書ヲ添附スヘシ

一 歳入豫算明細書

二 各省ノ豫定經費要求書但シ各項中各目ノ明細ヲ記入スヘシ

第九條 豫算中ニ設クヘキ豫備費ハ左ノ二項ニ分ツ

第一豫備金

第二豫備金

第一豫備金ハ避クヘカラサル豫算ノ不足ヲ補フモノトス

第二豫備金ハ豫算外ニ生シタル必要ノ費用ニ充ツルモノトス

第十條 豫備金ヲ以テ支辨シタルモノハ其ノ第一豫備金支出ニ係ルモノハ年度經過後其ノ第二豫
備金支出ニ係ルモノハ次ノ常會ニ於テ帝國議會ニ提出シ其ノ承諾ヲ求ムルコトヲ要ス

第十一條 政府ハ豫算ニ定ムルモノ及特ニ帝國議會ノ協賛ヲ經タルモノヲ除クノ外災害事變其ノ

他避クヘカラサル事由アル場合ニ於テハ翌年度ニ互ル契約ヲ締結スルコトヲ得
前項ノ規定ニ依リ翌年度ニ互ル契約ヲ爲スコトヲ得ヘキ金額ハ毎年度帝國議會ノ協賛ヲ經テ之
ヲ定ム

第三章 收入

第十二條 租稅其ノ他ノ歳入ハ法令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ徵收又ハ收納スヘシ

法令ノ定ムル所ニ依リ當該官吏ノ資格アル者ニ非サレハ租稅其ノ他ノ歳入ヲ徵收又ハ收納スル

コトヲ得ス但シ各廳事務員ヲシテ收納ヲ分掌セシムル場合又ハ日本銀行ヲシテ收納ヲ取扱ハシ

ムル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第四章 支出

第十三條 各年度ニ於テ決定シタル經費ノ定額ヲ以テ他ノ年度ニ屬スヘキ經費ニ充ツルコトヲ得

第十四條 國務大臣ハ其ノ所管ニ屬スル收入ヲ國庫ニ納ムヘシ直ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス

國務大臣ハ豫算ニ定メタル目的ノ外ニ定額ヲ使用シ又ハ各項ノ金額ヲ彼此流用スルコトヲ得ス
第十五條 國務大臣其ノ所管定額ヲ支出セムトスルトキハ現金ノ交付ニ代ヘ日本銀行ヲ支拂人ト
スル小切手ヲ振出スヘシ但シ他ノ官吏ニ委任シテ小切手ヲ振出サシムルコトヲ得

第十六條 國務大臣ハ債主ノ爲ニスルニ非サレハ小切手ヲ振出スコトヲ得ス但シ以下四條ノ規定

ニ依リ主任ノ官吏又ハ日本銀行ニ對シ資金ヲ交付スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 國務大臣ハ勅令ヲ以テ定ムル經費ニ限リ主任ノ官吏ヲシテ現金支拂ヲ爲サシムル爲勅

令ノ定ムル所ニ依リ之カ資金ヲ當該官吏ニ交付スルコトヲ得

第十八條 國務大臣ハ日本銀行ニ命シ國債ノ元利拂ヲ爲サシムル爲之カ資金ヲ日本銀行ニ交付ス

ルコトヲ得

第十九條 國務大臣ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ現金支拂ヲ爲サシムル爲當該官吏ヲシテ其ノ保管ニ

係ル歳入金、歳出金又ハ歳入歳出外現金ヲ繰替使用セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ歳出金ニ繰替使用シタル現金ヲ補填スル爲國務大臣ハ之カ資金ヲ當該官吏ニ

交付スルコトヲ得

第二十條 國務大臣隔地者ニ支拂ヲ爲サルトスルトキハ必要ナル資金ヲ日本銀行ニ交付シ之カ支

拂ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ規定ハ隔地ノ出納官吏ニ資金ヲ交付セムトスル場合ニ之ヲ準用ス

第二十一條 國務大臣ハ勅令ヲ以テ定メタル場合ニ限リ前金拂又ハ概算拂ヲ爲スコトヲ得但シ軍

艦、兵器、彈藥若ハ外國ヨリ直接購入スル機械圖書ノ代價及官公署ニ對シ支拂フヘキ經費ヲ除

クノ外物件ノ製造若ハ買入又ハ工事ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三十二條 國務大臣ハ特殊ノ經理ヲ必要トスル場合ニ限リ勅令ノ定ムル所ニ依リ各廳事務費ノ

全部又ハ一部ヲ主務官吏ニ對シ渡切ヲ以テ支給スルコトヲ得

第五章 決算

第二十三條 會計検査院ノ検査ヲ經テ政府ヨリ帝國議會ニ提出スル歳入歳出ノ總決算ハ翌年開會

ノ常會ニ於テ帝國議會ニ之ヲ提出スヘシ

第二十四條 總決算ハ總豫算ト同一ノ様式ヲ用キ左ノ事項ノ計算ヲ明記スヘシ

歳入ノ部

歳入豫算額

調定済歳入額

收入済歳入額

不納缺損額

收入未済歳入額

歳出ノ部

歳出豫算額

豫算決定後増加歳出額

支出済歳出額

翌年度繰越額

不用額

第二十五條 總決算ニハ會計検査院ノ検査報告ト俱ニ左ノ文書ヲ添附スヘシ

- 一 歳入決算明細書
- 二 各省決算報告書
- 三 國債計算書

第六草 歳計剩餘定額繰越過年度支出豫算外收入及定額戻入

第二十六條 各年度ニ於テ歳計ニ剩餘アルトキハ其ノ翌年度ノ歳入ニ繰入ルヘシ

第二十七條 豫算ニ於テ特ニ明許シタルモノ及一年度内ニ終ルヘキ工事製造又ハ物品ノ買入若ハ運搬ニシテ避クヘカラサル事故ノ爲ニ竣功又ハ納入若ハ運搬ヲ遅延シ年度内ニ其ノ經費ノ支出ヲ終ラサリシモノハ之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

第二十八條 數年ヲ期シテ竣功スヘキ工事製造其ノ他ノ事業ニシテ繼續費トシテ總額ヲ定メタルモノハ毎年度ノ支出殘額ヲ竣功年度迄遞次繰越シ使用スルコトヲ得

第二十九條 過年度ニ屬スル經費ハ現年度定額ヨリ支出スヘシ但シ豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキモノヲ除クノ外其ノ經費所屬年度ノ毎項定額中不用ト爲リタル金額ヲ超過スルコトヲ得ス

第三十條 出納ノ完結シタル年度ニ屬スル收入其ノ他豫算外ノ收入ハ總テ現年度ノ歳入ニ組入ルヘシ但シ支出濟歳出ノ返納金ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ各之ヲ支拂ヒタル經費ノ定額ニ戻入ルルコトヲ得

第七章 契約

第三十一條 政府ニ於テ賣買貸借請負其ノ他ノ契約ヲ爲サムトスルトキハ勅令ヲ以テ定メタル場合ヲ除クノ外總テ公告シテ競争ニ付スヘシ

國務大臣前項ノ方法ニ依リ契約ヲ爲スチ不利ト認ムル場合ニ於テハ指名競争ニ付シ又ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得但シ不動産賣拂ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第八章 時効

第三十二條 金錢ノ給付ヲ目的トスル政府ノ權利ニシテ時効ニ關シ他ノ法律ニ規定ナキトキハ五年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス政府ニ對スル權利ニシテ金錢ノ給付ヲ目的トスルモノニ付亦同シ

第三十三條 金錢ノ給付ヲ目的トスル政府ノ權利ニ付消滅時効ノ中斷停止其ノ他ノ事項ニ關シ適用スヘキ他ノ法律ノ規定ナキトキハ民法ノ規定ヲ準用ス政府ニ對スル權利ニシテ金錢ノ給付ヲ目的トスルモノニ付亦同シ

第三十四條 法令ノ規定ニ依リ政府ノ爲ス納入ノ告知ハ民法第五百十三條ノ規定ニ拘ラス時効中斷ノ效力ヲ有ス

第九章 出納官吏

第三十五條 出納官吏ハ法令ノ定ムル所ニ依リ現金又ハ物品ヲ出納保管スヘシ
 出納官吏ハ其ノ出納保管ニ係ル現金又ハ物品ニ付一切ノ責任ヲ負ヒ會計検査院ノ検査判決ヲ受
 クヘシ

第三十六條 出納官吏其ノ保管ニ係ル現金又ハ物品ヲ亡失毀損シタルトキハ善良ナル管理者ノ注
 意ヲ怠ラサリシコトヲ會計検査院ニ證明シ責任解除ノ判決ヲ受クルニ非サレハ其ノ亡失毀損ニ
 付辨償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

第三十七條 國務大臣ハ特ニ必要アル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ各廳ノ事務員ヲシテ現
 金又ハ物品ノ出納保管ヲ分掌セシムルコトヲ得

出納官吏ニ關スル規定ハ前項ノ事務員ニ付之ヲ準用ス

第三十八條 第十五條ニ定メタル小切手振出ノ職務ハ現金出納ノ職務ト相兼メルコトヲ得ス

第十章 雜 則

第三十九條 特別ノ須要ニ因リ本法ニ準據シ難キモノアルトキハ特別會計ヲ設置スルコトヲ得
 特別會計ヲ設置スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第四十條 政府ハ其ノ所有又ハ保管ニ係ル有價證券ノ取扱ヲ日本銀行ニ命スルコトヲ得

第四十一條 日本銀行ハ其ノ取扱ヒタル國庫金ノ出納、國債ノ發行ニ依ル收入金ノ收支、第十八
 條又ハ第二十條ノ規定ニ依リ交付ヲ受ケタル資金ノ收支及前條ノ規定ニ依リ取扱ヒタル有價證
 券ノ受拂ニ關シ會計検査院ノ検査ヲ受クヘシ

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

明治二十七年法律第十六號、明治三十三年法律第五十號及明治四十四年法律第二十四號ハ之ヲ廢
 止ス

本法施行前ニ爲シタル第二豫備金ノ支出並本法施行ノ日ノ屬スル年度ノ前年度及前々年度ノ決算
 ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

本法施行前ニ期滿免除ト爲ラサル權利ニ付テハ本法其ノ他ノ法律中時効ニ關スル規定ヲ適用ス但
 シ其ノ期間ノ起算點ニ付テハ從前ノ規定ニ依ル

本法施行前ニ進行ヲ始メタル期滿免除ノ期間カ本法其ノ他ノ法律ニ定メタル時効ノ期間ヨリ長キ
 トキハ從前ノ規定ニ依ル但シ其ノ殘期カ本法施行ノ日ヨリ起算シ本法其ノ他ノ法律ニ定メタル時
 効ノ期間ヨリ長キトキハ其ノ日ヨリ起算シテ本法其ノ他ノ法律ヲ適用ス

前三項ニ規定スルモノヲ除クノ外本法ノ施行ニ關シ必要ナル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

會計規則

大正十一年一月
勅令第一號

第一章 總 則

第一節 會計年度所屬區分

第一條 歳入ノ年度所屬ハ左ノ區分ニ依ル

- 一 納期ノ一定シタル收入ハ其ノ納期末日ノ屬スル年度
- 二 隨時ノ收入ニシテ納入ノ告知書ヲ發スルモノハ納入ノ告知書ヲ發シタル日ノ屬スル年度
- 三 隨時ノ收入ニシテ納入ノ告知書ヲ發セサルモノハ領收ヲ爲シタル日ノ屬スル年度

第二條 歳出ノ年度所屬ハ左ノ區分ニ依ル

- 一 國債ノ元利、年金、恩給ノ類ハ支拂期日ノ屬スル年度
- 二 諸拂戻金、缺損補填金、償還金ノ類ハ其ノ決定ヲ爲シタル日ノ屬スル年度
- 三 俸給、給料、手当、旅費、手数料ノ類ハ其ノ支給スヘキ事實ノ生シタル時ノ屬スル年度
- 四 使用料、保管料、電燈電力料ノ類ハ其ノ支拂ノ原因タル事實ノ存シタル期間ノ屬スル年度
- 五 工事製造費、物件ノ購入代價、運賃ノ類ハ其ノ支拂ヲ爲スヘキ日ノ屬スル年度
- 六 前各號ニ該當セサル費用ニシテ繰替拂ヲ爲シタルモノハ其ノ繰替拂ヲ爲シタル日ノ屬スル年度、其ノ他ノモノハ小切手ヲ振出シタル日ノ屬スル年度

第二節 國庫金ノ出納

第三條 日本銀行ハ本令ニ依ルノ外大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ國庫金出納ノ事務ヲ取扱フヘシ

日本銀行ニ於テ受入レタル國庫金ハ政府預金トシ其ノ種別及受拂ニ關スル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム

第四條 政府預金ニハ大藏大臣ノ特ニ定ムルモノ及政府ノ爲ニスル支拂ノ準備ニ必要ナル金額ヲ

除クノ外總テ相當ノ利子ヲ附セシム

第五條 毎年度所屬歳入金ヲ日本銀行ニ於テ受入ルルハ翌年度四月三十日限トス但シ左ニ掲クルノ場合ニ於テハ翌年度五月三十一日迄之ヲ受入ヲ爲スコトヲ得

- 一 出納官吏ヨリ其ノ領收シタル歳入金ノ拂込アリタルトキ
 - 二 市町村又ハ之ニ準スヘキモノヨリ其ノ收納シタル歳入金ノ送付アリタルトキ
 - 三 國庫内ニ於テ移換ニ依ル歳入金ノ受入ヲ爲ストキ
- 毎年度所屬歳出金ヲ日本銀行ニ於テ支拂フハ翌年度五月三十一日限トス

第二章 豫 算

第一節 總豫算

第六條 大藏大臣ハ歳入ノ景況ヲ調査シ各省ノ豫定經費要求書ニ基キ歳入歳出總豫算ヲ調製スヘ

總豫算ニハ歲計全體ニ關スル説明ヲ附スヘシ

第七條 歳入豫算ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シテ調製シ成ルヘク歳入ノ性質ヲ明ニスヘシ

第八條 歳出豫算ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シテ調製シ成ルヘク經費ノ目的ヲ明ニスヘシ

第九條 歳入歳出總豫算款項ノ區分ハ大藏大臣之ヲ定ム

第二節 歳入豫算明細書

第十條 大藏大臣ハ毎年度歳入ノ豫定高ヲ算定シ前年度ノ豫算額ト比較ヲ爲シ歳入豫算明細書ヲ調製スヘシ

歳入豫算明細書ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シ更ニ各項ノ金額ヲ各目ニ區分シ各項毎ニ増減ノ事由及計算ノ基ヲ示スヘシ

第二節 豫定經費要求書

第十一條 各省大臣ハ毎年度其ノ所管經費ノ豫定高ヲ算定シ前年度ノ豫算額ト比較ヲ爲シ豫定經費要求書ヲ調製シ前年度九月三十日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第十二條 各省ノ豫定經費要求書ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シ各項中所需ノ金額ヲ各目ニ區分シ必要ノ場合ニ於テハ更ニ之ヲ細分シ經費所要ノ理由及計算ノ基ヲ示スヘシ

目ノ區分ハ各省大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

第十三條 各省ノ豫定經費要求書ニハ各省所管經費全體ニ關スル説明及各款各項ノ説明ヲ附スヘシ

第四節 支拂豫算

第十四條 各省大臣ハ毎年度決定ノ豫算定額ニキ支出官毎ニ所要ノ費額ヲ定メ支拂豫算ヲ調製シ之ヲ大藏大臣及會計検査院ニ送付スヘシ

支拂豫算ハ各款各項ノ金額ヲ示スヘシ

第十五條 支拂豫算ヲ更定シタルトキハ其ノ計算書ヲ大藏大臣及會計検査院ニ送付スヘシ

第十六條 大藏大臣支拂豫算又ハ其ノ更定計算書ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ日本銀行ニ通知スヘシ

第五節 豫備金支出

第十七條 豫備金ハ大藏大臣之ヲ管理ス

第十八條 第一豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキ費途ハ毎年度豫メ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條 各省大臣第一豫備金ノ支出ヲ要スルトキハ金額、理由及計算ノ基ヲ明ニシタル要求書ヲ調製シ大藏大臣ノ承認ヲ經ヘシ

第二十條 大藏大臣第一豫備金ノ支出ヲ承認シタルトキハ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第二十一條 各省大臣第二豫備金ノ支出ヲ要スルトキハ金額、理由及計算ノ基ク所ヲ明ニシタル要求書ヲ調製シ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第二十二條 大藏大臣ハ前條ノ要求書ヲ調査シ意見ヲ附シテ勅裁ヲ請フヘシ

第二十三條 第二豫備金支出ノ勅裁アリタルトキハ大藏大臣ハ金額、理由及計算ノ基ク所ヲ明ニシタル書類ヲ添ヘ之ヲ會計検査院ニ通知シ且其ノ事項及金額ヲ官報ニ掲載スヘシ

第二十四條 第一豫備金ヲ以テ補充シタル金額ハ各省大臣其ノ計算書ヲ調製シ各費途毎ニ説明ヲ附シ翌年度八月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

大藏大臣ハ第一豫備金支出ノ總計算書ヲ調製シ之ニ説明ヲ附シ各省大臣ヨリ送付シタル豫備金支出ノ計算書ト共ニ帝國議會ニ提出スルノ手續ヲ爲スヘシ

第二十五條 第二豫備金ヲ以テ支辨シタル金額ハ各省大臣其ノ調書ヲ調製シ各費途毎ニ説明ヲ附シ毎年度帝國議會常會ノ開會後直ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

大藏大臣ハ第二豫備金支出ノ總調書ヲ調製シ之ニ説明ヲ附シ各省大臣ヨリ送付シタル豫備金支出ノ調書ト共ニ帝國議會ニ提出スルノ手續ヲ爲スヘシ

第六節 翌年度ニ互ル契約

第二十六條 各省大臣災害事變其ノ他避クヘカラサル事由ノ爲會計法第十一條第一項ノ規定ニ依リ翌年度ニ互ル契約ヲ結フノ必要アリト認ムルトキハ金額、理由及計算ノ基ク所ヲ明ニシタル

要求書ヲ調製シ大藏大臣ノ承認ヲ經ヘシ

第二十七條 大藏大臣前條ノ承認ヲ爲シタルトキハ金額、理由及計算ノ基ク所ヲ明ニシタル書類ヲ添ヘ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第三章 收 入

第一節 徵 收

第二十八條 歳入徵收官ハ法律又ハ勅令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外各省大臣ノ定ムル各廳ノ長ヲ以テ之ニ充ツ但シ各省大臣必要アリト認ムルトキハ大藏大臣ト協議シテ特例ヲ設クルコトヲ得

歳入徵收官必要アリト認ムルトキハ他ノ官吏ヲシテ其ノ徵收事務ノ一部ヲ分掌セシムルコトヲ得

第二十九條 支出濟ト爲リタル歳出ノ返納金ヲ歳入ニ組入レムトスル場合ニ於テハ該經費ヲ支出シタル支出官之カ歳入徵收官トシテ徵收ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十條 歳入徵收官租稅其ノ他ノ歳入ヲ徵收セムトスルトキハ法令ニ違フコトナキカ、所屬年度及歳入科目ヲ誤ルコトナキカヲ調査シ之ヲ決定スヘシ

第三十一條 歳入徵收官前條ノ決定ヲ爲シタルトキハ納人ニ對シ其ノ納付スヘキ金額、期日及場所ヲ記載シタル書面ヲ以テ納入ノ告知ヲ爲スヘシ但シ出納官吏又ハ出納員ニ即納セシムル場合ハ口頭ヲ以テ納入ノ告知ヲ爲スコトヲ得

第三十二條 納期ノ一定シタル收入ニシテ納期所屬ノ年度ニ於テ納入ノ告知書ヲ發セサルモノハ總テ納入ノ告知書ヲ發シタル年度ノ歳入ニ組入ルヘシ

第二節 收 納

第三十三條 出納官吏又ハ出納員租稅其ノ他ノ歳入金ヲ收納シタルトキハ領收證書ヲ納入ニ交付スヘシ此ノ場合ニ於テハ出納官吏收納濟ノ旨ヲ歳入徵收官ニ報告スヘシ

第三十四條 出納官吏又ハ出納員ノ收納シタル現金ハ出納官吏之ヲ日本銀行ニ拂込ムヘシ

第三十五條 日本銀行ニ於テ歳入金ヲ收納シ又ハ歳入金ノ拂込ヲ受ケタルトキハ領收證書ヲ納入又ハ拂込人ニ交付シ領收濟ノ旨ヲ歳入徵收官ニ報告スヘシ

第三十六條 毎年度所屬歳入金ヲ出納官吏又ハ出納員ニ於テ收納スルハ翌年度四月三十日限トス

第三節 報 告

第三十七條 歳入徵收官ハ毎月徵收報告書ヲ調製シ參照書類ヲ添ヘ之ヲ歳入事務管理廳ニ送付スヘシ

第三十八條 歳入事務管理廳ハ徵收報告書ニ依リ毎月徵收總報告書ヲ調製シ參照書類ヲ添ヘ其ノ翌月中ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第四章 支 出

第一節 總 則

第三十九條 勅令ヲ以テ指定シタル費途ニ對シテハ大藏大臣ノ承認ヲ經ルニ非サレハ之ニ他ノ費途ノ金額ヲ流用スルコトヲ得ス

大藏大臣前項ノ承認ヲ爲シタルトキハ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第四十條 豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキ費途及豫備金ヲ以テ支辨スル費途ノ金額ハ他ノ費途ニ流用スルコトヲ得ス

第四十一條 各省大臣他ノ官吏ヲシテ其ノ所管定額ノ支出ヲ爲サシメムトスルトキハ支拂豫算ヲ定メテ之ヲ委任スヘシ

第四十二條 支出官ニ事故アルトキハ各省大臣ハ臨時他ノ官吏ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシムルコトヲ得

第四十三條 本章ノ規定ハ商法中小切手ニ關スル規定ノ適用ヲ妨ケス

第二節 小切手ノ振出

第四十四條 支出官ハ小切手振出前其ノ經費ハ豫算ノ目的ニ違フコトナキカヲ調査シ該經費ノ金額ヲ算定シ且該經費ハ支拂豫算額ニ超過スルコトナキカ、所屬年度及支出科目ヲ誤ルコトナキ

カチ調査スヘシ

第四十五條 支出官ハ其ノ振出ス小切手ニ受取人ノ氏名、金額、年度、支出科目、番號其ノ他必要ナル事項ヲ記載スヘシ

第四十六條 小切手ハ一項毎ニ之ヲ振出スヘシ

第四十七條 支出官ノ振出ス小切手ハ大藏大臣ノ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外之ヲ記名式所持人拂ト爲スヘシ

第四十八條 文出官隔地ノ債主ニ支拂ヲ要スルトキハ支拂場所ヲ指定シ日本銀行ニ之カ資金ヲ交付シ其ノ旨ヲ債主ニ通知スヘシ

前項ノ規定ハ隔地ノ出納官吏ニ資金ヲ交付スル場合ニ之ヲ準用ス

第四十九條 支出官小切手ヲ振出シタルトキハ其ノ都度之ヲ日本銀行ニ通知スヘシ

第五十條 毎年度ニ屬スル經費ヲ精算シテ小切手ヲ振出スハ翌年度四月三十日限トス但シ國庫内ニ於ケル移換ノ爲ニスル支出又ハ會計法第十九條ノ規定ニ依リ歳出金ニ繰替使用シタル現金補填ノ爲ニスル支出ニ付テハ翌年度五月三十一日迄小切手ヲ振出スコトヲ得

第三節 支 拂

第五十一條 小切手ノ呈示アリタルトキハ日本銀行ハ其ノ小切手カ法令ニ違フコトナキカ、券面金額カ支拂豫算各項定額ノ殘高ニ超過スルコトナキカラ調査シ之カ支拂ヲ爲スヘシ

前項ノ小切手ニシテ其ノ振出日附ヨリ十日ヲ經過シタルモノト雖一年ヲ經過セサル場合ニ於テハ之カ支拂ヲ爲スヘシ

第五十二條 日本銀行第四十八條ノ規定ニ依リ資金ノ交付ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ小切手ノ振出日附ヨリ一年ヲ經過シタルトキハ債主又ハ出納官吏ニ對シ之カ支拂ヲ爲スコトヲ得ス

第五十三條 毎年度小切手振出濟金額中翌年度五月三十一日迄ニ支拂ヲ了セサル金額ニ相當スル資金ハ會計法第二十六條ノ歳計剩餘ニ組入レス之ヲ繰越整理スヘシ

第五十四條 前條ノ規定ニ依リ繰越シタル資金中小切手振出日附ヨリ一年ヲ經過シ未タ其ノ支拂ヲ了セサル金額ニ相當スルモノハ之ヲ其ノ期間滿了ノ日ノ屬スル年度ノ歳入ニ組入ルヘシ

前項ノ規定ハ日本銀行第五十二條ノ場合ニ於テ支拂ヲ了セサル金額ニ相當スル資金ノ返納ニ付之ヲ準用ス

第五十五條 支出官小切手ノ所持人ヨリ償還ノ請求ヲ受ケタル場合ニ於テハ之ヲ調査シ償還スヘキモノト認ムルトキハ事由ヲ具シ證據書類ヲ添ヘ之ヲ所管大臣ニ提出シ所管大臣ハ審査ノ上之カ支拂ヲ大藏大臣ニ請求スヘシ

第五十六條 前條ノ規定ハ支出官第五十二條ノ場合ニ於テ其ノ支拂ヲ受ケサル債主又ハ出納官吏ヨリ更ニ支拂ノ請求ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス

第四節 資金前渡、前金拂、概算拂及渡切經費

第五十七條 會計法第十七條ノ規定ニ依リ主任ノ官吏ヲシテ現金支拂ヲ爲サシムル爲其ノ資金ヲ當該官吏ニ前渡スルハ左ニ掲ケル經費ニ限ル

- 一 陸軍ノ軍隊、學校及病院並海軍ノ部隊、學校、病院及艦船ニ屬スル經費
- 二 陸海軍ノ行軍又ハ演習ニ要スル經費
- 三 陸軍ニ於テ馬匹又ハ糧秣ヲ生産者ヨリ直接購入スル場合ニ要スル經費
- 四 官船ニ屬スル經費
- 五 外國ニ於テ支拂ヲ爲ス經費
- 六 運輸通信ノ不便ナル地方ニ於テ支拂ヲ爲ス經費
- 七 廳中常用ノ雜費及旅費但シ一年ノ總額五千圓ヲ超ユルコトヲ得ス
- 八 場所ノ一定セサル事務所ノ經費
- 九 各屬直營ノ工事、製造又ハ造林ニ要スル經費但シ一主任官ニ付常時五萬圓ヲ超ユルコトヲ得ス

十 監獄作業賞與金

十一 囚人及刑事被告人押送費

十二 證人、鑑定人、通事又ハ參考人ニ支給スル旅費其ノ他ノ給與

第五十八條 前條ノ規定ニ依リ資金ヲ前渡スルハ左ノ區分ニ依ル

- 一 常時ノ費用ニ係ルモノハ每一月分以内ノ費額ヲ豫定シテ交付スヘシ但シ外國ニ於テ支拂ヲ

爲ス經費、運輸通信ノ不便ナル地方ニ於テ支拂ヲ爲ス經費又ハ支拂場所ノ一定セサル經費ハ事務ノ必要ニ依リ六月分以内ヲ交付スルコトヲ得

二 隨時ノ費用ニ係ルモノハ所要ノ費額ヲ豫定シ事務上差支ナキ限り成ルヘク分割シテ交付スヘシ

第五十九條 會計法第二十一條ノ規定ニ依リ前金拂ヲ爲シ得ルハ左ニ掲ケル經費ニ限ル但シ第九

號乃至第十三號ニ掲ケル經費ニ付テハ所管大臣大藏大臣ト協議スルコトヲ要ス

- 一 軍艦、兵器又ハ彈藥ノ代價
- 二 外國ヨリ直接購入スル機械又ハ圖書ノ代價
- 三 朝鮮、臺灣、樺太、關東州又ハ南洋群島内ニ居住スル者ニ支給スル徴兵旅費
- 四 運賃
- 五 外國ニ於テ支拂ヲ要スル土地又ハ家屋ノ借料及公課
- 六 政府ノ買収又ハ收用ニ係ル土地ノ上ニ存スル物件ノ移轉料
- 七 官公署ニ對シ支拂フヘキ經費
- 八 外國ニ於テ研究又ハ調査ニ從事スル者ニ支給スル學資金其ノ他ノ給與
- 九 交通至難ノ場所ニ勤務スル者又ハ艦船乗組ノ者ニ支給スル俸給其ノ他ノ給與
- 十 軍人、軍屬及陸海軍ノ職工ニ支給スル旅費
- 十一 外國在勤陸海軍武官ニ支給スル俸給其ノ他ノ給與

十二 補助金
十三 諸謝金

第六十條 會計法第二十一條ノ規定ニ依リ概算拂ヲ爲シ得ルハ左ニ掲グルル經費ニ限ル但シ第三號ニ掲グルル經費ニ付テハ所管大臣大藏大臣ト協議スルコトヲ要ス

- 一 旅費
- 二 官公署ニ對シ支拂フヘキ經費
- 三 補助金又ハ補給金

第六十一條 會計法第二十二條ノ規定ニ依リ事務費ノ全部又ハ一部ヲ主務官吏ニ對シ渡切ヲ以テ支給シ得ルハ左ニ掲グルル官署ノ經費ニ限ル

- 一 在外各廳
 - 二 遞信官署
 - 三 區裁判所出張所
 - 四 朝鮮、臺灣、樺太、關東州及南洋群島ニ於ケル官署
- 前項ノ官署ノ種類、渡切ト爲スヘキ歳出科目及支給方法ハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

第五節 繰替拂

第六十二條 各省大臣ハ左ニ掲グルル經費ノ支拂ヲ爲サシムル爲出納官吏ヲシテ其ノ保管ニ係ル前渡ノ資金ヲ繰替使用セシムルコトヲ得但シ第四號ニ掲グルル經費ニ繰替使用スヘキ資金ハ艦船經費繰替金ニ限ル

- 一 旅費
- 二 埋葬費
- 三 在外公館ニ於ケル難民貸與金
- 四 海軍省所管艦船經費

第六十三條 所管大臣ハ左ニ掲グルル官署ノ出納官吏又ハ出納員ヲシテ其ノ取扱ニ係ル歳入金、歳出金及歳入歳出外現金ヲ交互ニ繰替使用セシムルコトヲ得

- 一 鐵道官署
 - 二 遞信官署
- 前項ノ規定ニ依ル現金ノ繰替使用ニ關スル手續ハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

第六節 年度開始前支出

第六十四條 各省大臣ハ資金前渡ヲ爲シ得ル經費ニ限り必要已ムヲ得サル場合ニ於テハ當該年度開始前之カ資金ヲ交付スルコトヲ得

第六十五條 前條ノ場合ニ於テハ各省大臣其ノ前渡ヲ要スル經費ヲ算定シ計算書ヲ調製シ之ヲ大

藏大臣及會計検査院ニ送付スヘシ
大藏大臣前項ノ計算書ノ送付ヲ受ケタルトキハ審査ノ上之ヲ日本銀行ニ通知スヘシ

第七節 報 告

第六十六條 支出官ハ毎月支出濟額報告書ヲ調製シ之ヲ所管大臣ニ送付スヘシ
第六十七條 所管大臣ハ支出濟額報告書ニ依リ毎月支出總報告書ヲ調製シ支出濟報告書ヲ添ヘ其ノ翌月中ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第五章 決 算

第一節 總 決 算

第六十八條 歳入歳出總決算ハ總豫算ト同一ノ区分ニ依リ大藏大臣之ヲ調製スヘシ
第六十九條 大藏大臣ハ總決算ニ歳入決算明細書、各省決算報告書及國債計算書ヲ添ヘ會計検査院ニ送付ノ手續ヲ爲スヘシ

第二節 歳入決算明細書、各省決算報告書及

收入支出計算書

第七十條 大藏大臣ハ歳入豫算明細書ト同一ノ区分ニ依リ歳入決算明細書ヲ調製シ各項毎ニ豫算

ニ對スル増減ノ事由ヲ説明スヘシ

第七十一條 歳入事務管理廳ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ毎年度收入濟歳入額ニ付豫算ニ對スル増減計算書ヲ調製シ翌年度七月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第七十二條 各省大臣ハ各省豫定經費要求書ト同一ノ区分ニ依リ其ノ省所管ニ屬スル經費ノ決算報告書ヲ調製シ翌年度七月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第七十三條 歳入徴收官ハ會計検査院ニ證明ノ爲歳入徴收額計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ其ノ歳入事務管理廳ニ送付シ歳入事務管理廳ハ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第七十四條 支出官ハ會計検査院ニ證明ノ爲支出計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ其ノ所管大臣ニ送付シ所管大臣ハ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第七十五條 前二條ノ計算書ハ歳入事務管理廳又ハ所管大臣ヨリ特ニ委任ヲ受ケタル官吏ヲシテ直ニ之ヲ會計検査院ニ送付セシムルコトヲ得

第三節 國債計算書

第七十六條 國債計算書ハ大藏大臣之ヲ調製スヘシ

第七十七條 國債計算書ニハ左ニ掲クル事項ヲ示スヘシ

- 一 當該年度末日ニ於ケル國債ノ種類及現在高ヲ示ス計算
- 二 當該年度ニ於テ償還シ及支拂ヒタル各種國債ノ元高及利息ノ計算

三 最近五年度間ニ於ケル各種國債増減ノ情況ヲ示ス計算

第六章 定額繰越及定額戻入

第一節 定額繰越

第七十八條 各省大臣會計法第二十七條及第二十八條ノ規定ニ依リ定額ノ繰越ヲ要スルトキハ翌年度四月三十日迄ニ繰越計算書ヲ調製シ各事件毎ニ其ノ事由ヲ示シ大藏大臣ノ承認ヲ求ムヘシ
繰越計算書ハ歳出豫算ト同一ノ區分ニ依リ調製シ左ニ掲クル事項ヲ示スヘシ

- 一 繰越ヲ要スル項ノ定額
- 二 定額中支出済ト爲リタル額及當該年度所屬トシテ支出スヘキ額
- 三 定額中翌年度ニ繰越ヲ要スル額
- 四 定額中不用ト爲ルヘキ額

第七十九條 會計法第二十七條ノ規定ニ依リ繰越ヲ爲サムトスルトキハ豫算ニ於テ明許シタル場合ヲ除クノ外前條ノ繰越計算書ニ契約書ノ寫其ノ他ノ參照書類ヲ添附スヘシ

第八十條 大藏大臣各省定額ノ繰越ヲ承認シタルトキハ繰越計算書ノ寫ヲ添ヘ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第二節 定額戻入

第八十一條 支出済ト爲リタル歳出ノ返納金ハ其ノ支拂ヒタル經費ノ定額ニ之ヲ戻入ルルコトヲ得但シ重大ナル過失ニ因リ誤拂過渡ト爲リタル金額ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第八十二條 支出官前條ノ規定ニ依リ定額ニ戻入レムトスルトキハ返納人ヲシテ其ノ金額ヲ返納セシムヘシ

第八十三條 日本銀行ニ於テ前條ノ返納金ヲ領收シタルトキハ之ニ相當スル金額ヲ支拂豫算定額ニ戻入ノ記帳ヲ爲シ其ノ旨ヲ支出官ニ通知スヘシ

第八十四條 毎年度ニ屬スル定額戻入ヲ爲スハ翌年度四月三十日限トス

第七章 契約

第一節 總則

第八十五條 各省大臣又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏契約ヲ爲サムトスルトキハ契約ノ目的、履行期限、保證金額、契約違反ノ場合ニ於ケル保證金ノ處分、危險ノ負擔其ノ他必要ナル事項ヲ詳細ニ記載シタル契約書ヲ作成スヘシ

第八十六條 契約書ニハ當該官吏記名捺印スルコトヲ要ス

第八十七條 各省大臣ハ左ニ掲クル場合ニ於テハ第八十五條ニ規定スル契約書ノ作成ヲ省略スルコトヲ得但シ第五號ノ場合ニ於テハ大藏大臣ト協議スルコトヲ要ス

- 一 三千圓ヲ超エサル指名競争契約又ハ隨意契約ヲ爲ストキ

二 外國ニ於テ五千圓ヲ超エサル指名競争契約又ハ隨意契約ヲ爲ストキ
三 糶賣ニ付スルトキ

四 物品賣拂ノ場合ニ於テ買受人直ニ代金ヲ納付シ其ノ物品ヲ引取ルトキ

五 第一號及第二號以外ノ隨意契約ニ付各省大臣契約書ヲ作成スルノ必要ナシト認ムルトキ

第八十八條 政府ト契約ヲ結ハムトスル者ハ現金又ハ國債ヲ以テ契約金額百分ノ十以上ノ保證金ヲ納ムヘシ

指名競争ニ付シ又ハ隨意契約ニ依ル場合ニ於テハ各省大臣ハ保證金ノ全部又ハ一部ヲ免除スルコトヲ得前條第三號及第四號ノ場合亦同シ

第八十九條 契約者其ノ義務ヲ履行セサルトキハ契約ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外保證金ハ政府ノ所得トス

第九十條 政府ニ屬スル財産ノ賣拂ヲ爲ストキハ法律勅令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外其ノ引渡前又ハ移轉ノ登記若ハ登錄前其ノ代金ヲ完納セシムヘシ

第九十一條 財産ノ貸付料ハ法律勅令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外之ヲ前納セシムヘシ但シ貸付期間ノ長期ニ涉ルモノニ付テハ毎年定期ニ之ヲ納付セシムルコトヲ得

第九十二條 各省大臣三千圓ヲ超ユル工事、製造又ハ物件ノ買入ニ付テハ竣功又ハ完納ノ後之ヲ監督又ハ検査シタル官吏又ハ技術者ヲシテ其ノ調書ヲ作成セシムヘシ

契約ニ依リ工事若ハ製造ノ既濟部分又ハ物件ノ既納部分ニ對シ完濟前又ハ完納前ニ代價ノ一部

分ヲ支拂ハムトスルトキハ各省大臣ハ特ニ検査ノ官吏又ハ技術者ヲ命シ事實ヲ調定シテ其ノ調書ヲ作成セシムヘシ

前各項ノ調書ニ依ルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス

第九十三條 前條第二項ノ支拂ヲ爲サムトスルトキハ工事又ハ製造ニ付テハ其ノ既濟部分ニ對スル代價ノ十分ノ九、物件ノ買入ニ付テハ其ノ既納部分ニ對スル代價ヲ超ユルコトヲ得ス但シ箇々ニ分立シ得ヘキ性質ノ工事又ハ製造ニ於ケル各箇ノ完濟部分ニ對シテハ其ノ代價ノ全額迄ヲ支拂フコトヲ得

第九十四條 前二條ノ規定ハ工事又ハ製造以外ノ請負契約ノ全部又ハ一部ノ履行ニ對シ支拂ヲ爲サムトスル場合ニ之ヲ準用ス

第九十五條 本章ニ定ムルモノノ外契約ニ關シ必要ナル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム

第二節 一般競争契約

第九十六條 一般ノ競争ニ加ラムトスル者ニ必要ナル資格ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依ル

第九十七條 各省大臣ハ左ノ各號ノ一ニ該當スト認メタル者ヲ爾後二年間競争ニ加ラシメサルコトヲ得之ヲ代理人、支配人、番頭、手代又ハ技術者トシテ使用シタル者亦同シ

一 契約ヲ履行スルニ當リ故意ニ工事、製造又ハ物件ヲ粗雑ニシ又ハ其ノ品質數量ニ關シ欺罔ノ行爲アリタル者

- 二 競争ニ際シ不當ニ價格ヲ競上ケ又ハ競下クル目的ヲ以テ連合ヲ爲シタル者
 - 三 競争ノ加入ヲ妨害シ又ハ競落者ノ契約締結若ハ契約ノ履行ヲ妨害シタル者
 - 四 検査監督ニ際シ掛員ノ職務執行ヲ妨ケタル者
 - 五 正當ノ理由ナクシテ契約ヲ履行セサリシ者
 - 六 前各號ノ一ニ該當スト認メラレタル後二年ヲ經過セサル者ヲ契約ニ際シ代理人、支配人、番頭、手代又ハ技術者トシテ使用スル者
- 第九十八條 各省大臣ハ前條ノ規定ニ該當スル者ヲ入札代理人トシテ使用スル者ヲ競争ニ加ラシメサルコトヲ得

- 第九十九條 競争ニ加ラムトスル者ハ現金又ハ國債ヲ以テ見積金額百分ノ五以上ノ保證金ヲ納ムヘシ
- 第一百條 競落者契約ヲ結ハサルトキハ保證金ハ政府ノ所得トス
- 第一百一條 競争ハ第九九條ニ規定スル場合ヲ除クノ外總テ入札ノ方法ヲ以テ之ヲ行フヘシ
- 第一百二條 入札ノ方法ニ依リ競争ニ付セムトスルトキハ其ノ入札期日ノ前日ヨリ起算シ少クトモ十日前ニ官報、新聞紙、揭示其ノ他ノ方法ヲ以テ公告スヘシ但シ急ヲ要スル場合ニ於テハ其ノ期間ヲ五日迄ニ短縮スルコトヲ得
- 第一百三條 前條ノ公告ニハ左ニ掲グル事項ヲ示スヘシ

一 競争入札ニ付スル事項

- 二 契約條項ヲ示ス場所
- 三 競争執行ノ場所及日時
- 四 入札ノ保證金額
- 第五四條 各省大臣又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏ハ其ノ競争入札ニ付スル事項ノ價格ヲ豫定シ其ノ豫定價格ヲ封書トシ開札ノトキ之ヲ開札場所ニ置クヘシ
- 第五五條 開札ハ公告ニ示シタル場所、日時ニ入札者ノ面前ニ於テ之ヲ行フヘシ但シ入札者ニシテ出席セサル者アルトキハ入札ニ關係ナキ官吏ヲシテ開札ニ立會ハシムヘシ
- 入札者ハ一旦提出シタル入札書ノ引換、變更又ハ取消ヲ爲スコトヲ得ス
- 競争加入ノ資格ナキ者ノ爲シタル入札又ハ入札ニ關スル條件ニ違反シタル入札ハ無効トス
- 第六六條 開札ノ場合ニ於テ各人ノ入札中第四百四條ノ規定ニ依リ豫定シタル價格ノ制限ニ達シタルモノナキトキハ直ニ再度ノ入札ヲ爲サシムルコトヲ得
- 第六七條 落札ト爲ルヘキ同價ノ入札ヲ爲シタル者二人以上アルトキハ直ニ抽籤ヲ以テ落札者ヲ定ムヘシ
- 前項ノ場合ニ於テ當該入札者中出席セサル者又ハ抽籤ヲ爲ササル者アルトキハ入札ニ關係ナキ官吏ヲシテ之ニ代リ抽籤ヲ爲サシムヘシ
- 第六八條 入札者若ハ落札者ナキ場合又ハ落札者契約ヲ結ハサル場合ニ於テ更ニ入札ニ付セムトスルトキハ第九九條ノ期間ハ五日迄ニ之ヲ短縮スルコトヲ得

第九九條 各省大臣動産ノ賣拂ニ付特別ノ事由ニ因リ必要アリト認ムル場合ニ於テハ大藏大臣ト協議シ本節ノ規定ニ準シ賣拂ニ付スルコトヲ得

第三節 指名競争契約

第一百十條 會計法第三十一條第二項ノ規定ニ依ルノ外左ニ掲クル場合ニ於テハ指名競争ニ付スルコトヲ得

- 一 契約ノ性質又ハ目的ニ依リ競争ニ加ルヘキ者少數ニシテ一般ノ競争ニ付スルノ必要ナキトキ
 - 二 一萬圓ヲ超エサル工事若ハ製造ヲ爲サシメ又ハ五千圓ヲ超エサル財産ノ買入ヲ爲ストキ
 - 三 貸借料年額又ハ總額三千圓ヲ超エサル物件ノ借入ヲ爲ストキ
 - 四 豫定貸借料年額又ハ總額千圓ヲ超エサル物件ノ貸付ヲ爲ストキ
 - 五 豫定代價二千圓ヲ超エサル財産ノ賣拂ヲ爲ストキ
 - 六 前四號以外ノ契約ニシテ其ノ金額四千圓ヲ超エサルトキ
- 隨意契約ニ依ルコトヲ得ヘキ場合ニ於テハ指名競争ニ付スルコトヲ妨ケス
- 第一百十一條 指名競争ニ付セムトスルトキハ成ルヘク五人以上ノ入札者ヲ指定スヘシ
- 前項ノ場合ニ於テハ第三百三條ニ規定シタル事項ヲ各入札者ニ通知スヘシ
- 第一百十二條 各省大臣會計法第三十一條第二項ノ規定ニ依リ指名競争ニ付シテ契約ヲ結ビタルト

キハ事由ヲ詳具シ直ニ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ
第九十七條 第九十七條乃至第一百一條、第一百四條乃至第一百七條ノ規定ハ指名競争契約ノ場合ニ之ヲ準用ス

各省大臣必要ナシト認ムル場合ニ於テハ第九十九條ノ保證金ハ之ヲ免除スルコトヲ得

第四節 隨意契約

第一百十四條 會計法第三十一條第二項ノ規定ニ依ルノ外左ニ掲クル場合ニ於テハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

- 一 契約ノ性質又ハ目的カ競争ヲ許ササルトキ
- 二 急迫ノ際競争ニ付スルノ暇ナキトキ
- 三 政府ノ行爲ヲ秘密ニスルノ必要アルトキ
- 四 五千圓ヲ超エサル工事若ハ製造ヲ爲サシメ又ハ三千圓ヲ超エサル財産ノ買入ヲ爲ストキ
- 五 貸借料年額又ハ總額千五百圓ヲ超エサル物件ノ借入ヲ爲ストキ
- 六 豫定貸借料年額又ハ總額五百圓ヲ超エサル物件ノ貸付ヲ爲ストキ
- 七 豫定代價千圓ヲ超エサル財産ノ賣拂ヲ爲ストキ
- 八 前四號以外ノ契約ニシテ其ノ金額二千圓ヲ超エサルトキ
- 九 勞力ノ供給ヲ請負ハシムルトキ

十 運送又ハ保管ヲ爲サシムルトキ

十一 官廳相互間ニ於テ契約ヲ爲ストキ

十二 農工場、學校、試験所、監獄其ノ他之ニ準スヘキモノノ生産又ハ製造ニ係ル物品ノ賣拂

十三 法律勅令ノ規定ニ依リ財産ノ讓與又ハ無償貸付ヲ爲シ得ル者ニ其ノ財産ノ賣拂又ハ貸付

十四 非常災害アリタル場合ニ於テ罹災者ニ政府ノ生産ニ係ル建築材料ノ賣拂ヲ爲ストキ

十五 外國ニ於テ契約ヲ爲ストキ

十六 道府縣市町村其ノ他ノ公法人、公益法人、産業組合又ハ慈善ノ爲ニ設立シタル教育所ヨ

リ直接ニ物件ノ買入又ハ借入ヲ爲ストキ

十七 移住地域内ニ於ケル土木工事ヲ其ノ移住民ノ共同請負ニ付スルトキ

十八 學術又ハ技藝ノ保護獎勵ノ爲之ニ必要ナル物件ノ賣拂又ハ貸付ヲ爲ストキ

十九 産業又ハ拓殖事業ノ保護獎勵ノ爲之ニ必要ナル物件ノ賣拂若ハ貸付ヲ爲ストキ又ハ生産

者ヨリ直接ニ其ノ生産若ハ製造ニ係ル物品ノ買入ヲ爲ストキ

二十 公共用、公用又ハ公益事業ニ供スル爲必要ナル物件ヲ直接ニ公共團體又ハ起業者ニ賣拂

又ハ貸付ヲ爲ストキ

二十一 土地、建物、林野又ハ其ノ產物ヲ之ニ特別ノ緣故アル者ニ賣拂又ハ貸付ヲ爲ストキ

二十二 事業經營上特ニ必要ナル物品ノ買入ヲ爲シ若ハ製造ヲ爲サシメ又ハ土地建物ノ借入ヲ

爲ストキ

二十三 法律勅令ノ規定ニ依リ問屋業者ニ販賣ヲ委託スルトキ又ハ之ヲシテ販賣ヲ爲サシムル

トキ

前項第十九號乃至第二十三號ノ場合ニ於テハ所管大臣豫メ大藏大臣ト協議スルコトヲ要ス

前項ノ協議ヲ遂ケタルトキハ大藏大臣直ニ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第一百十五條 競争ニ付スルモノ入札者ナキトキ又ハ再度ノ入札ニ付スルモノ落札者ナキトキハ隨意契

約ニ依ルコトヲ得但シ保證金及期限ヲ除クノ外最初競争ニ付スルトキ定メタル價格其ノ他ノ條

件ヲ變更スルコトヲ得ス

第一百十六條 落札者契約ヲ結ハサルトキハ其ノ落札金額ノ制限内ニ於テ隨意契約ニ依ルコトヲ得

但シ期限ヲ除クノ外最初競争ニ付スルトキ定メタル條件ヲ變更スルコトヲ得ス

第一百十七條 前二條ノ場合ニ於テ豫定價格又ハ落札金額ヲ分割計算シ得ル場合ニ限り該價格又ハ

金額ノ制限内ニ於テ各目的ニ付之ヲ數人ニ分割シテ契約ヲ爲スコトヲ妨ケス

第一百十八條 隨意契約ニ依ラムトスルトキハ成ルヘク二人以上ヨリ見積書ヲ徴スヘシ

第一百十九條 各省大臣會計法第三十一條第二項ノ規定ニ依リ隨意契約ニ依リタル場合ニ於テハ事

由ヲ詳具シ直ニ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第八章 保管金及有價證券

第二百十條 政府ハ法律勅令ノ規定ニ依ルニ非サレハ公有又ハ私有ノ現金又ハ有價證券ヲ保管セ
 第二百十一條 政府ノ保管ニ係ル現金ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ之ヲ大藏省預金部ニ預入ルヘ
 第二百十二條 政府ノ所有又ハ保管ニ係ル有價證券ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ日本銀行ヲシテ
 之カ取扱ヲ爲サシム
 第二百十三條 政府ノ保管ニ係ル現金又ハ政府ノ所有若ハ保管ニ係ル有價證券ノ取扱手續ニ關シ
 テハ法律勅令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外大藏大臣之ヲ定ム

第九章 出納官吏

第一節 總 則

第二百二十四條 本令ニ於テ出納官吏ト稱スルハ現金ノ出納保管ヲ掌ル官吏ヲ謂フ
 第二百二十五條 出納官吏ハ各省大臣又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏之ヲ命ス
 第二百二十六條 各省大臣又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏必要アリト認ムルトキハ出納官吏ノ代理官
 又ハ分任官ヲ置クコトヲ得

前項ノ代理官ハ出納官吏ノ事務ノ全部ヲ代理シ分任官ハ其ノ一部ヲ分掌スルモノトス
 第二百二十七條 所管大臣ハ會計法第三十七條ノ規定ニ依リ左ニ掲クル官署ノ事務員ヲシテ現金ノ
 出納保管ニ關スル事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

一 鐵道官署

二 遞信官署

前項ノ外特別ノ必要アル場合ニ於テハ各省大臣大藏大臣ト協議シ其ノ聽ノ事務員ヲシテ現金ノ
 出納保管ニ關スル事務ヲ分掌セシムルコトヲ得
 第二百二十八條 前條ノ規定ニ依リ現金ノ出納保管ニ關スル事務ノ分掌ヲ命セラレタル事務員ハ主
 任出納官吏又ハ分任出納官吏所屬ノ出納員トシテ其ノ事務ヲ取扱フヘシ
 第二百二十九條 出納員ノ領收シタル現金ハ之ヲ所屬出納官吏ニ拂込ムヘシ但シ所管大臣ニ於テ必
 要アリト認ムルトキハ他ノ出納官吏又ハ出納員ニ交付セシムルコトヲ得
 第二百三十條 出納官吏又ハ出納員其ノ保管ニ屬スル現金ヲ亡失シ又ハ其ノ行爲ニ因リ政府ニ損失
 ヲ生セシメタル場合ニ於テハ所管大臣ハ遲滯ナク之ヲ大藏大臣及會計検査院ニ通知スヘシ
 第二百三十一條 出納官吏及出納員ハ本令ニ定ムルモノヲ除クノ外大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ現金
 ノ出納保管ヲ爲スヘシ

第二節 責 任

第三百二十二條 出納官吏ハ其ノ責任ニ屬スル現金ノ出納保管ニ付單ニ自ラ事務ヲ執ラサルコトヲ理由トシテ其ノ責任ヲ免ルルコトヲ得ス但シ其ノ代理官、分任官又ハ所屬出納員ノ行爲ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ出納員ノ責任ニ付之ヲ準用ス
第三百二十三條 代理出納官吏、分任出納官吏又ハ出納員ハ其ノ行爲ニ付會計法(第三十五條)ノ責任ヲ免ルルコトヲ得ス

第三百二十四條 各省大臣ハ出納官吏又ハ出納員ノ行爲ニ因リ政府ニ損失ヲ生セシメタリト認ムル場合ニ於テハ會計検査院ノ判決前ト雖其ノ出納官吏又ハ出納員ニ對シ辨償ヲ命スルコトヲ得
第三百二十五條 前條ノ場合ニ於テ其ノ辨償ヲ命セラレタル出納官吏又ハ出納員其ノ責ヲ免ルヘキ理由アリト信スルトキハ計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ所管大臣ヲ經由シテ之ヲ會計検査院ニ送付シ其ノ判決ヲ求ムルコトヲ得

所管大臣ハ前項ノ場合ト雖其ノ命シタル損失金ノ辨償ヲ猶豫セス其ノ職ノ事務員モ其ノ責任ノ會計検査院ニ於テ出納官吏又ハ出納員ニ對シ辨償ノ責ナシト判決シタルトキハ其ノ既納ニ係ル辨償金ハ直ニ之ヲ還付スヘシ

第三節 検査及證明

第三百二十六條 出納官吏ノ帳簿金櫃ハ毎年三月三十一日又ハ轉免、死亡、退職其ノ他異動アリタ

ルトキ所管大臣検査員ヲ命シテ之ヲ検査セシムヘシ但シ臨時ニ資金ノ前渡ヲ受ケタル官吏ノ帳簿金櫃ハ定期ノ検査ヲ要セス

大藏大臣又ハ各省大臣必要アリト認ムルトキハ臨時ニ検査員ヲ命シテ出納官吏又ハ出納員ノ帳簿金櫃ヲ検査セシムヘシ

第三百二十七條 前條ノ検査ヲ執行スルニ當リ當該出納官吏又ハ出納員事故ニ因リ自ラ検査ヲ受ケルコト能ハサルトキハ其ノ代理者又ハ特ニ所管大臣ノ命シタル官吏ニ於テ立會ヲ爲スヘシ

第三百二十八條 出納官吏又ハ出納員ノ帳簿金櫃ヲ検査シタルトキハ檢定書二通ヲ作成シ検査員及當該出納官吏、出納員又ハ立會人ニ記名捺印シ一通ハ當該出納官吏、出納員又ハ立會人ニ交付シ一通ハ所管大臣ニ提出スヘシ

第三百二十九條 出納官吏又ハ出納員他ノ公金ノ出納ヲ兼掌スルトキハ金櫃ノ検査ヲ執行スル者ハ併セテ他ノ公金ノ検査ヲ行フヘシ

第三百四十條 租稅其ノ他ノ歳入金ノ收納ヲ掌ル官吏ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲出納計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ歳入徵收官ヲ經由シテ之ヲ會計検査院ニ提出スヘシ

第三百四十一條 資金ノ前渡ヲ受ケタル官吏ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲出納計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ支出官ヲ經由シテ之ヲ會計検査院ニ提出スヘシ

第三百四十二條 歳入歳出外現金ノ出納ヲ掌ル官吏ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲出納計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ所管大臣又ハ其ノ指定シタル官吏ヲ經由シテ之ヲ會計検査院ニ提出ス

ヘシ

第四百十三條 第六十三條ノ規定ニ依リ現金ノ繰替使用ヲ爲ス官吏ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲出納計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ所管大臣又ハ其ノ指定シタル官吏ヲ經由シテ之ヲ會計検査院ニ提出スヘシ

第四百十四條 分任出納官吏ノ出納ハ總テ主任出納官吏ノ計算トシ出納員ノ出納ハ總テ所屬出納官吏ノ計算トシテ取扱ヒ其ノ報告書及計算書ハ各別ニ提出スルコトヲ要セス但シ所管大臣又ハ會計検査院ニ於テ必要アリト認ムルトキハ特ニ分任出納官吏又ハ出納員ヲシテ報告書又ハ計算書ヲ提出セシムルコトアルヘシ

第四百十五條 出納官吏交替シタルトキハ其ノ在職期間ニ執行シタル出納ノ計算書ヲ調製シ第四百四十條乃至第四百十三條ノ手續ヲ爲スヘシ

第四百十六條 出納官吏又ハ出納員死亡其ノ他ノ事故ニ因リ自ラ計算書ヲ調製スルコト能ハサルトキハ所管大臣ノ命シタル官吏ヲシテ之ヲ調製セシムヘシ
出納官吏又ハ出納員定期内ニ計算書ヲ送付セサルトキハ所管大臣ハ他ノ官吏ニ命シテ之ヲ調製セシムヘシ

前二項ノ規定ニ依リ調製シタル計算書ハ出納官吏又ハ出納員ノ自ラ調製シタルモノト看做シ會計検査院ニ於テ検査判決ヲ爲スヘシ

第四百十七條 出納官吏又ハ出納員ノ計算書ハ提出ノ後修正變更スルコトヲ得ス

第十章 日本銀行ノ計算報告及出納證明

第四百十八條 日本銀行ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ國庫金ノ出納報告書ヲ大藏大臣ニ提出スヘシ

第四百十九條 日本銀行ハ會計検査院ノ検査ヲ受クル爲國庫金ノ出納計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

日本銀行ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ國債ノ發行ニ依ル收入金、國債元利拂資金及隔地者拂資金ノ收支ヲ整理シ之ヲ前項ノ計算書ニ掲記スヘシ

大藏大臣ハ第一項ノ計算書ヲ調査シ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ
第四百二十條 日本銀行ハ會計検査院ノ検査ヲ受クル爲政府ノ所有又ハ保管ニ係ル有價證券受拂計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

大藏大臣ハ前項ノ計算書ヲ調査シ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ
第四百二十一條 政府ノ爲ニ取扱フ現金又ハ有價證券ノ出納保管ニ關シ政府ニ損害ヲ與ヘタル場合ニ於ケル日本銀行ノ賠償責任ニ付テハ民法及商法ニ依ル

第十一章 帳簿

第四百二十二條 大藏省ハ日記簿、原簿及補助簿ヲ備ヘ國庫金ノ出納ヲ登記スヘシ

第一百五十三條 大藏省ハ歳入歳出ノ主計簿ヲ備ヘ歳入主計簿ニハ歳入ノ豫算額、調定濟額、收入

濟額、不納缺損額及收入未濟額ヲ登記シ歳出主計簿ニハ歳出ノ豫算額、豫算決定後増加額、支

出濟額、翌年度繰越額及殘額ヲ登記スヘシ

第一百五十四條 歳入徴收官ハ徴收簿ヲ備ヘ歳入ノ調定濟額、收入濟額、不納缺損額及收入未濟額

ヲ登記スヘシ

第一百五十五條 歳入事務管理廳ハ歳入簿ヲ備ヘ歳入ノ豫算額、調定濟額、收入濟額、不納缺損額

及收入未濟額ヲ登記スヘシ

第一百五十六條 支出官ハ支出簿ヲ備ヘ歳出ノ支拂豫算額、支出濟額及支拂豫算殘額ヲ登記スヘシ

第一百五十七條 各省ハ歳出簿ヲ備ヘ歳出ノ豫算額、豫算決定後増加額、支出濟額、翌年度繰越額

及殘額ヲ登記スヘシ

第一百五十八條 出納官吏及出納員ハ現金出納簿ヲ備ヘ現金ノ出納ヲ登記スヘシ

第一百五十九條 前七條ニ規定スル帳簿ノ様式及記入ノ方法ハ大藏大臣之ヲ定ム

第一百六十條 日本銀行ハ左ニ掲グル帳簿ヲ備ヘ政府ノ爲ニ取扱フ現金ノ出納又ハ有價證券ノ受拂

ヲ登記スヘシ

一 國庫金ノ出納ヲ登記スヘキ帳簿

二 支拂豫算額及支拂濟額ヲ登記スヘキ帳簿

三 國債ノ發行ニ依ル收入金ニ關スル出納ヲ登記スヘキ帳簿

四 國債元利拂資金ノ出納ヲ登記スヘキ帳簿

五 隔地者拂資金ノ收支ヲ登記スヘキ帳簿

六 有價證券ノ受拂ヲ登記スヘキ帳簿

前項ノ帳簿ノ様式及記入ノ方法ハ大藏大臣ノ認可ヲ經テ日本銀行之ヲ定ム

第一百六十一條 大藏大臣ハ會計検査官立會ノ上毎年七月三十一日前年度ノ主計簿ヲ締切ルヘシ

第十二章 雜則

第一百六十二條 本令ニ依リ會計検査院ニ提出スル計算證明書類ノ様式及提出期限ニ付テハ會計檢

査院ノ定ムル所ニ依ルヘシ

第一百六十三條 前條ノ計算證明書類ヲ除クノ外本令ニ規定スル書類ノ様式ハ大藏大臣之ヲ定ム

第一百六十四條 本令ニ依リ記名捺印ヲ要スル場合ニ於テハ外國ニ在リテハ署名ヲ以テ之ニ代フル

コトヲ得

第一百六十五條 本令ニ定ムルモノヲ除クノ外收入及支出ニ關シ必要ナル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム

附則

第一百六十六條 本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一百六十七條 左ノ勅令ハ之ヲ廢止ス

仕拂命令委任規程

會計年度開始前現金支出規則

明治二十二年勅令第二百二十一號

金庫規則

明治二十三年勅令第二號

明治二十三年勅令第二十號

明治二十三年勅令第三十二號

明治二十三年勅令第三十五號

明治二十三年勅令第四號

明治二十三年勅令第九十八號

明治二十三年勅令第九十三號

明治二十三年勅令第二百七十三號

明治二十三年勅令第二百九十五號

明治二十四年勅令第一號

明治二十四年勅令第二十四號

明治二十四年勅令第七十五號

明治二十四年勅令第六十三號

明治二十六年勅令第五十一號

明治二十六年勅令第七十號

明治二十六年勅令第二百二十八號

明治二十七年勅令第四十號

明治二十七年勅令第七十六號

明治二十八年勅令第四百四號

明治二十九年勅令第五百五十八號

明治二十九年勅令第二百四十號

明治二十九年勅令第二百六十八號

明治二十九年勅令第三百七十三號

明治三十年勅令第十五號

明治三十年勅令第二十一號

明治三十年勅令第五十八號

明治三十年勅令第二百二十七號

明治三十一年勅令第三十七號

明治三十一年勅令第三十八號

帝國大學資金並學校及圖書館資金所屬森

林原野竝產物特別處分規則

資金預置券

- 明治三十一年勅令第七十四號
- 明治三十二年勅令第二十五號
- 明治三十二年勅令第二百六號
- 明治三十二年勅令第二百二十九號
- 明治三十二年勅令第三百三號
- 明治三十二年勅令第三百六十三號
- 明治三十二年勅令第三百七十五號
- 明治三十二年勅令第四百十三號
- 明治三十二年勅令第四百二十四號
- 明治三十二年勅令第四百三十七號
- 明治三十三年勅令第三十九號
- 明治三十三年勅令第二百八十號
- 明治三十三年勅令第三百四十二號
- 明治三十三年勅令第四百八號
- 明治三十四年勅令第八號
- 明治三十四年勅令第二百二十號

- 明治三十五年勅令第二百五號
- 明治三十五年勅令第二百三十六號
- 明治三十六年勅令第二十三號
- 明治三十六年勅令第八十號
- 明治三十七年勅令第十號
- 明治三十七年勅令第十七號
- 明治三十七年勅令第五十四號
- 明治三十七年勅令第七十八號
- 明治三十七年勅令第二百十七號
- 明治三十八年勅令第二十二號
- 明治三十八年勅令第三十二號
- 明治三十八年勅令第三十五號
- 郵便電信及電話官署經費渡切規則
- 明治三十八年勅令第二百二十八號
- 明治三十八年勅令第二百一號
- 明治三十八年勅令第二百二號
- 明治三十八年勅令第二百六十五號

明治三十八年勅令第二百九十號
明治三十九年勅令第九十三號
明治三十九年勅令第一百一號
明治三十九年勅令第二百四十六號
明治三十九年勅令第二百七十號
明治四十年勅令第八十四號
明治四十年勅令第一百五十號
明治四十年勅令第二百二十七號
明治四十年勅令第二百六十一號
明治四十年勅令第三百四十一號
明治四十一年勅令第三百三十八號
明治四十一年勅令第五百五十八號
明治四十一年勅令第二百四十八號
明治四十一年勅令第三百一十一號
明治四十二年勅令第六十一號
明治四十二年勅令第二百二十六號
明治四十三年勅令第三百四十一號

明治四十三年勅令第四百八號
明治四十三年勅令第四百九號
明治四十四年勅令第六十一號
明治四十四年勅令第六十二號
明治四十四年勅令第五百五十六號
明治四十四年勅令第二百二十號
明治四十四年勅令第二百七十九號
明治四十四年勅令第二百九十二號
大正元年勅令第七號
大正二年勅令第三百三號
大正三年勅令第三號
大正三年勅令第三百三十五號
大正三年勅令第三百三十六號
大正四年勅令第五十五號
大正四年勅令第七十八號
大正四年勅令第八十七號
大正四年勅令第九十五號

- 大正四年勅令第二百二十五號
- 大正五年勅令第四十五號
- 大正五年勅令第一百五十五號
- 大正五年勅令第六十二號
- 大正五年勅令第七十三號
- 大正五年勅令第八十八號
- 大正五年勅令第九十八號
- 大正五年勅令第二百十九號
- 大正六年勅令第五十二號
- 大正六年勅令第六十二號
- 大正六年勅令第八十一號
- 大正六年勅令第二百三十四號
- 大正七年勅令第二百二十二號
- 大正八年勅令第三號
- 大正八年勅令第二十六號
- 大正八年勅令第三百六十二號
- 大正九年勅令第二百五號

大正九年勅令第三百三十六號

大正九年勅令第五百四十七號

大正十年勅令第四百四十四號

大正十年勅令第四百二十八號

大正六年勅令第三百三十二號ハ當分ノ内仍其ノ效力ヲ有ス

第六十八條 金庫ニ納付セシムル爲納入ノ告知アリタル歳入金ニシテ本令施行前收納ヲ了セサルモノハ該納入ノ告知ニ依リ日本銀行ニ於テ之カ收納ヲ取扱ハシム

前項ノ規定ハ定額戻入ノ爲納入ノ告知アリタル返納金ニシテ本令施行前領收ヲ了セサル場合ニ之ヲ準用ス

第六十九條 仕拂命令ニシテ本令施行前其ノ支拂ヲ了セサルモノハ支拂命令ニ關スル從前ノ手續ニ依リ日本銀行ニ於テ本令施行後一年間之カ支拂ヲ取扱ハシム

第五十五條ノ規定ハ前項ノ支拂期間經過後仍會計法附則第五項ノ規定ニ依リ期間ノ滿了セサル債務ノ支拂ニ付之ヲ準用ス

第七十條 大正十一年五月三十一日迄ニ支拂ノ請求ナキ大正十年度仕拂命令濟金額ニ相當スル資金ハ從前ノ例ニ依リ當該年度ノ歳出支拂未濟金トシテ之ヲ繰越整理スヘシ

第七十一條 本令施行前繰越整理ニ係ル資金及前條ノ繰越整理ニ係ル資金ニシテ大正十二年三月三十一日迄ニ支拂ヲ了セサルモノハ之ヲ大正十一年度ノ歳入ニ組入ルヘシ

第七十二條 大正十年度支出濟歳出額ハ同年度歳入歳出ノ總決算及主計簿ニ於テハ仕拂命令濟歳出額ニ併算スヘシ

大正十一年度仕拂命令濟歳出額ハ同年度歳入歳出ノ總決算及主計簿ニ於テハ支出濟歳出額ニ併算スヘシ

第七十三條 大正十年度分ニ限り金庫ニ備ヘタル支出簿ハ第六十條第二號ノ帳簿ニ代用セシムルコトヲ得

第七十四條 前六條ニ規定スルモノヲ除ク外本令施行ニ關シ必要ナル規定ハ大藏大臣之ヲ定ム

物件賣拂代金ノ延納ニ關スル件 大正十年八月 勅令第三百七十四號

政府ニ於テ物件ヲ賣拂フトキハ擔保トシテ國債ヲ提供セシメ代金ノ延納ヲ許スコトヲ得 前項ノ場合ニ於テ擔保ノ必要ナシト認ムルトキハ特ニ擔保ノ提供ヲ免除スルコトヲ得 延納ヲ許スコトヲ得ル場合、延納期間及擔保ヲ免除スルコトヲ得ル場合ニ關シテハ、所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム但シ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、關東州ニ在リテハ關東長官、樺太ニ在リテハ樺太廳長官所管大臣ヲ經由シ大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

附 則

本令ハ大正十年九月一日ヨリ之ヲ施行ス 左ノ勅令ハ之ヲ廢止ス

明治三十五年勅令第二百一十一號

明治四十一年勅令第二百六十九號

明治四十二年勅令第二百五號

明治四十二年勅令第二百十八號

明治四十二年勅令第三百十八號

明治四十三年勅令第十一號

明治四十三年勅令第二百四號

大正二年勅令第二百八十二號

大正五年勅令第九十四號

本令施行前提供シタル國債以外ノ擔保ハ本令施行ノ日ヨリ五年ヲ限り本令ノ規定ニ拘ラス 仍其ノ效力ヲ有ス

國有林野產物及製品賣拂代金延納ニ關スル件

大正十年九月
農商務省令第二十八號

國有林野又ハ其ノ產物若ハ製品ノ賣拂代金ハ一口五百圓以上ナル場合ニ限り國債ヲ擔保トシテ提
供セシメ一年以内ノ延納ヲ許可スルコトヲ得
但シ公共團體ニ限り擔保ヲ免除スルコトヲ得
公共團體又ハ社寺ニ對シテハ前項ノ賣拂代金ハ一口三百圓以上トシ其ノ期間ハ林野ニ在リテハ三
年以内、產物又ハ製品ニ在リテハ二年以内、樹木散生地又ハ無立木地ニ對シ農商務大臣ノ定ムル
所ニ依リ造林ヲ爲スモノニ在リテハ五年以内ト爲スコトヲ得

附 則

本令ハ大正十年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

國有林野產物隨意契約賣拂ニ關スル件

大正十一年三月山第五〇一號
山林局長通牒

會計規則第百十四條第二項ニ依リ農商務大藏兩大臣協議決定事項

一、第十九號ニ依ルモノ

(1) 地元特有ノ産業ト認ムル地方住民ノ生業ニ必要ナル薪炭材又ハ副產物ヲ地元住民ニ賣拂フ
トキ

(2) 林業ニ附帶スル運搬設備ノ用ニ供スル爲必要ナル附近國有林野ノ產物ヲ賣拂フトキ

(3) 鑛業ニ必要ナル附近國有林野ノ產物ヲ鑛業人ニ賣拂フトキ

(4) 國有林野產物賣拂規則第二十條ノ二ニ規定セル工業者、土石採取業者又ハ耕地整理組合等
營利ヲ目的トセサル法人ニ其ノ事業ニ必要ナル土石ヲ賣拂フトキ

(5) 國有林野產物賣拂規則第十九條第一號乃至第四號ノ一ニ該當セル資格ヲ有スル同規則第二
十條第一號ニ定ムル重要製產品ノ製造業者ニ其ノ原料ヲ賣拂フトキ

二、第二十號ニ依ルモノ

(1) 公署、公立學校、公立病院、慈善病院等ノ建築ニ必要ナル產物ヲ賣拂フトキ

(2) 港灣、鐵道、軌道、橋梁、堤防、溜池、水道、水利、水害防備、水力發電等ノ工事ニ必要
ナル產物ヲ賣拂フトキ

(3) 非帶災害アリタル場合ニ於テ其ノ罹災者救濟ニ必要ナル薪炭材ヲ賣拂フトキ

三、第二十一號ニ依ルモノ

(1) 從來ノ慣行ニ因リ薪炭材又ハ副產物ヲ地元住民ニ賣拂フトキ

- (2) 委託林野ノ產物ヲ受託者ニ賣拂フトキ
 - (3) 社寺保管林ノ產物ヲ其ノ社寺ニ賣拂フトキ
 - (4) 部分林ノ產物ヲ造林者ニ賣拂フトキ
 - (5) 社寺上地ノ森林ノ產物ヲ社寺ノ建築營繕ノ材料トシテ其ノ社寺ニ賣拂フトキ
 - (6) 組替、賣拂、貸付又ハ讓與ヲ爲シタル林野ノ產物ヲ其ノ土地ノ管理者、買受人、借受人又ハ讓受人ニ賣拂フトキ
 - (7) 民地官木林ノ產物ヲ其ノ土地ノ所有者ニ賣拂フトキ
- 前項ノ外明治三十二年勅令第三六三號該當事項ニシテ會計規則第百十四條第一項適用方

一、第一號ニ依ルモノ

- (1) 施業案ニ基ク斫伐案ヲ施行スルニ際シ競争契約ニ依ルトキハ森林ノ更新ヲ障害スルノ虞アル場合ニ於テ其ノ產物ヲ國有林野產物賣拂規則第十九條第五號又ハ第六號ニ定メタル資格ヲ有スル木材業者ニ賣拂フトキ

- (2) 國有林野產物賣拂規則第二十條第一號ニ定メタル重要製產品ノ製造業者ニ其ノ原料ト共ニ處分スルニ非レハ森林ノ更新ヲ障害スルノ虞アル混生木ヲ賣拂フトキ

二、第七號ニ依ルモノ

- (1) 豫定代價千圓ヲ超エサル產物ヲ賣拂フトキ

三、第十四號ニ依ルモノ

- (1) 非常ノ災害アリタル場合ニ於テ罹災者ニ建築營繕ノ材料ヲ賣拂フトキ

內國旅費規則

明治四十三年六月 勅令第二百七十四號

第一條 官吏公務ニ依リ本邦内ヲ旅行スルトキハ本令ニ依リ旅費ヲ支給ス

第二條 旅費ハ鐵道賃、船賃、車馬賃、日當、宿泊料、食卓料、赴任手當、移轉料及家族移轉料ノ九種トス

鐵道賃及船賃ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ從ヒ實際ノ料金ニ依リ、車馬賃日當宿泊料食卓料及移轉料ハ別表ニ掲グル所ニ從ヒ定額ニ依リ之ヲ支給ス旅費ハ順路ニ依リ之ヲ計算ス但シ公務ノ都合ニ依リ順路ニ依リテ旅行シ難キ場合ニ於テハ其ノ現ニ經過シタル通路ニ依ル

第三條 鐵道旅行ニハ鐵道賃、水路旅行ニハ船賃、陸路旅行ニハ車馬賃ヲ支給ス 鐵道又ハ水路ニ依ラサル旅行ハ之ヲ陸路旅行トス

第四條 宿泊料ハ夜數ニ應シ日當ハ日數ニ應シテ之ヲ支給ス

水路旅行ニハ宿泊料ヲ支給セス但シ官用ノ船舶ニ依リテ旅行スル場合ニ於テ官ヨリ賄ヲ爲ササルトキハ食卓料ヲ支給ス

第五條 旅費ノ支給ニ關シテハ旅行日數ハ出張地ニ於ケル滞在日數及途中已ムヲ得サル事由ノ爲要シタル日數ヲ除クノ外鐵道旅行ハ二百哩、水路旅行ハ百海里、陸路旅行ハ十二里ニ付一日ノ

割合ヲ以テ通算シタル日數ヲ超過スルコトヲ得ス但シ一日未滿ノ端數ハ之ヲ一日トス
第六條 赴任ノ場合ニ於テハ別ニ日當五日分宿泊料五夜分ニ相當スル赴任手當、移轉料及家族移轉料ヲ支給ス

家族移轉料ハ家族一人毎ニ舊任地又ハ本人ノ居住地ヨリ新任地ニ至ル本人相當ノ鐵道賃船賃車馬賃日當宿泊料食卓料ノ全額及赴任手當ノ三分ノ二ニ該當スル金額トス但シ十二歳未滿ノ家族ニ付テハ其ノ半額トス

家族ノ數三人ヲ超過スルトキハ其ノ超過スル者ニ付支給スル家族移轉料ハ前項ノ規定ニ依ル給額ノ半額トス
赴任者赴任後一年内ニ其ノ家族故ナクシテ新任地ニ移轉セサルトキハ家族移轉料ヲ支給セス

第七條 官用ノ船、車、馬等ニ依リテ旅行スルトキハ鐵道賃、船賃、車馬賃ヲ支給セス
第八條 陸路六里未滿、鐵道四十八哩未滿、水路三十海里未滿ノ旅行ニ在リテハ公務ノ都合ニ依リ宿泊シタル場合ヲ除クノ外其ノ支給スヘキ日當ハ定額ノ半額トス

一旅行ニシテ陸路、鐵道又ハ水路ニ互ルトキハ鐵道ハ八哩、水路ハ五海里ヲ以テ陸路一里ト看做シ前項ノ規定ヲ準用ス
第九條 在勤廳所在地ノ市區町村内ノ出張ニシテ遠距離ニ涉ルトキハ定額半額以内ノ日當ヲ支給スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ特別ノ事情アルトキハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ別ニ必要ナル費用ヲ支給スルコトヲ得

第九條ノ二 前條第二項ノ規定ハ在勤廳所在地外ノ市區町村内ヲ旅行シタル場合ニ之ヲ準用ス
第十條 私事ノ爲任地又ハ居住地以外ニ滞在スル者轉任ヲ命セラレ又ハ新ニ任用セラレ滞在地ヨリ赴任スル場合ニ於テハ滞在地ヨリ新任地ニ至ル旅費額力舊任地又ハ居住地ヨリ新任地ニ至ル旅費額ヨリ多キトキハ舊任地又ハ居住地ヨリ新任地ニ至ル旅費額ヲ支給ス

前項ノ規定ハ私事ノ爲任地以外ニ滞在スル者滞在地ヨリ旅行スル場合ニ之ヲ準用ス
第十條ノ二 前條第一項ノ規定ハ舊任地又ハ本人ノ居住地以外ヨリ新任地ニ移轉スル家族ニ付支給スル家族移轉料ニ之ヲ準用ス

第十一條 新ニ任用スル爲召喚セラレタル者ニハ官吏赴任ノ例ニ準シ新官相當ノ旅費ヲ支給ス
第十二條 特別ノ事情ニ依リ定額ノ車馬賃ヲ以テ其ノ實費ヲ支辨シ難キ場合ニ於テハ實費額ヲ支給スルコトヲ得

第十三條 車馬賃ハ其ノ路程ヲ合算シテ之ヲ支給ス但シ定額ヲ異ニスルモノニ付テハ各別ニ之ヲ通算ス

通算上一里未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ切捨トス
第十四條 年度又ハ日ニ依リテ旅費ヲ區分計算スルノ必要アル場合ニ於テ其ノ區分判明ナラサルトキハ最近ノ到達地ニ著シタル日ヲ以テ其ノ路程ヲ區別シ計算ス

第十五條 旅行申退官、退職、休職又ハ非職ト爲リタル者ニハ舊任地ニ至ル前官又ハ本官相當ノ旅費ヲ支給ス但シ刑事裁判又ハ懲戒處分ニ依リテ失官シ又ハ免官セラレタル者ハ此ノ限ニ在ラ

ス

前項ノ場合ニ於テハ第五條ニ定メル旅程ノ割合ヲ以テ計算シタル日數ニ依リ旅費ヲ支給ス
旅行中死亡シタル場合ニ於テハ前二項ノ規定ニ準シ旅費ニ相當スル金額ヲ遺族ニ支給ス

第十六條 事務引繼殘務調理等ノ爲退官者ニ旅行ヲ命スルトキハ前官相當ノ旅費ヲ支給ス

第十七條 所管大臣ハ測重土木工事等ノ爲現場ヲ巡廻スル官吏又ハ常時旅行ヲ要スル官吏ニ關シ
特ニ其ノ旅費額ヲ定メ月額又ハ日額ヲ以テ之ヲ支給スルコトヲ得

所管大臣ハ旅費ノ定額ヲ減シ又ハ旅費ノ全部若ハ一部ヲ支給セサルコトヲ得

第十八條 武官、陸海軍文官、鐵道事務ニ從事スル官吏及警察官ノ旅費ニ關シテハ所管大臣大藏

大臣ト協議シテ別ニ之ヲ定ム

第十九條 雇員其ノ他本令ニ規定ナキ者ノ旅費ニ關シテハ所管大臣大藏大臣ト協議シ本令ニ準シ
テ之ヲ定ム

第二十條 當分ノ内朝鮮、臺灣、樺太又ハ千島國內ノ旅行ニ限リ所管大臣大藏大臣ト協議シテ旅
費ノ定額ヲ増加スルコトヲ得

第二十一條 當分ノ内朝鮮、臺灣、樺太又ハ千島國在勤二年以上ニシテ退官、退職、休職又ハ非
職ト爲リ三十日以内ニ同地出發歸郷スル者ニハ前官又ハ本官相當ノ旅費ヲ支給スルコトヲ得但
シ刑事裁判若ハ懲戒處分ニ依リ失官シ若ハ免官セラレ又ハ自己ノ便宜ニ依リ退官若ハ退職シタ
ル者ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ旅費ニ關シテハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

在職中死亡シタルトキハ第一項ノ例ニ準シ旅費ニ相當スル金額ヲ遺族ニ支給スルコトヲ得

第二十二條 樺太ニ赴任スル者、千島國、幌筵島以北ニ赴任若ハ出張スル者朝鮮ニ赴任スル者ニ

シテ江原道平安南道平安北道咸鏡南道咸鏡北道ニ赴ク者又ハ十一月ヨリ翌年二月ニ至ル期間内
ニ樺太ニ出張スル者ニハ當分ノ内支度料ヲ支給スルコトヲ得其ノ額ハ所管大臣大藏大臣ト協議
シテ之ヲ定ム

附 則

本令ハ明治四十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前轉任ヲ命セラレ、新ニ任用セラレ若ハ新ニ任用スル爲召喚セラレタル場合又ハ退官、
退職、休職、非職ト爲リ若ハ死亡シタル場合ニ關シテハ舊令ニ依ル

(別表)

官階	旅費額	
	車馬賃	日當
親任官	一圓五十錢	十二圓
勅任官	一圓二十錢	八圓

宿泊料	食卓料	移轉料
十八圓	四圓	三百圓以内
十二圓	三圓五十錢	三百二十圓以内

奏任官	五等以上	九十錢	六圓	八圓	二圓五十錢	百五十圓以內
	六等以下	九十錢	五圓	七圓	二圓五十錢	百五十圓以內
判任官	五級俸以上	七十五錢	三圓	五圓五十錢	二圓	百圓以內
	六級俸以下	七十五錢	二圓五十錢	四圓五十錢	二圓	百圓以內

內國旅費規則第二條ニ依ル鐵道賃、船賃ノ件

大正九年五月
大藏省令第十六號

- 第一條 鐵道賃ハ左ノ區別ニ從ヒ旅客運賃(通行稅ヲ含ム)及急行料金を依リ之ヲ計算ス
- 一 高等官ニ在リテハ一等ノ運賃但シ一等車ノ連結ナキ線路ニ依ル旅行ニ在リテハ二等ノ運賃
 - 二 判任官ニ在リテハ二等ノ運賃但シ特別ノ必要ニ依リ一等車ニ乗車シタル場合ニ於テハ一等ノ運賃
 - 三 運賃ノ等級ヲ二階級ニ區分スルモノニ在リテハ高等官判任官共上級ノ運賃、其ノ等級ヲ設ケサルモノニ在リテハ其ノ乗車ニ要スル運賃
 - 四 五十哩以上ノ旅行ニ在リテハ普通急行料金を但シ急行料金を徴セサル線路ニ依リ旅行スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス
 - 五 百哩以上特別急行列車ニ乗車シタル場合ニ於テハ特別急行料金を
 - 六 特別ノ必要ニ依リ普通急行列車又ハ特別急行列車ニ乗車シタル場合ニ於テハ前二號ノ規定ニ拘ラス其ノ乗車ニ要スル急行料金を
- 第二條 船賃ハ旅客運賃(通行稅、解船賃、棧橋賃、寢臺料及普通運賃ノ外別ニ食費ヲ要スル場合ニ於テハ夕食及朝食ニ對スル所定ノ料金を含ム)及急行料金を依リ鐵道賃ノ例ニ準シ之ヲ計算ス

林區署旅費規則

大正九年七月
林第二三二六號達

- 第一條 林區署員ノ旅費ハ本則ニ依ルノ外內國旅費規則及明治四十三年六月會第二九〇號ニ依ル
- 第二條 大林區署員左記各號ノ一ニ該當スル用務ニ依リ其ノ管内ヲ旅行スルトキハ甲號表ノ日額ヲ支給ス、小林區署員又ハ公有林野官行造林署員同上ノ用務ノ爲其ノ管外ヲ旅行スルトキ亦同シ但シ沖繩及小笠原小林區署管内ノ旅行、在勤地ト用務地間ノ往復又ハ一日ノ路程陸路三里以上、鐵道十六哩以上、水路十海里以上ニ涉ル甲乙用務地間ノ旅行ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
- 一 國有林野ノ存廢區別又ハ處分調査
 - 二 測量又ハ境界査定

- 三 施業案ノ編成又ハ其ノ檢訂
 - 四 造林又ハ土木ノ事業並其ノ設計
 - 五 斫伐又ハ製材ノ事業
 - 六 公有林野官行造林候補地ノ實查
- 前項ノ規定ハ他ノ林區署ニ兼務スル林區署員其ノ兼務地ニ旅行スル場合ニ之ヲ準用ス
- 第三條 小林區署員又ハ公有林野官行造林署員其ノ管内ヲ旅行スルトキハ甲號表ノ日額ヲ支給ス但シ擔當區詰員以外ノ公有林野官行造林署員ニ在リテハ前條第一項但書ノ規定ヲ準用シ小林區署員又ハ擔當區詰員ニ在リテハ宿泊セサル日ハ日額ノ半額ヲ支給ス
- 前項ノ規定ハ保護區詰員ノ旅行ヲ除クノ外沖繩及小笠原小林區署管内ノ旅行ニ之ヲ適用セス
- 鐵道、軌道條例ニ依ル軌道又ハ水路ノ旅行ヲ爲シタルトキハ日額ノ外乗車賃又ハ船賃ノ實費ヲ支給スルコトヲ得但シ乗車賃又ハ船賃ノ實費計算ニ付テハ大正九年大藏省令第十六號ノ規定ヲ準用ス
- 第四條 小林區署員又ハ公有林野官行造林署員左記各號ノ一ニ該當スル用務ニ依リ其ノ管内ヲ旅行シタルトキハ前條ノ規定ヲ適用セス
- 一 訴訟ノ爲又ハ證人、參考人、鑑定人トシテ裁判所ニ出廷
 - 二 裁判所又ハ檢事局ノ命令若ハ要求ニ依リ現場ニ出張
 - 三 刑事被告人ノ護送

- 四 大林區署長ニ於テ日額ヲ以テ旅費ヲ支辨シ能ハスト認メタル用務
- 第五條 在勤地内ノ出張ニシテ其ノ行程二里以上ニ涉ルトキハ内國旅費規則及明治四十三年六月會第二九〇號別表第一號ノ定額半額以内ノ日當ヲ支給ス
- 小林區署員又ハ公有林野官行造林署員在勤地内ノ出張ニシテ其ノ行程二里以上ニ涉リ公務ノ都合ニ依リ宿泊ヲ要スルトキハ甲號表ノ日當及宿泊料ヲ支給ス
- 受持區域ノ定メアル小林區署備人ニ在リテハ其ノ駐在地及受持區域ヲ以テ在勤地ト看做ス但シ備人ニハ第一項ノ日當ヲ支給セス
- 森林鐵道ノ備人機關車ヲ運轉シ又ハ鐵道ノ用務ノ爲其ノ沿線ヲ旅行スルトキハ宿泊シタル場合ニ於テ宿泊料一圓五十錢ヲ給スルノ外旅費ヲ支給セス
- 第六條 森林主事教練規則ニ依リ林務教習又ハ補習ノ爲教練地ニ滞在中ハ日額一圓五十錢ヲ支給ス
- 第七條 試補其ノ他ノ者ニ第二條又ハ第三條ニ該當スル旅行ヲ命シタルトキハ左ノ區別ニ從ヒ甲號表ノ日額ヲ支給ス
- 一 試補ハ一等ノ額
 - 二 見習ハ三等ノ額
 - 三 常時一定ノ手當ヲ給スル囑託員ニ在リテハ手當月額百七十圓以上ノ者(年額ハ十二分ノ一、日額ハ三十日分ヲ以テ月額ト看做ス)ハ一等、同上百十圓以上百七十圓未滿ノ者ハ二等、同

上五十五圓以上百十圓未滿ノ者ハ三等、同上五十五圓未滿ノ者ハ五等ノ額

四 前各號ニ該當セサル者ニ在リテハ有爵者、從六位、勳六等及功五級以上ノ者ハ一等、正七位、從七位、勳七等及功六級ノ者ハ二等、正八位以下勳八等及功七級ノ者ハ三等位勳功級ヲ有セサル者ハ五等ノ額但シ位勳功級ヲ併有スル場合ハ高キニ從テ其ノ額ヲ定ム

第八條 移轉料及赴任手當ハ大林區署ノ管内外ヲ通シ乙號表ノ額ヲ支給ス

第九條 大林區署長ハ農商務大臣ノ認可ヲ受ケ内國旅費規則、明治四十三年六月會第二九〇號及本則ニ依リ支給スル旅費ノ定額ヲ減シ又ハ旅費ノ全部若ハ一部ヲ支給セサルコトヲ得

大林區署長ハ二以上ノ小林區署管轄區域ニ互リ事業ヲ經營スル必要アル場合ニ於テハ其ノ區域

ヲ一小林區署ノ管内ニ準シ旅費ヲ支給スルコトヲ得
前項ノ規定ハ二以上ノ公有林野官行造林署ノ管轄區域又ハ公有林野官行造林署ト小林區署トノ管轄區域ニ互リ事業ヲ經營スル必要アル場合ニ之ヲ準用ス

甲 號表

等	級	日額	在勤地内支給額	
			日當	宿泊料
一系	奏	六圓	一圓六十錢	四圓四十錢
二	任	四圓五十錢	一圓	三圓五十錢

乙 號表

旅行行程	移		轉		料		赴任手當	
	勅任官	奏任官	判任官	任官	雇員	日當	宿泊料	
一日	百五十圓	百圓	五級俸以上六級俸以下	五級俸以上六級俸以下	三十圓	二	二	二
二日	百八十圓	百二十圓	七十圓	六十圓	四十圓	三	三	三
三日以上	二百二十圓	百五十圓	百圓	九十圓	五十圓	五	五	五

七等	六等	五等	四等	三等
備	雇員	大林区署員	小林區署詰員、公有林野官行造林署詰員、六級俸以下 保護區詰員(八重山島及小笠原島所在ノ保護區詰員ヲ除ク)擔當區詰員、斫伐擔當員	八重山島及小笠原島所在ノ保護區詰員
人	二	二圓二十錢	二圓五十錢	三圓五十錢
一圓五十錢	六十錢	八十錢	八十錢	八十錢
五十錢	一圓四十錢	一圓七十錢	一圓七十錢	二圓四十錢
一圓				

林區署會計事務規程

大正十一年六月
農商務省訓令第八號

第一章 總 則

第一條 大林區署長ハ歳入歳出ノ概算書ヲ調製シ前年度四月十五日迄ニ之ヲ農商務大臣ニ提出ス

第二條 大林區署ノ歳入歳出豫算額及支拂豫算ハ毎年度農商務大臣之ヲ令達ス

小林區署及公有林野官行造林署ノ歳入歳出豫算額ハ大林區署長之ヲ配付スヘシ

第三條 大林區署ノ歳入徴收官、支出官、國有財産管理分掌官及出納命令官ハ大林區署長トス

歳入徴收官又ハ出納命令官ハ林區署職員ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ分掌セシムルコトヲ得

第四條 林區署ニ適官左ノ職員ヲ置キ大林區署長之ヲ命スヘシ

- 一 收入官吏
- 二 分任收入官吏
- 三 資金前渡官吏
- 四 歳入歳出外現金出納官吏
- 五 物品會計官吏
- 六 林產物品會計官吏
- 七 保管有價證券取扱主任官

八 物品取扱主任

九 會計規則第九十二條第九十四條及第三百三十六條ノ検査員、第三百三十七條ノ立會員第四百十

六條ノ代務員

十 物品會計規則第十條ノ二乃至第十二條ノ検査官吏、第十五條ノ代務員

第五條 會計検査院ノ發シタル審理書ノ答辯ニシテ歳入徴收額計算書、支出計算書及國有財産増減計算書ニ關スルモノハ山林局長ヲ經由スヘシ

第二章 收 入

第六條 歳入徴收官收入ヲ測定シ納入ノ告知ヲ爲サムトスルトキハ別段ノ定アルモノヲ除クノ外三十日以内ニ於テ其ノ納期ヲ定ムヘシ

第七條 歳入徴收分掌官收入ヲ測定シ納入ノ告知ヲ爲シタルトキハ收入測定濟報告書ヲ翌日迄ニ歳入徴收官ニ送付スヘシ

前項收入測定濟報告書ハ處分報告書ニ測定ニ關スル事項ヲ附記シ之ヲ省略スルコトヲ得

第八條 歳入徴收分掌官收入ヲ測定シ納入ノ告知ヲ爲シタルトキハ七日以内ニ契約書其ノ他收入證明上必要ナル證據書類ノ原本ヲ歳入徴收官ニ送付スヘシ但シ之ヲ提出スルコト能ハサルトキハ當該官吏ノ保證アル謄本ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第九條 納入告知書ニ於テ納入場所ヲ日本銀行（本店、支店又ハ代理店ヲ謂フ）ニ指定シタル場

合ト雖納人ノ請求アリタルトキハ收入官吏現金ヲ領收スルコトヲ得

第十條 亡失其ノ他ノ事故ニ因リ納入告知書再發ノ請求アリタルトキハ納入告知書發行者其ノ手續ヲ爲スヘシ

第十一條 歳入徴收官ハ會計規則第三十七條ノ徴收報告書類ヲ翌月十五日迄ニ農商務大臣ニ提出スヘシ

第十二條 歳入徴收官ハ歳入繰越額計算表ヲ調製シ其ノ明細表ヲ添ヘ前年度以前ノ分ハ翌年度四月十五日迄ニ、當該年度ノ分ハ翌年度五月十五日迄ニ之ヲ農商務大臣ニ提出スヘシ

第十三條 歳入徴收官ハ毎年度歳入増減計算書ヲ調製シ收入區別表ヲ添ヘ翌年度五月三十一日迄ニ之ヲ農商務大臣ニ提出スヘシ但シ前年度調定ノ繰越ニ係ルモノアルトキハ尙前年度調定繰越高整理表ヲ添附スヘシ

第十四條 會計規則第七十三條ノ歳入徴收額計算書ハ計算證明規程第五條ニ依リ毎月之ヲ調製シ歳入徴收官ヨリ直ニ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

前項ノ計算書ニ添附スヘキ證書書類ハ各月ニ區分シ左ノ期日迄ニ送付スルコトヲ得

四月乃至七月分

八月十五日限

八月乃至十一月分

十二月十五日限

十二月乃至四月分

翌年度五月十五日限

前項ノ證書書類ニシテ左記第一號乃至第五號ニ該當スルモノニ付テハ別記様式ニ依ル集計書ヲ

以テ之ニ代用シ第六號及第七號ニ該當スルモノニ付テハ之ヲ省略スルコトヲ得

一 木竹、斫伐製品、製材所製品、雜種物及林野ノ拂下代ニシテ一廉千圓未滿ノモノ

二 地所貸下料ニシテ一廉年額又ハ總額百圓未滿ノモノ

三 辨償金（盜難品賠償金、誤伐擅伐辨償金、土地漫用辨償金、訴訟費用償却金、毀損亡失物品辨償金、其ノ他）及違約金（入札保證金、契約保證金、產物搬出延期違約金、其ノ他）ニ

シテ一廉千圓未滿ノモノ

四 物品拂下代ニシテ一廉五百圓ヲ超エサルモノ

五 雜收（砂鑛採取料、臺帳謄本料、其ノ他）

六 沖繩縣山拂下代、牛馬放牧料、年賦及延納金、建物貸下料、官吏遺族扶助法納金、利子

收入、返納金、受託調査收入及延納利子ノ類

七 計算證明規程第十五條及第十六條ノ場合ニ於テハ賣拂ニ付テハ一廉千圓未滿ノモノ、貸付

ニ付テハ一廉百圓未滿ノモノ

第十五條 歳入徴收官翌年度四月三十日ヲ過キ科目ノ誤謬ヲ發見シタルトキハ其ノ旨ヲ農商務大

臣ニ報告スヘシ

第十六條 歳入金ノ下戻ヲ要スルモノアルトキハ歳入徴收官又ハ歳入徴收分掌官ハ諸拂戻金支拂

要求書ニ債主ノ請求書ヲ添ヘ之ヲ農商務大臣ニ提出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ歳入徴收分掌官ヨリ農商務大臣ニ提出スル書類ハ歳入徴收官ヲ經由スヘシ

下戻請求權ヲ拋棄シタル者アルトキハ之ヲ證スル文書ヲ徴スヘシ

二九八

第三章 支出

第十七條 經費豫算ニ増額又ハ減額ヲ要スルモノアルトキハ其ノ事由ヲ具シ大林區署長ハ農商務大臣ニ、小林區署長又ハ公有林野官行造林署長ハ大林區署長ニ之ヲ請求スヘシ

第十八條 大林區署長ハ豫算定額中各目ノ流用又ハ費途ノ轉用ヲ爲スコトヲ得

第十九條 大林區署長會計法第二十七條及第二十八條ニ依リ定額ノ繰越ヲ要スルトキハ經費繰越計算書ヲ翌年度四月十日迄ニ農商務大臣ニ提出スヘシ

第二十條 支出官ハ左ニ掲グルモノヲ除クノ外總テ債主ノ請求ニ依リ小切手ヲ振出スヘシ

一 俸給及給與

二 傭人料但シ出勤簿、傭役簿等ニ依リ日數、金額及氏名ヲ證明シ得ル者ニ限ル

三 被服代料

四 地所及家屋ノ借料

五 諸謝金

六 納濟ニ依ル物件ノ代金

第二十一條 會計規則第八十一條但書ノ事項ニ付テハ支出官其ノ顛末ヲ詳記シ之ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第二十二條 支出官ハ會計規則第六十六條ノ支出濟額報告書二通ヲ翌月十日迄ニ農商務大臣ニ提出スヘシ

第二十三條 支出官ハ毎年度經費決算報告書ニ費途區別表ヲ添ヘ翌年度五月三十一日迄ニ之ヲ農商務大臣ニ提出スヘシ

第二十四條 支出官第一豫備金ヲ支出シタルトキハ翌年度五月三十一日迄ニ第一豫備金支出計算書ヲ、第二豫備金ヲ支出シタルトキハ遲滞ナク第二豫備金支出調書ヲ農商務大臣ニ提出スヘシ

第二十五條 會計規則第七十四條ノ支出計算書ハ計算證明規程第十八條ニ依リ調製シ 支出官ヨリ直ニ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

前項ノ計算書ニ添附スヘキ證憑書類ニ關シテハ左ニ掲グルモノニ限リ仕譯書ヲ以テ領收證書ニ代用スルコトヲ得

俸給、雇員給、傭人料(臨時傭入ノ者ヲ除ク)、諸手當、賞與、慰勞金、諸謝金、被服代料、靴料、賄料、地所及家屋ノ借料

第二十六條 支出官翌年度五月三十一日ヲ過キ年度又ハ科目ノ誤謬ヲ發見シタルトキハ其ノ旨ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第二十七條 支出官經費支拂上被詐取ノ事實ヲ發見シタルトキハ遲滞ナク其ノ事由ヲ詳記シ之ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

前項ノ場合ニ於テ缺損金ヲ補填スル必要アルトキハ缺損補填金支拂要求書ヲ農商務大臣ニ提出

二九九

第四章 國有財産

第二十八條 大林區署長ハ國有林野ニ屬スルモノヲ除クノ外毎年一回國有財産ノ實地検査ヲ行フヘシ増減變更ノ場合亦同シ

第二十九條 大林區署長國有財産法第四條但書ニ依リ公用財産ノ使用又ハ收益ヲ爲サシメムトスルトキハ其ノ事由ヲ詳記シ農商務大臣ニ經伺スヘシ但期間三箇年ヲ超エサルモノハ大林區署長ニ於テ之ヲ處理シ其ノ旨ヲ報告スヘシ

第三十條 大林區署長ハ國有林野ニ屬スルモノヲ除クノ外國有財産臺帳ノ總括各二通及毎年度間ニ於ケル國有財産増減報告書三通ヲ翌年度六月二十日迄ニ農商務大臣ニ提出スヘシ

第三十一條 大林區署長ハ國有林野ニ屬スルモノヲ除クノ外毎五年三月三十一日現在ニ於ケル國有財産現在額報告書三通ヲ其ノ年七月二十日迄ニ農商務大臣ニ提出スヘシ

第三十二條 國有財産法施行令第三十五條ノ國有財産増減計算書ハ計算證明規程第六十九條ニ依リ調製シ左ノ期日迄ニ大林區署長ヨリ直ニ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

四月乃至九月分 十月三十一日限
十月乃至三月分 翌年度四月三十日限
前項ノ計算書ニ添附スヘキ證書類ハ左ニ掲グルモノニ限り計算證明規程第七十三條ニ依リ之

ヲ省略スルコトヲ得

- 一 貸付及準貸付ニ付テハ面積一町步ヲ超エサルモノ
- 二 賣拂、讓與又ハ貸付ノ豫約並保管、委託及部分林設定ニ付テハ面積五町步ヲ超エサルモノ

第五章 物 品

第三十三條 物品ノ出納ハ出納命令官ノ命令ニ依リ物品會計官吏又ハ林産物品會計官吏之ヲ行フヘシ但シ買入後直ニ消費スル物品ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三十四條 保管轉換、贈與、賣拂等ニ依ル拂出ニ付テハ決議書ヲ以テ前條ノ命令ニ代フルコトヲ得林産物品ノ受入ニ付亦同シ

第三十五條 物品ハ左ノ類別ニ依リ之ヲ取扱フヘシ

- 一 保存品
- 二 消耗品
- 三 事業材料品
- 四 林産物品

第三十六條 左ニ掲グル物品ハ特別用文具トシテ供用セシムルコトヲ得

- 一 國有財産臺帳用及製圖用ノ筆、ペン先、ペン軸、鉛筆、墨、朱墨、文鎮、定木、尺度、烏口、コンパス、留針、字消ゴム

- 二 簿記製表用ノペン先、ペン軸、インキ、押紙、丸定木
- 三 辭令書用ノ筆、墨
- 四 複寫版用ノ筆、インキ、海綿
- 五 議事用及野帳筆記用ノ鉛筆
- 六 標柱記載用ノ筆、墨、硯石

第三十七條 物品會計官吏又ハ林產物品會計官吏納入ノ命令ヲ受ケタルトキハ現品受領ノ手續ヲ爲シ其ノ買入ニ係ルモノハ關係書類ニ出納簿記入年月日ヲ附記シテ支出官ニ之ヲ送付シ、保管轉換、寄贈及返納等ニ係ルモノハ領收證書ヲ發送スヘシ

第三十八條 物品取扱主任物品ノ交付ヲ受ケムトスルトキハ保存品及事業材料品ニ付テハ其ノ都度、消耗品ニ付テハ毎三箇月ノ所要數量ヲ概算シ出納命令官ニ請求スヘシ

小林區署及公有林野官行造林署ニ於テ常時使用スル消耗品ニ付テハ出納命令官ハ前項ノ請求ヲ俟タス豫メ半箇年度ノ所要數量ヲ概算シ拂出命令ヲ發スルコトヲ得

第三十九條 物品會計官吏又ハ林產物品會計官吏拂出命令ヲ受ケタルトキハ現品ヲ受取人ニ交付シ其ノ領收證書ヲ徵スヘシ

小林區署又ハ公有林野官行造林署其ノ他遠隔ノ地ニ於テ物品ヲ受領シタル者ハ三日以内ニ領收證書ヲ物品會計官吏ニ送付スヘシ

第四十條 物品會計官吏ヨリ受領シタル物品不用ニ歸シタルトキハ其ノ物品ノ受領者ハ物品會計

官吏ヲ經テ其ノ返納書ヲ出納命令官ニ差出スヘシ

小林區署又ハ公有林野官行造林署其ノ他遠隔ノ地ニ在ル物品不用ニ歸シタルトキハ其ノ物品ノ受領者其ノ處分ニ付出納命令官ノ指揮ヲ受クヘシ但シ當該林區署長ノ權限ニ屬スルモノニ付テハ其ノ指揮ヲ受クヘシ

第四十一條 小林區署長又ハ公有林野官行造林署長物品ノ買入、修繕又ハ不用物品ノ賣拂ヲ爲シタルトキハ其ノ署物品取扱主任ヲシテ受入又ハ拂出ノ手續ヲ爲サシメ連署ヲ以テ大林區署長ニ報告スヘシ但シ買入後直ニ消費スル物品ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

出納命令官ハ前項ノ報告書ヲ以テ出納命令書ニ代ヘ物品會計官吏ヲシテ出納ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第四十二條 物品ノ修繕ヲ要スルトキハ物品取扱主任ノ保管ニ屬スルモノニ付テハ物品取扱主任、其ノ他ノモノニ付テハ物品會計官吏之ヲ出納命令官ニ請求スヘシ

第四十三條 物品會計官吏圖書ヲ貸付セムトスルトキハ借覽者ヨリ圖書借覽證書ヲ徵スヘシ但シ各課、小林區署及公有林野官行造林署ノ常用ニ供スル圖書ハ各課長又ハ當該林區署長ヨリ之ヲ徵スヘシ

前項本文ノ場合ニ於テハ其ノ貸付期間ハ三十日以内トス但シ公務旅行ノ爲攜帶ヲ要スル圖書ニ付テハ其ノ出張期間内トス

前項貸付期間經過後繼續シテ貸付セムトスルトキハ更ニ第二項ノ手續ヲ爲スヘシ

借覽申ノ圖書ハ之ヲ轉貸セシムルコトヲ得ス

第四十四條 前條第一項但書ノ場合ニ於テ課長又ハ當該林區署長交替シタルトキハ後任者ハ圖書ノ引繼ヲ受ケ其ノ授受報告書ヲ物品會計官吏ニ送付スヘシ此ノ場合ニ於テハ該報告書ヲ以テ後任者ノ借覽證書ト看做ス

第四十五條 物品會計官吏圖書ノ還付ヲ受ケタルトキハ其ノ借覽證書ヲ返付スヘシ但シ前條ニ依リ引繼アリタル圖書ノ還付ヲ受ケタルトキハ領收證書ヲ交付スヘシ

第四十六條 物品取扱主任交替シタルトキハ後任者ハ物品ノ引繼ヲ受ケ前任者ト連署シテ其ノ旨ヲ物品會計官吏ニ報告スヘシ

第四十七條 物品取扱主任物品ヲ使用セムトスル者ヨリ請求ヲ受ケタルトキハ帳簿ニ記入捺印セシメ現品ヲ交付スヘシ但シ領收證書ヲ徴シタルトキハ帳簿ニ相當ノ記入ヲ爲スヘシ

物品取扱主任物品ノ返付ヲ受ケタルトキハ帳簿ニ其ノ旨ヲ記入シ領收證書ヲ徴シタルモノハ之ヲ返付スヘシ

第四十八條 事業材料品ヲ以テ事業用ノ物品ヲ作製シタルトキハ物品取扱主任又ハ物品會計官吏遲滯ナク其ノ旨ヲ出納命令官ニ報告スヘシ

第四十一條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
第四十九條 物品取扱主任ハ公務旅行者、保護區詰員、擔當區詰員及事業場詰員ノ請求ニ依リ郵便切手類ノ概算渡ヲ爲スコトヲ得

郵便切手類ノ概算渡ヲ受ケタル者ハ公務旅行者ニ在リテハ歸署後三日以内ニ、其ノ他ノ者ニ在

リテハ翌月三日迄ニ明細書ヲ調製シ精算ノ手續ヲ爲スヘシ
第五十條 物品取扱主任ハ毎年三月末日保管物品ノ狀況、使用ノ適否及現在數ヲ検査シ其ノ調書ヲ翌月五日迄ニ物品會計官吏ヲ經由シ出納命令官ニ提出スヘシ

第五十一條 物品會計官吏、林產物品會計官吏及物品取扱主任ハ各其ノ保管スル物品ニ付保管ノ責ニ任ス但シ使用者ニ交付シタル物品ニ付テハ監督ヲ怠リタル場合ノ外其ノ責ニ任セス

第五十二條 故意又ハ怠惰ニ因リ物品ヲ亡失又ハ毀損シタル者ハ物品又ハ代價ヲ以テ之ヲ辨償スヘシ

第五十三條 物品ノ亡失又ハ毀損アリタルトキハ各保管者遲滯ナク其ノ其事實ヲ出納命令官ヲ經由シテ大林區署長ニ具申スヘシ

第五十四條 大林區署長ハ前條ノ事實ヲ審査シ故意又ハ怠惰ニ因リ亡失又ハ毀損シタルモノト認ムルトキハ其ノ處分意見ヲ農商務大臣ニ具申スヘシ其ノ代價ヲ辨償セシムヘキ場合ニ於テハ辨償金額算定ノ基礎ヲ附記スヘシ

第五十五條 前條亡失又ハ毀損ニ係ル損害額ニシテ林產物品ニ在リテハ二百圓、其ノ他ノ物品ニ在リテハ二十圓ヲ超エサルモノ及故意又ハ怠惰ニ因ラスト認ムルモノハ大林區署長ニ於テ之ヲ處分シ翌年度四月三十日迄ニ之ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第六章 契約

第五十六條 大林區署長ハ部下ノ官吏ヲシテ契約ヲ擔任セシムルコトヲ得

第五十七條 大林區署長ハ會計規則第九十七條ニ該當スル者アリト認メタルトキハ其ノ事由ヲ詳細シ遅滞ナク之ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第五十八條 大林區署長ハ會計法第三十一條第二項ニ依リ指名競争ニ付シテ契約ヲ結ビ又ハ隨意契約ヲ結ビタルトキハ其ノ事由ヲ詳細シ遅滞ナク之ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第五十九條 入札保證金ハ落札人ノ請求ニ依リ之ヲ契約保證金ニ充當スルコトヲ得

第六十條 工事ノ請負契約ヲ結フ場合ニ於テ保全期間ヲ定ムル必要アルトキハ該期間契約保證金ノ全部又ハ一部ヲ留保スヘキコトヲ契約スヘシ

第六十一條 建築又ハ土木等ノ工事ニ付特ニ監督又ハ検査ヲ命セラレタル者ナキ場合ニ於テハ其ノ契約ヲ結ビタル林區署長之ヲ監督シ工事竣功シタルトキハ請負人ヨリ其ノ竣功年月日ヲ記載シタル届書ヲ徴シ検査ヲ遂ケ合格ト認メタルモノニ付テハ承認書ヲ交付シテ物件ヲ受領スヘシ
小林區署長又ハ公有林野官行造林署長前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ大林區署長ニ報告スヘシ

第六十二條 小林區署長又ハ公有林野官行造林署長物件ノ賣買又ハ工事ノ請負ヲ競争ニ付スル必要アリト認ムルトキハ公告案、契約書案、豫定價格調書、注文書、設計書、仕譯書等ヲ添ヘ大

林區署長ノ指揮ヲ受クヘシ但シ其ノ權限ニ屬スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ場合ニ於テ官報又ハ新聞紙ニ公告スル必要アリト認ムルモノハ公告ノ日ヨリ十日以前ニ其ノ公告案ヲ大林區署長ニ送付スヘシ

第六十三條 小林區署長又ハ公有林野官行造林署長契約ヲ結ビタルトキハ遅滞ナク關係書類ヲ添ヘ其ノ旨ヲ大林區署長ニ報告スヘシ競争不結果ニ了リタル場合ニ於テハ其ノ旨ヲ報告スヘシ

第六十四條 大林區署長土地及建物ノ借入又ハ造林用苗木購入ノ爲豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ結ハムトスルトキハ土地及建物ノ借入ニ付テハ五箇年以内、苗木購入ニ付テハ三箇年以内ノ期限ヲ定メ其ノ事由ヲ具シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ土地及建物ノ借料又ハ苗木購入代ノ次年度以降各年度ニ於ケル年額力契約ヲ結フ年度ノ豫算定額又ハ認可ヲ受ケタル豫定案

總括表ニ記載セル金額ニ超過セサル場合ハ此ノ限ニ在ラス
長期ニ互リ土地又ハ建物ノ借入ヲ要スル場合ニ於テ政府ノ都合ニ依リ何時ニテモ契約ヲ解除シ得ヘキ條件ヲ附シタルモノハ前項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第六十五條 小林區署長又ハ公有林野官行造林署長其ノ權限外ニ係ル土地又ハ建物ノ借入ヲ要スト認ムルトキハ其ノ事由、物件ノ所在、種類、面積、期間、料金、貸主ノ住所氏名等ヲ具シ圖(面)ヲ添ヘ大林區署長ノ指揮ヲ受クヘシ
小林區署長又ハ公有林野官行造林署長借入ノ契約ヲ結ビタルトキハ契約書ヲ添ヘ其ノ旨ヲ大林

區署長ニ報告スヘシ

第六十六條 借入タル物件ノ貸主ニ變更アリタルトキハ當該林區署長ハ其ノ契約ヲ更改スルコト

ヲ得此ノ場合ニ於テハ新貸主ノ請書ヲ添ヘ其ノ旨ヲ大林區署長ニ報告スヘシ

第八條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六十七條 小林區署長又ハ公有林野官行造林署長地上權又ハ地役權ノ設定ヲ要スルトキハ其ノ

旨ヲ大林區署長ニ具申スヘシ貸借ノ登記ヲ要スルトキ亦同シ

第六十八條 小林區署長又ハ公有林野官行造林署長借入物件ヲ返還シタルトキハ領收證書ヲ徴シ

其ノ旨ヲ大林區署長ニ報告スヘシ但シ其ノ權限ニ屬セサルモノニ付テハ領收證書ヲ添附スヘシ

第六十九條 附箋ニ依リ又ハ餘白ニ記載シテ契約書其ノ他契約ニ關スル書類ニ記載シタル事項ヲ

變更シタルトキハ契約者雙方ノ契印ヲ要ス

第七章 出納官吏

第七十條 出納官吏保管ノ現金ヲ亡失シ又ハ其ノ行爲ニ因リ政府ニ損失ヲ生セシメタル場合ニ於

テハ大林區署長遲滯ナク其ノ旨ヲ農商務大臣ニ報告シ更ニ會計規則第三百三十六條第二項ニ依リ

検査員ヲシテ検査ヲ遂ケシメ其ノ檢定書ニ關係官吏ノ手續書ヲ添ヘ農商務大臣ニ具申スヘシ

出納官吏ニ對シ私訴ヲ提起シタルトキハ訴狀ノ寫ヲ添ヘ其ノ旨ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ判決

確定シタルトキ亦同シ

第二十七條第二項ノ規定ハ第一項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七十一條 分任收入官吏ハ出納官吏事務規程第二十四條第一項ノ現金拂込仕譯書ヲ翌月一日迄

ニ主任收入官吏ニ送付スヘシ分任收入官吏現金出納ヲ爲ササルトキハ其ノ旨ヲ報告スヘシ

第七十二條 分任收入官吏ハ計算證明規程第五十條ノ書式ニ準シ現金出納計算書ヲ調製シ證憑書

類及檢定書ヲ添ヘ翌年度四月十五日迄ニ之ヲ主任收入官吏ニ送付スヘシ

第七十三條 主任收入官吏交替アリタルトキハ分任收入官吏ハ其ノ交替當日迄ニ取扱ヒタル出納

ニ付十五日以内ニ前條ノ手續ヲ爲スヘシ分任收入官吏交替シタルトキ亦同シ

第七十四條 資金前渡官吏前渡金ノ支拂ヲ請求スルトキハ其ノ科目ヲ明記スヘシ

第七十五條 資金前渡官吏誤拂過渡ヲ發見シタルトキハ遲滯ナク回收ノ手續ヲ爲スヘシ

第七十六條 出納官吏事務規程第三條但書ニ依リ預託シタル保管金ニ對スル利子ヲ生シタルトキ

ハ資金前渡官吏之ヲ歳入ニ納付ノ手續ヲ爲スヘシ

第七十七條 歳入歳出外現金出納官吏ハ計算證明規程第五十條ニ依リ歳入歳出外現金出納計算書

ヲ調製シ證憑書類及檢定書ヲ添ヘ翌年度四月十五日迄ニ大林區署長ニ送付スヘシ歳入歳出外現

金出納官吏交替シタルトキハ十五日以内ニ其ノ手續ヲ爲スヘシ大林區署長前項ノ計算書ヲ受ケ

タルトキハ之ヲ検査シ検査成績報告書ヲ調製シ十五日以内ニ之ヲ農商務大臣ニ提出スヘシ

前二項ノ規定ハ入札保證金其ノ他一時ノ取扱ニ屬スルモノニハ之ヲ適用セス

第七十八條 大林區署長ハ林產物品ニ付テハ毎年度ヲ一期トシ其ノ他ノ物品ニ付テハ四箇年度ヲ

一期トシ其ノ次期ノ初メニ於テ検査員ヲシテ其ノ物品竝前期間ニ於ケル帳簿及證憑書類ヲ検査セシメ其ノ調書ヲ提出セシムヘシ

第七十九條 大林區署長ハ翌年度四月三十日迄ニ物品出納簿ニ依リ林產物品以外ノ物品出納ヲ検査シ出納簿ノ末尾ニ検査済ノ旨及其ノ年月日ヲ記入シ記名捺印スヘシ

第八十條 大林區署長ハ前二條ニ依ル検査ヲ完了シタルトキハ検査成績報告書ヲ調製シ十五日以内ニ之ヲ農商務大臣ニ提出スヘシ

第八十一條 物品會計官吏又ハ林產物品會計官吏交替シタルトキハ大林區署長ハ三十日以内ニ前三條ノ手續ヲ爲スヘシ

第八章 帳簿

第八十二條 歳入徴收官ハ徴收簿ノ外左ノ帳簿ヲ設ケ收入ノ計算ヲ整理スヘシ

一 歳入調定原簿

二 收入年期臺帳

三 收入延納臺帳

第八十三條 支出官ハ支出簿ノ外左ノ帳簿ヲ設ケ經費ノ計算ヲ整理スヘシ

一 經費支出内譯簿

二 資金前渡金整理簿

三 概算支出金整理簿

第八十四條 出納官吏ハ現金出納簿ノ外現金出納内譯簿ヲ設ケ現金出納ノ計算ヲ整理スヘシ

第八十五條 大林區署ノ物品會計官吏ハ左ノ帳簿ヲ設ケ物品ノ出納ヲ整理スヘシ

一 物品出納簿

保存品、消耗品及事業材料品ニ類別シ各別冊トス

二 供用品人別簿

三 圖書目錄簿

四 圖書貸付簿

製材所ノ物品會計官吏ハ物品出納簿ノ外左ノ帳簿ヲ設ケ物品ノ受拂ヲ整理スヘシ

一 消耗品受拂簿

二 事業材料品受拂簿

三 郵便切手受拂簿

第八十六條 林產物品會計官吏ハ林產物品出納簿ヲ設ケ其ノ出納ヲ整理スヘシ但シ國有林野事業規程第四十六條第二號乃至第四號ノ製品受拂及第三號ノ原料受拂ニ關スル實行簿ヲ以テ出納簿ニ代フルコトヲ得

第八十七條 物品取扱主任ハ左ノ帳簿ヲ設ケ物品ノ受拂ヲ整理スヘシ

一 保存品受拂簿

二 消耗品受拂簿

三 事業材料品受拂簿

四 郵便切手受拂簿

第八十八條 保管有價證券取扱主任官ハ保管有價證券受拂簿ヲ設ケ政府ノ保管ニ係ル有價證券ノ受拂ヲ整理スヘシ

第八十九條 大林區署長ハ左ノ帳簿ヲ設ケ借入物件ノ増減ヲ整理スヘシ

一 民有土地借入臺帳

二 民有建物借入臺帳

第九十條 小林區署長及公有林野官行造林署長ハ左ノ帳簿ヲ設ケ收入及經費ノ計算並借入物件ノ増減ヲ整理スヘシ

一 歳入徴收額整理簿

二 收入延納臺帳

三 收入延納臺帳

四 經費整理簿

五 民有土地借入臺帳

六 民有建物借入臺帳

第九章 雜 則

第九十一條 保管有價證券取扱主任官ノ保管ニ係ル國債カ政府ノ所得ニ歸シタルトキハ大林區署長ハ國債買入銷却方ヲ農商務大臣ニ請求スヘシ

第九十二條 小林區署長又ハ公有林野官行造林署長建物ノ營繕ヲ要スルモノアルトキハ其ノ箇所、仕様及工費ノ概要ヲ調査シ圖面ヲ要スルモノハ之ヲ添へ毎年度四月十日迄ニ之ヲ大林區署長ニ具申スヘシ但シ臨時急施ヲ要スルモノニ付テハ其ノ都度當業者ノ見積書ヲ添附シテ具申スヘシ

第九十三條 明治三十八年農商務省令第二十八號ニ依リ不動産ヲ擔保トシテ提供セシムル場合ニ於テハ登記請求書ニ通ニ抵當權設定證書ヲ添附セシメ不動産登記ノ手續ヲ爲スヘシ但シ不動産ノ價格ハ時價ノ七割ヲ以テ算定スヘシ

第九十四條 本規程ニ依ル書類及帳簿ノ様式ハ山林局長之ヲ定ムヘシ

附 則

本規程ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ適用ス

大林區署長ハ大正十一年四月一日現在ニ於ケル國有財産現在額報告書三通ヲ調製シ其ノ年七月三十一日迄ニ農商務大臣ニ提出スヘシ

(別記)

林區署給與規程

明治四十三年七月
農商務省訓令第二十一號

第一章 俸 給

第一條 林區署員ノ俸給ハ受給者ノ請求ヲ俟タズ俸給支給日ニ大林區署ニ於テ之ヲ支給スヘシ
大林區署所在地外ニ在ル受給者ノ俸給ハ支給日ニ於テ其ノ在勤地若ハ出張地へ休職者ノ俸給
ハ其ノ請求ニ依リ居住地へ送付スヘシ但シ運輸通信ノ不便ナル地ニ在リテ其ノ月中ニ到達シ能
ハスト認ムルモノハ支給日以前ニ於テ之ヲ送付スルコトヲ得

第二條 俸給支給日以後ニ於テ増俸ノ者アルトキハ辭令到達又ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三
日以内ニ前條ノ手續ヲ爲スヘシ

第三條 他廳へ轉任、轉勤又ハ退官、死亡ノ場合ニ於テハ受給者ノ請求ヲ俟タズ辭令到達又ハ其
ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三日以内ニ在職中ノ俸給ヲ大林區署ニ於テ支給スヘシ但シ受給者ノ請
求アルトキハ其ノ在勤地若ハ居住地へ送付スヘシ

前項轉任又ハ轉勤ノ場合ニ於テ支給濟ノ俸給ニ過渡アルトキハ十五日以内ニ於テ相當ノ期間ヲ
定メ返納告知書ヲ發シ之ヲ返納セシムヘシ
休職ノ場合ニ於テ支給濟ノ俸給ニ過渡アルトキハ翌月ノ俸給ニ於テ差引整理スルコトヲ得但シ
會計年度ヲ異ニスル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二章 旅 費

第四條 大林區署長部下ノ官吏ニ旅行ヲ命スルトキハ豫メ其ノ日數及順路ヲ指定スヘシ
旅行ノ順路ハ出發地ト目的地トノ間ニ於ケル最近ノ線路ニ依ルモノトス
最近線路ニアラサルモ特ニ便利ナル線路アルトキハ最近路程(陸路、鐵道又ハ水路ニ互ルトキハ
陸路ニ換算ス)又ハ之カ旅費支給額ニ比較シ五割ヲ超エサルモノニ限り其ノ線路ヲ指定スルコ
トヲ得但シ此ノ場合ニ於テ最近線路ノ一部ニ代ヘテ比較スルモノナル時ハ其ノ起點終點間ノ路
程又ハ旅費額ニ依ルモノトス

第五條 旅行ノ路程ハ左ノ區分ニ依リ計算スヘシ

- 一 陸路ハ郵便線路圖ニ記載アル里數ニ依ル之ヲ記載ナキモノハ町村内大字又ハ市ヲ一區域ト
シ其ノ原標間ノ里數ニ依ル
- 二 鐵道ハ汽車ト電車トヲ問ハス官報掲載ノ哩數ニ依ル但シ軌道條例ニ依ルモノハ此ノ限ニ在
ラス
- 三 水路ハ大正四年八月會第七六九號達水路里程表ノ海里數ニ依ル之ニ記載ナキモノハ郵便線
路圖ニ記載アル海里數ニ依ル
- 四 鐵道又ハ水路旅行中一區域内ニ於ケル路程計算ノ起點(郵便局又ハ原標)及停車場又ハ波止
場間ノ里數ハ陸路旅行ノ旅程ニ算入ス

五 一區域内ニ二箇所以上ノ停車場アルトキハ豫メ乗車下車ノ停車場ヲ定ムヘシ

第六條 公務旅行ノ命ヲ受ケタル者ハ第四條ノ日數及路程ニ基キ左ノ區分ニ依リ旅費概算渡ヲ請求スルコトヲ得但シ他廳ヘ赴任又ハ出向ノ場合ハ此ノ限リニ在ラス

一 管内旅行ハ出發ヨリ歸著迄ニ相當スル金額但シ六十日以上ニ渉ル旅行ハ之ヲ數回ニ分チ每回六日以内トス

二 管外旅行ハ目的地迄ノ往復及滞在日數ニ相當スル金額

三 赴任及任用召喚ノ旅行ハ舊任地又ハ居住地若ハ滞在地ヨリ新任地迄ニ相當スル金額

小林區署員及公有林野官行造林署員ノ日額旅費ハ一箇月所要ノ金額ヲ限リ概算渡ヲ爲スコトヲ得

第七條 旅費概算渡ノ請求ハ臨時至急ヲ要スルモノノ外出發ノ三日以前ニ次回以後ハ前回概算金

ノ精算ト同時ニ其ノ請求書ヲ差出スヘシ但シ旅行中精算ヲ爲シ能ハサル事情アルトキハ其事由ヲ具シ前回概算金ニ對スル豫定期日經過ノ後次回ノ概算渡ヲ請求スルコトヲ得

前條第二項ノ概算渡請求書ハ前月下旬ニ差出スヘシ

第八條 旅費ハ用務終了又ハ在勤廳ヘ歸著(一時ノ歸廳ヲ除ク)ノ翌日ヨリ七日以内ニ精算シ其ノ精算書ヲ差出スヘシ

前項ノ期間ハ第六條第一項第一號但書ニ依リ概算渡ヲ受ケタル者ニ付テハ毎回豫定期日經過ノ日、小林區署員及公有林野官行造林署員ノ日額旅費ニ付テハ翌月一日、旅行ノ兩會計年度ニ跨

ル場合ニ於テ其ノ前年度分ニ付テハ該年度經過ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第九條 旅費概算渡ノ精算ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ概算金ノ全部ニ對シ過不足ヲ計算スヘシ但シ

第七條但書ニ依リタルモノハ數回ノ概算金ヲ通シテ計算スヘシ

第十條 旅費ハ受給者ノ請求ニ依リ臨時至急ヲ要スルモノノ外左ノ期間ニ大林區署ニ於テ之ヲ支給スヘシ但シ受給者大林區署所在地外ニ在ルトキハ其ノ在勤地、出張地若ハ居住地ヘ送付スヘシ

一 概算旅費ハ請求ヲ受ケタル日ヨリ三日以内

二 精算旅費ハ請求ヲ受ケタル日ヨリ五日以内

第十一條 旅費概算渡ニ對シ精算上過剩ヲ生シタルモノハ十五日以内ニ於テ相當ノ期間ヲ定メ返納告知書ヲ發シ之ヲ返納セシムヘシ概算旅費ヲ受取タル後公務旅行ヲ免セラレタルトキ亦同シ但シ小林區署員及公有林野官行造林署員日額旅費ノ精算上過剩ヲ生シタルモノハ翌月ニ繰越スコトヲ得

第三章 諸 給

第十二條 退官賜金及死亡賜金ハ受給者ノ請求ヲ俟タス當該豫算ノ令達ヲ受ケタル日ヨリ三日以内ニ大林區署ニ於テ之ヲ支給スヘシ但シ受給者大林區署所在地外ニ在ルトキハ其ノ居住地ヘ送付スヘシ

第十三條 死傷手當及療治料ハ其ノ原因竝傷痕ノ輕重等ヲ調査シ醫師ノ診斷書及實費ノ計算書ヲ徵シ遲滯ナリ豫算ノ増額ヲ農商務大臣ニ請求シ其ノ令達ヲ受ケタル日ヨリ三日以内ニ大林區署ニ於テ之ヲ支給スヘシ但シ受給者大林區署所在地外ニ在ルトキハ其ノ在勤地若ハ居住地ヘ送付スヘシ

第十四條 雇員ノ月給ハ文官俸給支給細則ノ例ニ準據シ、日給ハ勤務日數ニ應シ之ヲ支給スルモノトス

- 左記各號ノ一ニ該當スル日數ハ之ヲ前項ノ勤務日數ニ算入ス但シ第一號及第三號ノ場合ニ於テ病氣又ハ私事ノ故障ニ因リ當該日ノ前後トモ缺勤シタルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 一 公假日
 - 二 暑中賜暇アリタルトキハ其ノ日數
 - 三 父母ノ祭日
 - 四 父母配偶者ハ七日以内其ノ他ハ三日以内ノ忌引缺勤
 - 五 職務ニ因ル傷痍疾病中ノ缺勤
 - 六 傳染病ノ爲交通遮斷又ハ隔離法施行中ノ缺勤
 - 七 徵兵検査又ハ簡閱點呼ノ當日及之ニ要スル往復日數
 - 八 裁判所ノ召喚ニ依リ職務ニ關シ證人、參考人又ハ鑑定人トシテ出廷ノ當日及之ニ要スル往復日數

雇員ノ日給ハ受給者ノ請求ヲ俟タス左ノ區分ニ依リ大林區署ニ於テ之ヲ支給スヘシ

- 一 前月二十一日ヨリ其ノ二十日迄ノ日給ハ其月二十三日(二十一日以後休暇アレハ順延トス)
 - 二 三月二十一日以後ノ日給ハ翌月五日以内
 - 三 解免又ハ死亡ノ場合ハ辭令發付若ハ通知ヲ受ケタル日ヨリ三日以内
- 大林區署外ニ在ル雇員ノ日給ハ小林區署長公有林野官行造林署長又ハ之ヲ使用シタル官吏ノ證明シタル勤務日數ノ報告ニ依リ其ノ月二十三日ヨリ末日迄ニ其ノ在勤地若ハ出張地ヘ送付スヘシ

第十五條 雇員ノ月俸及年額又ハ月額ヲ以テ支給スル囑託員手當ノ支給手續ハ第一條乃至第三條ノ規定ヲ準用ス

第十六條 (削除)

第十七條 大林區署員ノ宿直食料ハ受給者ノ請求ヲ俟タス支給定日ニ大林區署ニ於テ之ヲ支給スヘシ但シ受給者轉任、轉勤、休職、退官、解免又ハ死亡ノ場合ニ於テハ其ノ翌日ヨリ三日以内ニ之ヲ支給スヘシ
製材所員ノ宿直食料ハ小林區署長ノ報告ニ依リ支給定日ニ於テ其ノ在勤地ニ送付スヘシ

第四章 雜 則

第十八條 大林區署ニ於テ支給スル給與ニシテ受給者大林區署ニ出頭シ能ハサルトキハ相當ノ代

理人ヲ差出スヘシ但シ受給者公務旅行又ハ許可ヲ得テ旅行中ナルトキハ其ノ請求ニ依リ滞在
ヘ送付スルコトヲ得

第十九條 總代人ヲ以テ俸給又ハ食料ヲ受取ラムトスル者ハ豫メ之ヲ選定シ連署捺印シテ其ノ旨
ヲ大林區署長ニ届出ツヘシ

第二十條 受給者大林區署ニ於テ小切手ヲ受取タルトキハ直ニ其ノ領收證ヲ差出シ遞送拂ニ係ル
支拂通知書ヲ受取タルトキハ之ニ年月日ヲ記入シ署名捺印シテ日本銀行ニ交付スヘシ

第二十一條 小林區署員及公有林野官行造林署員ノ旅費請求書及精算書ハ小林區署長又ハ公有林
野官行造林署長ヲ經由スヘシ此ノ場合ニ於テ小林區署長又ハ公有林野官行造林署長ハ之ニ檢印

シテ其ノ正確ヲ證スヘシ製材所員及斫伐其ノ他事業場詰員ノ旅費請求書及精算書亦之ニ準ス
第二十二條 本規程ニ因ル書類ノ様式ハ山林局長之ヲ定ムヘシ

附 則

第二十三條 本規程ハ明治四十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
左ノ訓令及達ハ之ヲ廢止ス

林區署給與順序

明治二十三年九月丙林第三四一號達

明治二十三年十二月林第九五九一號達

明治二十六年三月農商務省訓令第六號

明治二十七年十一月戊第一八九號達

明治三十四年八月林發第三八六號達

林區署及林業試驗場職員

月手當支給細則

大正十年七月
林第一六九八號達

第一條 大正九年勅令第四百五號ニ依ル手當ハ別表ノ區別ニ從ヒ之ヲ支給ス

第二條 手當ハ任地ニ到達シタル日ノ翌日ヨリ之ヲ支給ス但シ在勤スヘキ地ニ於テ任命セラレタ
ル者ニ對シテハ命令到達ノ翌日ヨリ之ヲ支給ス

轉任、轉勤ノ場合ニ於テハ手當ハ舊任地出發ノ前日迄之ヲ支給ス但シ命令到達ノ日ヨリ八日ヲ
超ユルコトヲ得ス

特別ノ命令ニ依リ又ハ已ムコトヲ得サル事故ノ爲出發スルコト能ハサル場合ニ於テハ前項但書
ノ規定ニ拘ラス其ノ間仍手當ヲ支給ス

第三條 退官、休職、退職 又ハ死亡ノ場合ニ於テハ當月分ノ手當ハ其ノ全額ヲ支給ス
事務引繼、殘務調理ノ爲公務ニ從事スルトキハ其ノ事務終了ノ日迄仍手當ヲ支給ス

第四條 病氣ノ爲執務セサルコト九十日ヲ踰ユルトキ又ハ私事ノ故障ニ依リ執務セサルコト三十

日ヲ踰ユルトキハ手當ノ半額ヲ減ス但シ公務ノ爲傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ又ハ服忌ヲ受クルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第五條 歸省、轉地療養其ノ他私事ノ爲任地ヲ離レタルトキハ其ノ間手當ヲ支給セス

第六條 兼務ノ者ニハ手當ヲ支給セス

第七條 手當ハ毎月俸給支給定日ニ於テ之ヲ支給ス但シ新任、轉任、轉勤、退官、休職、退職又ハ死亡等ノ場合ニ於テハ支給定日ニ拘ラス之ヲ支給ス

第八條 手當ノ額ニ増減ヲ生シタルトキハ發令ノ翌日ヨリ之ヲ計算ス

第九條 手當ノ日割計算ニ付テハ其ノ月ノ現日數ニ依ル

第十條 大林區署長別表一號地乃至三號地ノ場所ヲ變更スルノ必要アリト認ムルトキハ其ノ旨稟申スヘシ

附 則

本達ハ大正十年六月分ヨリ之ヲ適用ス但シ小笠原島ニ在勤スル者ニ付テハ大正十年五月分ヨリ之ヲ適用ス

林區署員月手當給與細則ハ之ヲ廢止ス

林區署旅費規則第三條第三項ハ之ヲ削除ス

(別 表)

場 所	奏 任 官	金		額
		一 判	任 官	
東京府下小笠原島	二十圓	一	等 二 等 以下	十圓
沖繩縣下八重山島	十圓	十	十圓	十圓
一號地	七圓	七	七圓	七圓
二號地	五圓	五	五圓	五圓
三號地	三圓五十錢	三	三圓五十錢	三圓五十錢
一號地	左記箇所別ノ通			
青 森	上 北	法 奧 澤	奧 瀨	休 屋
同 城	下 北	佐 井	長 後	牛 瀧
宮 田	玉 造	鬼 首	寒 湯	北 鬼
秋 田	北 田	前 田	砂 子	砂 子
同 田	同 田	上 小 阿 仁	萩 形	萩 形
同 田	同 田	同 泉	同 澤	同 澤
山 形	東 田 川	大 泉	上 田 澤	八 久 和
縣	郡	村	大 字	字
一 號 地				保 護 區 官 舍 名
				和 田
				和 田

同山同同同同秋巖同同同同青
形 田手 森

同東鹿同仙同北下下同同中東
田 角 北 田伊北 津津
川 角 北 田伊北 輕輕

東立宮同田上小前安佐岩同西三
谷 澤 川 澤 仁 田家井木 目 厩

田立長同玉沖森長常砂川字
麥谷谷 田 盤子原
侯澤川 川面吉 後野瀨平鐵

田工坂同玉八小安長嶽砂川栴
麥藤比 木 瀨子原
侯澤平 川澤瀧家後 瀨平榔

田工坂同玉八小安長嶽砂川栴
麥藤比 川木 子原

侯澤平乙甲澤瀧家後 瀨平榔

二號地

同同沖
繩

同同國
頭

同國久
頭志

安安宮
田波城

安安宮
田波城

安安宮

田波城

同同同鹿同同熊同同高同同同岐新枋長福
兒 島 本 知 阜瀉木野島

同同同大同同八安同土同同同大岩鹽下南
島 代藝 佐 野船谷井津

同天龜住久樅葉東同本同同同白三栗堺檜
城津用子木木川 川 川面山 岐
枝

西阿龜西 別桑寺荻平長御三川小檜
阿布木名津間 役瀨川町瀨瀨衣面侯澤岐
赤枝

西平龜西久樅下日桑寺荻平申御三湯居
阿土野津間子木敷裏瀨川町瀨瀨衣面本平
居

西阿龜西久樅葉別桑寺荻平長御三湯小檜
布 仲連 母 赤枝

名名津間子木木役瀨川町瀨瀨衣面本澤岐

山同同同秋同同宮青同同巖	形田城森手
東由同同北刈牡栗下和同下	田利田田鹿原北賀伊
大直同上荒七鮎文川澤門大	泉根上小阿仁瀨宿川字内内馬川
大中沖五湯鮎川門大	島根面澤原濱舟馬川
西中上屋中峠金角畑川門大	大直南布村田山崎舟馬川
西直中屋中湯金文畑川門大	大直南布村田山崎舟馬川
鳥根茂布村原山字舟馬川	鳥根茂布村原山字舟馬川

三號地

同鹿同同	同兒島
肝大安香	屬島藝美
内字佐楨	浦檢濱山
岸湯山別	良灣口府
邊湯山ナ	塚灣口口
邊湯山別	塚灣口府

三二九

同同高同同愛富同岐同群長同同福同析山	知媛山阜馬野島木梨
同土幡同同上東同大同利南岩同耶同鹽東	佐多穴波野根曇瀨麻谷梨
本大津同參柚上清白水赤安湯同檜同栗神	川川大川川平見川上根曇本原山金
脇井藤同中大西大鳩藤根湯檜川湯一	山川川川川尾原谷原利本原俣川瀨
脇井馱下同淵村大鳩大野小野刑	山川場居首中外谷川川川野野部平
脇井藤証鬼大西大鳩藤根大湯小檜川湯神	山川川屋白川尾原谷原利川本川原俣川金

三二八

同	大	同	宮	同	同	同	同	同	同	同	鹿	長	大
分			崎								兒	崎	分
同	大	兒	西	肝	同	同	同	同	同	同	熊	南	直
野	湯	白	杵	屬							毛	松	入
重	小	木	岩	佐	同	同	同	下	同	同	上	岐	阿
岡	野	城	戸	多				屋	久		屋	宿	野
重	木	石	山	邊	栗	平	原	安	一	永	小	川	阿
岡	浦	河	裏	塚	生	内		房	湊	田	瀨	原	野
宗	藤	鶴	川	邊	栗	平	原	安	一	永	小	淵	高
太郎	川	懷	詰	塚	生	内		房	湊	田	瀨	元	津
赤	藤	鶴	川	邊	栗	平	原	安	一	永	小	岐	阿
											瀨		蘇
松	内	懷	詰	塚	生	内		房	湊	田	田	宿	野

公有林野官行造林法

大正九年七月
法律第七號

第一條 國ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ公共團體トノ契約ニ基キ收益ヲ分收スルノ條件ヲ以テ公有林

野ニ造林ヲ爲スコトヲ得

第二條 前條ノ規定ニ依ル造林ニ係ル樹木ハ國ト公共團體トノ共有トシ其ノ持分ハ收益分收ノ一歩合ニ均シキモノトス

民法第二百五十六條ノ規定ハ前項ノ樹木ニ付之ヲ適用セス

第三條 國ハ第一條ノ規定ニ依リ造林ヲ爲ス公有林野ニ同條ノ契約ノ存續期間中地上權ヲ有ス

第四條 公共團體ハ第一條ノ規定ニ依リ造林ヲ爲ス公有林野又ハ第二條ノ規定ニ依リ持分ヲ處分スル場合ニ於テハ國ノ承認ヲ受ケヘシ

第五條 第一條ノ規定ニ依リ造林ヲ爲ス公有林野ノ產物ニ關スル權利ニシテ國ニ屬スルモノハ勅令ノ定ムル所ニ依リ當該公共團體ニ之ヲ讓與スルコトヲ得

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

公有林野官行造林法施行令

大正九年九月
勅令第四百二十六號

- 第一條 國ハ造林地ノ植樹、補植、手入、防火線ノ設置其ノ他造林ニ必要ナル行爲ヲ爲ス
- 第二條 公共團體ハ造林地保護ノ爲左ノ事項ヲ行フノ義務ヲ負フ
 - 一 火災ノ豫防及消防

- 二 盜伐、誤伐、侵墾其ノ他ノ加害行為ノ豫防及防止
 - 三 有害鳥獸ノ驅除
 - 四 境界標其ノ他ノ標識ノ保存
 - 五 大林區署長ノ指定ニ依リ看守人ヲ配置スルコト
- 第三條 公共團體ハ左ノ產物ヲ採取スルコトヲ得
- 一 下草、落葉及落枝
 - 二 樹實及菌蕈ノ類
 - 三 手入ノ爲伐除スル枝條ノ類
 - 四 植樹後二十年内ニ於テ手入ノ爲伐採スル樹木
 - 第四條 造林著手後天然ニ生シタル樹木ハ之ヲ造林契約ニ依ル造林ニ係ル樹木ト看做ス造林著手前ヨリ存スル樹木ニシテ造林ニ係ル樹木ト共ニ生育セシムルモノ亦同シ
 - 第五條 根株ハ別段ノ契約アル場合ヲ除クノ外公共團體ノ所有トス
 - 第六條 造林地ノ收益分收ノ歩合ハ國及公共團體各十分ノ五ヲ標準トシ地代、造林費其ノ他造林契約ノ實行ニ要スル費用ヲ參酌シテ之ヲ定ム
 - 第七條 造林地ノ收益分收ハ其ノ樹木ノ賣拂代金ヲ以テ之ヲ爲ス但シ大林區署長ニ於テ特別ノ事由アリト認ムルトキハ材積ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得
 - 第八條 賣拂代金ヲ以テ收益分收ヲ爲ス場合ニ於ケル樹木ノ賣拂及材積ヲ以テ收益分收ヲ爲ス場

合ニ於ケル分收樹木ノ指定ハ當該官廳之ヲ行フ

- 第九條 造林ニ係ル樹木ニ關シ第三者ヨリ受ケタル賠償金其ノ他ノ金額ハ其ノ請求ニ要シタル費用ヲ控除シ收益分收ノ歩合ニ依リ之ヲ分收ス
- 第十條 公共團體造林地ノ土石ヲ處分セムトスルトキハ當該官廳ノ承認ヲ受クヘシ
- 第十一條 公用若ハ公益事業ノ爲必要アルトキ又ハ造林地ノ經營ニ支障ナキトキハ當該官廳ハ造林地ヲ貸付シ又ハ使用セシムルコトヲ得
- 前項ノ場合ニ於ケル貸付料又ハ使用料ハ公共團體ノ收入トス
- 第十二條 左ノ場合ニ於テハ大林區署長ハ造林契約ノ全部又ハ一部ヲ解除スルコトヲ得
- 一 公用又ハ公益事業ノ爲必要アルトキ
 - 二 公共團體自ラ造林地ノ經營ヲ爲サムトスル場合ニ於テ經營ノ能力確實ナリト認メタルトキ
 - 三 契約ノ目的ヲ達スルコト能ハスト認メタルトキ
 - 四 公共團體造林地又ハ造林ニ係ル樹木ノ持分ヲ處分シタルトキ
 - 五 造林地ヲ林野以外ノ用途ニ供スヘキ特別ノ必要アルトキ
- 第十三條 前條ノ規定ニ依リ契約ヲ解除シタルトキハ直ニ收益分收ヲ爲ス
- 前條第二號又ハ第四號ノ規定ニ依リ契約ヲ解除シタル場合ニ於テハ公共團體ハ大林區署長ノ指定ニ從ヒ造林ニ係ル樹木ニ付國ノ有スル持分ノ價額ニ相當スル金額ヲ納付スヘシ但シ其ノ金額カ造林ノ爲國ノ支出シタル金額ト之ニ對スル重利計算ニ依ル年五分ノ利息ニ相當スル金額トノ

合算額ニ達セサルトキハ其ノ合算額ヲ納付スヘシ
公共團體前項ノ規定ニ依ル金額ヲ納付シタルトキハ造林ニ係ル樹木ニ付國ノ有スル權利ヲ取得
ス

附 則

本令ハ公有林野官行造林法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

公有林野官行造林法施行規則

大正九年九月
農商務省令第三十二號

- 第一條 造林契約ヲ締結セムトスルトキハ大林區署長ハ地方長官ト協議ノ上造林箇所、植栽樹種
契約ノ存續期間及收益分收ノ歩合ヲ定メ公共團體ニ之ヲ提示スヘシ
- 第二條 造林契約成立シタルトキハ大林區署長ハ公共團體ト共ニ造林契約書ヲ作り雙方署名捺印
シテ各一通ヲ領收シ置クヘシ
- 第三條 大林區署ニハ別記様式ニ依ル公有林野官行造林地臺帳ヲ備フヘシ
- 公有林野官行造林地臺帳ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
 - 一 記入番號
 - 二 造林地ノ所在
 - 三 造林地ノ面積

四 公共團體ノ名稱

五 契約ノ年月日

六 地上權登記ノ年月日及番號

七 存續期間

八 收益分收ノ歩合

九 公共團體ノ所有トシテ造林地ニ存置スル樹木ノ種類及本數

十 權利ノ處分及其ノ事由

國有林野臺帳規程及國有林野臺帳及圖面謄本抄本下付規程ハ公有林野官行造林地臺帳ニ關シ之
ヲ準用ス

第四條 造林地ノ施業計畫ヲ定メタルトキハ大林區署長ハ之ヲ公共團體ニ通知スヘシ之ヲ變更シ
タルトキ亦同シ

第五條 公共團體ハ造林地ノ保護及產物ノ採取ニ付當該官廳ノ指揮ニ從フヘシ

第六條 公共團體ハ造林地ノ保護及產物ノ採取ニ關シ規定ヲ設ケ大林區署長ノ承認ヲ受クヘシ之
ヲ變更スルトキ亦同シ

第七條 造林地ニ火災又ハ盜伐アルトキハ公共團體ハ直ニ其ノ防止ニ必要ナル措置ヲ執リ其ノ旨
當該官吏ニ届出ツヘシ造林地ノ附近ニ火災發生シ造林地ヲ害スルノ虞アルトキ亦同シ
造林地若ハ其ノ樹木ニ異狀ヲ生シタルトキ又ハ造林地ノ附近ニ病蟲害其ノ他ノ異狀ヲ生シ造林

地ニ損害ヲ及ホスノ虞アルトキハ公共團體ハ其ノ旨當該官廳ニ届出ツヘシ

第八條 公共團體造林地ニ看守人ヲ置キタルトキハ其ノ住所氏名ヲ當該官廳ニ届出ツヘシ

第九條 公共團體ハ當該官廳ノ承認ヲ受ケ造林地ヲ使用スルコトヲ得

第十條 公共團體造林地又ハ樹木ノ持分ノ處分ニ付承認ヲ受ケムトスルトキハ相手方ト連署連印ノ上願書ヲ大林區署長ニ提出スヘシ

第十一條 造林地ノ地上權ニ關スル登記ハ大林區署長之ヲ囑託スヘシ

第十二條 國有林野法施行規則第五章、明治三十八年農商務省令第二十八號、明治三十八年農商務省令第三十六號、明治三十九年農商務省令第二十五號、國有林野產物賣拂規則及國有林野產物極印規則ハ公有林野官行造林地ニ關シ之ヲ準用ス

附 則

本令ハ公有林野官行造林法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(別記略)

公有林野官行造林地ニ付森林法

ヲ適用スル件

大正九年九月 農商務省令第三十三號

公有林野官行造林法ニ依ル造林地ニ付テハ森林法第十八條第二項及國ト樹木ヲ共有スル者ノ持分

ノ限度ニ於テ森林法第二十八條乃至第三十條ノ規定ヲ適用スルノ外森林法中國有林ニ關スル規定ヲ適用ス

附 則

本令ハ公有林野官行造林法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

公有林野官行造林法施行手續

大正九年十月 農商務省訓令第九號

第一條 大林區署長造林契約ヲ締結セムトスルトキハ面積、植栽豫定樹種、植栽豫定期間、存續期間、及收益分收ノ歩合ヲ具シテ農商務大臣ノ認可ヲ受ケヘシ

造林契約ヲ締結シタルトキハ大林區署長ハ之ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第二條 大林區署長造林契約ヲ解除又ハ變更セムトスルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受ケヘシ

第三條 造林地ニハ境界保存上必要ト認ムル箇所ニ境界標ヲ建設スヘシ

第四條 大林區署長耕地整理地區編入ニ關シ同意ヲ爲サムトスルトキハ當該公共團體ノ意見ヲ添ヘ農商務大臣ニ稟伺スヘシ

耕地整理地區ニ編入シタル區域ニ付テハ造林契約ヲ解除スヘシ

第五條 造林地ノ施業計畫ハ大林區署長地方長官ト協議ノ上公共團體ノ意見ヲ聽キテ之ヲ定ムヘシ

前項ノ施業計畫ハ一公共團體ニ屬スル林野チ一施業區域トシテ之ヲ編成スヘシ
第六條 前數條ニ定ムルモノノ外公有林野官行造林ノ事務ハ國有林野ノ事務ニ準シ之ヲ處理スヘシ

公有林野官行造林事務取扱ニ

關スル件

大正九年十一月林第三一〇一號
山林局長ヨリ各府縣知事宛通牒

今般公有林野官行造林法施行相成候處右官行造林ノ施行ハ公有林野ノ統一、入會整理、管理區分、財産監督等諸般ノ事項ニ於テ貴官主掌ノ事務ト至大ノ關係有之候條之カ施行ニ關シテハ大林區署長ト遺憾ナキ協定ヲ遂ケ其ノ目的ヲ達成スルニ努メラレ度尙貴廳主管ノ事項ニ付テハ大體左記各項ニ依リ處理相成様致度依命此段及通牒候也

追テ本件實行ニ關シテハ大林區署長ニ別紙ノ通牒致置候條右御參照相成度申添候也

記

- 一 官行造林ハ市町村有又ハ其ノ組合有林野ニシテ入會ノ關係整理セラレ、管理區分確定シタルモノニ付實行スル方針ニ付部落有林野ノ統一、入會ノ整理及管理區分ニ付テハ一層其ノ促進ニ努ムルコト
- 二 公有林野官行造林地ニ關シテハ森林法中營林監督ノ規定ニ依リ定メタル施業案又ハ施業要

領等ハ造林契約カ效力ヲ生シタル日ヨリ消滅スルモノトシテ取扱フコト

- 三 造林地ノ施業計畫ハ貴官ニ協議ノ上大林區署長ニ於テ決定スルコト
- 四 造林地ノ選定ニ關シテハ別紙大林區署長宛通牒ニ掲グル標準ニ依ルコト
- 五 造林地又ハ樹木ノ持分ノ處分ハ公有林野官行造林法ノ精神ニ鑑ミ公有林野ノ管理經營上萬已ムヲ得サル場合ノ外之ヲ承認セサル方針ナリ假令已ムヲ得サル事由ニ因リ右讓渡ヲ承認シタル場合ト雖林地保護ノ義務及產物採取ノ權利ハ依然地元市町村ニ存續セシムルコト造林地ノ管理上最モ必要ナル事柄ナルヲ以テ造林地又ハ樹木ノ持分ノ處分ニ付テハ右趣旨ヲ貫徹スル方針ヲ採ルコト

同上ノ件

大正九年十一月林第三一〇一號
山林局長ヨリ各大林區署長宛通牒

公有林野官行造林法施行相成候ニ付テハ左記各項ニ依リ處理相成度依命此段及通牒候也
追テ本件實行ニ關シテ地方長官ニ別紙ノ通牒致置候條右御舍ノ上地方長官ト遺憾ナキ協定ヲ遂クル様致度申添候也

記

- 一 造林地選定ノ標準ハ別紙第一號ニ依ルコト
- 二 造林契約ノ條項ハ大體別紙第二號ニ依ルコト
- 三 造林地又ハ樹木ノ持分ノ處分ハ之ヲ承認セサルヲ原則トシ公有林野ノ管理經營上萬已ムヲ

得サル場合ニ限り本局ニ打合ノ上承認スルコト此ノ場合ニ於テ造林地保護ノ義務及產物採取
ノ權利ハ依然市町村ニ存置セシムル方針ニ依ルコト

四 施業計畫ニ關シテハ左ノ通取扱フコト

イ 施業計畫書ハ公有林野官行造林案(以下單ニ官行造林案ト稱ス)ト稱シ先以テ別紙第三號
様式ニ依ル造林基案及第四號ニ依ル官行造林案説明書ヲ調製スルコト

ロ 造林地ノ斫伐ニ關スル計畫ハ此際編成スルニ及ハス將來收入間伐期ノ到來ニ際シ斫伐基
案(様式ハ追テ之ヲ定ム)ヲ調製スルコト

ハ 造林基案ノ第一次檢訂ハ右斫伐基案ノ編成ト同時ニ行フコト但シ施業計畫ニ著シキ變更
ヲ加フルノ要アルトキハ臨時檢訂ヲ施行スルコト

ニ 造林地ニ對シテハ基本圖及林相圖ニ代ヘ五千分ノ一ノ縮尺ヲ以テ公有林野官行造林圖ヲ
作製スルコト、必要ナル場合ニハ位置圖ヲ添附スルコト

ホ 造林地ニ對シテハ施業沿革史ノミヲ調製シ照査簿ヲ要セサルコト

ヘ 國有林施業案規程第八十九條、第九十三條及第九十四條ニ該當スル場合ハ報告ニ止ムル
コト

前項ニ依ルノ外國有林施業案規程ニ依ル諸報告ヲ要セサルコト
官行造林案編成及造林地測量ニ要スル經費ハ便宜造林豫定案ニ「施業準備」ノ一項ヲ附加
シテ掲上スルコト

五 國有林野事業規程第七條ニ依リ總括表進達ノ場合ハ當分ノ内豫定案ヲ添附スルコト

六 造林臺帳ハ別紙第五號様式ニ依リ調製スルコト苗木養成臺帳ニ付テハ造林臺帳規程第二條
第四號ヲ準用スルコト

第一號

公有林野官行造林地選定標準

公有林野官行造林地ノ選定ハ當分左記ノ標準ニ依ルコトトシ其ノ適用ニ關スル疑義ハ本局ニ打
合ヲ要ス

一 選定スヘキ林野ノ種類ハ左ノ各號ニ該當スルモノタルコト

イ 市町村又ハ其ノ組合ノ所有ニ屬スル林野ニシテ入會ノ慣行解消セラレ管理區分確定シタ
ルモノ

ロ 未タ入會整理管理區分ヲ完了セサル市町村有又ハ其ノ組合有林野ニシテ近キ將來ニ於テ
其ノ完了ヲ見ルヘキモノ

ハ 部落有林野ニシテ近キ將來ニ於テ市町村有ニ統一セラレ入會整理及管理區分ヲ了スヘキ
モノ

ニ 選定ノ順序ハ無立木地多大ニシテ比較的市町村ノ資力乏シク官行造林ニ依ルニ非サレハ徹
底的ニ其ノ造林ヲ達成シ難キ地方ヨリ順次造林ニ著手スルノ方針ヲ以テスルコト

三 面積ノ最低限ハ一市町村内ノ一團地見込百町歩トスルコト但シ三十町歩以上ノ團地其ノ附近ニ存在スル場合ハ便宜併合スルコトヲ得

四 造林地ハ從來ノ無立木地(散生地ニシテ疎密度二割ヲ超エサルモノハ之ヲ無立木地ト看做ス)タルヘキコト

團地ニ介在若ハ孕在シ又ハ之ニ接續スル立木地ニシテ操業上相互便宜トスルモノハ之ヲ造林地ニ併合スルコトヲ妨ケス

五 左ノ各項ニ該當スル個所ハ之ヲ除外スルコト
イ 保安林及治水其ノ他國土保安上重要ノ關係アリト認ムル箇所
ロ 市町村ノ資力ヲ以テ造林シ得ヘキ箇所

ハ 脊梁地、隈笹類密生地、砂地、石礫地、荒廢地、過度ノ乾濕地其ノ他造林ノ容易ナラサル箇所
ニ 隔絶散在地、火災其ノ他ノ危害最モ甚シト認ムル箇所等管理保護ノ困難ナル箇所
ホ 官行造林ヲ爲スニ於テハ當初其ノ林野ヲ賣拂ヒタル趣旨ト矛盾スル虞アル國有林野拂下

第一箇所
(第二號略)

林野現業員共濟組合令

大正八年六月
勅令第三百六號

第一條 農商務省所管國有林野ノ事業及公有林野官行造林事業ニ從事スル雇員以下ノ現業員ハ農

商務大臣ノ定ムル所ニ依リ相互救濟ヲ目的トスル組合ヲ組織ス

第二條 政府ハ毎年豫算ノ範圍内ニ於テ組合員ノ給料總額ノ百分ノ二ニ當ル金額ヲ限度トシテ組合ニ給與ス

第三條 農商務大臣ハ農商務部内ノ職員ヲシテ組合ノ事務ニ從事セシムルコトヲ得

第四條 第一條ノ事業ニ從事スル職員ハ同條ノ現業員ニ非サルモ農商務大臣ノ定ムル所ニ依リ組合ニ加入スルコトヲ得但シ其ノ俸給ハ第二條ノ給料總額ニ之ヲ算入セス

第五條 各廳技術工藝ノ者就業上死傷手當内規ハ雇員ニシテ現業員タル組合員ニ之ヲ適用セス

附 則

本令ハ大正八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

林野現業員共濟組合規則

大正八年六月
農商務省令第二十五號

第一章 總 則

第一條 本組合ハ林野現業員共濟組合ト稱ス

第二條 本組合ノ事務ハ農商務大臣之ヲ統理シ大林區署長之ヲ執行ス

第三條 本組合ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ依ル

第四條 計算上錢位未滿ノ端數ヲ生シタル場合ノ取扱ニ付テハ國庫出納金端數計算法ヲ準用ス

第五條 組合員ヨリ大林區署長又ハ審査會ニ提出スル文書ハ各其ノ關係林區署長又ハ公有林野官行造林署長ヲ經由スヘシ

第六條 本組合ノ事務取扱ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第二章 組合員

第七條 林區署ノ雇員、巡視、給仕、小使、職工、定夫及一年以上又ハ毎年一定期間國有林野ノ現業又ハ公有林野官行造林ノ現業ニ従事スル者ハ林野現業員共濟組合令第一條ノ現業員トス但シ大林區署長ニ於テ現業ニ従事セスト認メタル者ハ此ノ限ニ在ラス
國有林野ノ事業又ハ公有林野官行造林ノ事業ニ従事スル職員ニシテ前項ノ現業員以外ノ者組合ニ加入セムトスルトキハ第九條第五號但書ノ場合ヲ除クノ外大林區署長ノ承認ヲ受クヘシ

第八條 組合員ハ掛金トシテ毎月給料月額ノ千分ノ三十ヲ支拂フヘシ但シ前條第二號ニ依ル組合員ハ千分ノ三十六トス

月ノ中途ニ於テ組合ニ加入又ハ脱退シタルトキハ日割計算ニ依リ掛金ヲ支拂フヘシ毎年一定期間勤務スル者ニシテ勤務ノ初ノ月又ハ終ノ月ニ於テ其ノ月ノ全日數ヲ勤務セサルトキ亦同シ

特別ノ勞務又ハ缺勤其ノ他臨時ノ事故ニ依リ給料ノ支給額ニ増減ヲ生スルモ掛金額ヲ増減セス掛金ハ給料仕拂ノ際之ヲ徴收ス

第九條 組合員ハ左ノ場合ニ限り脱退ス

- 一 死亡シタルトキ
- 二 退官又ハ退職シタルトキ
- 三 休職トナリタルトキ
- 四 林區署以外ノ官廳ニ轉勤シタルトキ
- 五 現業員以外ノ職ニ轉シタルトキ但シ繼續シテ組合員タルノ意思ヲ表示シタルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 六 日給ヲ受クル組合員陸海軍ニ徵集又ハ召集セラレ缺勤ノ期間六箇月ヲ超ユルトキ
- 七 第七條第二項ニ依ル組合員ニ在リテハ加入又ハ第五號但書ニ依ル資格繼續ノ時ヨリ一箇年ヲ經過シ脱退ノ意思ヲ表示シタルトキ
- 第十條 組合員組合ヲ脱退シタルトキハ本則ノ定ムル救濟金ノ給與ヲ受クルノ外組合ニ對シ何等ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第十一條 日給ヲ受クル組合員ニ在リテハ日給ノ三十日分ヲ以テ給料月額トシ月給ヲ受クル組合員ニ在リテハ月給ノ三十分ノ一ヲ以テ給料日額トス

稼高又ハ就業時間ニ依リ給料ヲ定ムル組合員ニ在リテハ前就業日數三十日分、前就業日數三十日ニ滿タサルトキハ就業全日數ノ給料日額ノ平均ヲ以テ其ノ日給トス

共同作業ヲ爲スニ依リ各自ノ給料ノ割合不明ナルモ其ノ他前項ニ依リ給料日額ヲ定ムルコト

能ハサルモノニ付テハ林區署長又ハ公有林野官行造林署長之ヲ定ム

第三章 救 濟

第十二條 救濟金ハ左ノ五種トス

- 一 公傷給與金
- 二 疾病給與金
- 三 死亡給與金
- 四 脫退給與金
- 五 年功給與金

前項第一號ノ救濟金ハ第七條第二項ニ依ル組合員ニ之ヲ給與セス

第十三條 公傷給與金ハ組合員業務上負傷シ疾病ニ罹リ又ハ死亡シタルトキ之ヲ給與ス

公傷給與金ハ組合員脫退スルモ仍之ヲ給與ス但シ療養開始後三年ヲ超ユルコトヲ得ス

第十四條 公傷給與金ハ療養料、休業扶助料、障害扶助料、一時扶助料、遺族扶助料及葬祭料ノ六種トシ左ノ區別ニ從ヒ第一號表ニ依リ之ヲ給與ス

- 一 療養料ハ負傷シ又ハ疾病ニ罹リ療養ヲ要スル者ニシテ組合ニ於テ直接治療ヲ施ササル者ニ之ヲ給與ス
- 二 休業扶助料ハ療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハサルニ因リ給料ヲ受ケサル者ニ之ヲ給與ス

三 障害扶助料ハ傷痍又ハ疾病治癒シタル時ニ於テ仍身體ニ障害ヲ存スル者ニ之ヲ給與ス但シ次號ニ該當スル場合ニ於テ治癒後障害ヲ存スヘシト認メタルトキハ一時扶助料ト併テ之ヲ給與スルコトヲ得

四 一時扶助料ハ療養開始後三年ヲ經過スルモ仍治癒セサル者ニ之ヲ給與ス

五 遺族扶助料ハ死亡シタル者ノ遺族ニ之ヲ給與ス

六 葬祭料ハ葬祭ヲ行フ遺族其ノ他ノ者ニ之ヲ給與ス

第十五條 疾病給與金ハ療養料及休業扶助料ノ二種トシ第十三條ニ依リ給與ヲ受ケヘキ場合ヲ除クノ外組合員疾病ニ罹リ又ハ負傷シ引續キ六日以上勞務ニ服スルコト能ハサルトキ之ヲ給與ス但シ陸海軍ニ召集中ノ疾病若ハ負傷又ハ自己ノ重大ナル過失ニ因ル疾病若ハ負傷ニ付テハ之ヲ給與セス

療養料ハ療養ノ實費、休業扶助料ハ勞務ニ服スルコト能ハサルニ因リ給料ヲ受ケサル期間ノ給料ノ三分ノ一トシ休業ノ日ヨリ起算シテ六十日ヲ超エサル期間之ヲ給與ス但シ休業扶助料ハ休業ノ日ヨリ起算シテ五日ヲ超エサル期間之ヲ給與セス

第十六條 死亡給與ハ第十三條ニ依リ給與ヲ受ケヘキ場合ヲ除クノ外組合員死亡シタルトキ之ヲ給與ス此ノ場合ニ於テハ前條第一項但書ノ規定ヲ準用ス

死亡給與金ハ給料日額三十日分以上百日分以下トス

第十七條 前二條ノ給與金ハ毎年一定期間勤務スル組合員ニ付テハ疾病給與金ニ在リテハ疾病又ハ負傷力勤務期間内ニ生シ之カ爲勤務期間内ニ休業ヲ始メタル時ニ限り之ヲ給與シ死亡給與金

ニ在リテハ死亡カ勤務期間内ニ生シタル疾病又ハ負傷ニ因リ勤務期間内又ハ勤務期間内休業ノ初日、休業セサルトキハ發病又ハ負傷ノ日ヨリ起算シテ六十日以内ニ生シタルトキニ限り之ヲ給與ス

第十八條 脱退給與金ハ組合員組合ヲ脱退シタルトキ之ヲ給與ス

脱退給與金ハ加入後ノ各年ノ給料ノ千分ノ二十二ニ相當スル金額ニ付年利率五分ヲ以テ重利計算ニ依リ算出シタル元利合計ニ相當スル金額トス

第十九條 年功給與金ハ三年以上繼續シテ組合員タル者組合ヲ脱退シタルトキ之ヲ給與ス但シ犯罪又ハ懲戒處分ニ因リ脱退シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

年功給與金ハ加入後ノ各年ノ給料ノ千分ノ六ニ相當スル金額ニ付年利率五分ヲ以テ重利計算ニ依リ算出シタル元利合計ニ相當スル金額トス

第二十條 前二條ノ場合ニ於テ給與金ノ計算方法ハ第二號表ノ定ムル所ニ依ル

第二十一條 大林區署長ハ負傷又ハ疾病ノ療養ニ關シ豫メ醫師ヲ指定スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ指定以外ノ醫師ニ付治療ヲ受クル必要アルトキハ大林區署長又ハ公有林野官行造林署長ノ承認ヲ受クヘシ

前項ノ承認ヲ受ケスシテ醫師ニ付治療ヲ受ケタルトキハ大林區署長ハ救濟金ノ給與ニ關シ適當ナル療養費ヲ定ムルコトヲ得

第二十二條 救濟金給與ノ場合ニ於テ過拂又ハ未拂ノ掛金アルトキハ之ヲ救濟金額ニ加ヘ又ハ之ヲ救濟金額ヨリ減ス

第二十三條 組合員死亡シ傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタル場合ニ於テハ本人又ハ其ノ家族其ノ他

之ニ代ルヘキ者ヨリ遲滞ナク之ヲ林區署長又ハ公有林野官行造林署長ニ申告スヘシ

前項ノ申告ヲ爲サスシテ一箇月ヲ經過シタルトキハ其ノ事實ヲ以テ組合ニ對抗スルコトヲ得ス

第二十四條 組合員死亡シタル場合ニ於テ救濟金ヲ受領スヘキ者並其ノ順位ニ關シテハ本則ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外工場法施行令第十條乃至第十二條ノ規定ヲ準用ス但シ死亡給與金ニ在リテハ葬祭ヲ行フ遺族其ノ他ノ者ニ其ノ全部又ハ一部ヲ給與スルコトヲ得

第四章 審査會

第二十五條 加入、脱退又ハ救濟金額ノ決定其ノ他給與ニ關スル處分ニ對シ異議アル者ハ其ノ處分ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ審査會ノ審査ヲ求ムルコトヲ得

第二十六條 審査會ハ之ヲ農商務省ニ置キ會長一人委員十人ヲ以テ組織ス

第二十七條 會長ハ農商務次官ヲ以テ之ニ充テ委員ハ農商務省高等官中ヨリ之ヲ命ス

第二十八條 會長ハ審査會ノ事務ヲ掌理シ議事ヲ整理ス

會長事故アルトキハ上席委員之ヲ代理ス

第二十九條 審査會ニ幹事一人書記二人ヲ置キ記録ヲ整理シ庶務ニ從事セシム

第三十條 審査會ハ半數以上ノ委員出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

決議ハ出席員ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲シ可否同數ナルトキハ會長之ヲ決ス

第三十一條 審査會ノ決議ハ當該大林區署長及審査請求者ニ之ヲ通知ス審査會ノ決議ハ當該大林區署長及審査請求者ヲ羈束ス

附 則

本則ハ大正八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一號表

種 別	療 養 料	休業扶助料	
		休業三月以内一日ニ付	休業三月ヲ超ユル日數一日ニ付
種 別	實 費	給料日額二分ノ一	給料日額三分ノ一
障 害 扶 助 料		給料日額三百日分	給料日額二百五十日分
一 終身自用ヲ辨スルコト能ハサルモノ		給料日額三百日分	
二 終身勞務ニ服スルコト能ハサルモノ		給料日額二百五十日分	
三 從來ノ勞務ニ服スルコト能ハサルモノ、健康奮ニ復スルコト能ハサルモノ、又ハ女子ノ外貌ニ醜痕ヲ殘シタルモノ		給料日額百日分以上 二百日分以下	
四 身體ニ障害ヲ存スト雖引續キ從來ノ勞務ニ服スルコトヲ得ルモノ		給料日額三十日分以上 百日分以下	

種 別	葬 祭 料	遺 族 扶 助 料	一 時 扶 助 料	
			年 數	係 數
種 別	給料日額三百日分	給料日額三百日分	給料日額三十日分以上 百日分以下	給料日額三十日分以上 百日分以下

第二號表

年 數	係 數	年 數	係 數
1	1,0500	18	2,4066
2	1,1025	19	2,5270
3	1,1576	20	2,6533
4	1,2155	21	2,7860
5	1,2763	22	2,9253
6	1,3401	23	3,0715
7	1,4071	24	3,2251
8	1,4775	25	3,3864
9	1,5513	26	3,5557
10	1,6289	27	3,7335
11	1,7103	28	3,9201
12	1,7959	29	4,1161
13	1,8856	30	4,3219
14	1,9799		
15	2,0789		
16	2,1829		
17	2,2920		

本表ニ依リ $(n+1)$ 年ノ給與金ヲ計算スル方式左ノ如ク定ム

$$\{C_1 K_{(n-1)} + C_2 K_{(n-2)} + C_3 K_{(n-3)} + \dots + C_n \} \left(1 + \frac{0.05}{12} m\right) + C_{(n+1)}$$

C_1 ハ加入ヨリ滿一年迄ノ元金合計 C_2 ハ滿一年ヨリ滿二年迄ノ元金合計 C_3 等之ニ準ス
 $C_{(n+1)}$ ハ滿年數ニ端數アル場合ノ端數年ノ元金合計 C_n ハ端數ヲ除キタル滿年數 B ハ滿年數ニ端數アル場合ノ端數ノ月數
 $K_{(n-1)}$ 前表ニ於ケル $(B-1)$ 年ノ係數 $K_{(n-2)}$ 前表ニ於ケル $(B-2)$ 年ノ係數以下之ニ準ス
滿年數ハ加入ノ月ヨリ起算シ脱退ノ月ヲ以テ終トス

林野現業員共濟組合事務取扱規程

大正八年六月
林第六五八號達

第一章 通 則

- 第一條 農商務省又ハ林區署ニ勤務スル官吏ハ政府ノ事務ニ準シ組合ノ事務ヲ取扱フヘシ
- 第二條 大林區署長組合事務ノ取扱ニ關シ細則ヲ設ケ、之ヲ改廢シ又ハ例規トナルヘキ通牒ヲ發シタルトキハ遲滯ナク之ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第二章 組合員原票

- 第三條 大林區署長ハ第一號書式ニ依リ組合員毎ニ組合員原票ヲ備ヘ之ヲ保存整理スヘシ
原票ハ林野現業員共濟組合規則第七條第一項ノ雇員、巡視、給仕、小使、職工、定夫及一年以

上國有林野ノ現業又ハ公有林野官行造林ノ現業ニ從事スル者ヲ甲種、同項ノ毎年一定期間國有林野ノ現業又ハ公有林野官行造林ノ現業ニ從事スル者ヲ乙種、同條第二項ニ依ル者ヲ丙種トシ各別ニ編綴スヘシ

- 第四條 大林區署長ノ命シタル主任官吏小林區署長又ハ公有林野官行造林署長ハ組合員原票ノ複本ヲ備ヘ之ヲ保存整理スヘシ
前項ノ複本ヲ作製シタルトキ又ハ其ノ記入若ハ訂正ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク其ノ事項ヲ大林區署長ニ報告スヘシ

- 第五條 組合員他ノ林區署ニ轉勤シタルトキハ其ノ原票又ハ複本ヲ保存スル官吏ハ遲滯ナク其ノ轉送ヲ爲スヘシ

第三章 會 計

- 第六條 大林區署長ノ命シタル主任官吏、小林區署長又ハ公有林野官行造林署長ハ給料仕拂日ニ於テ掛金ヲ徵收スヘシ但シ給料力掛金ニ滿タサルトキハ次回給料仕拂ノトキ之ヲ徵收スルコトヲ得

- 一箇月中數回ニ給料ヲ仕拂フトキハ掛金ハ適宜數回ニ分割シテ之ヲ徵收スルコトヲ得
掛金ノ徵收ニ過不足アリタルトキハ次回徵收ノトキ之ヲ整理スヘシ

- 第七條 大林區署長ノ命シタル主任官吏、小林區署長又ハ公有林野官行造林署長掛金ヲ徵收シタ

ルトキハ第二號書式ニ依リ組合員掛金徴收報告書ヲ作製シ現金ト共ニ遲滞ナク之ヲ大林區署長ニ送付スヘシ

第八條 大林區署長ハ毎月第三號書式ニ依リ組合員給料總括表ヲ作製シ翌月十五日迄ニ農商務大臣ニ提出スヘシ

第九條 政府ノ給與金ハ之ヲ月割トシ毎月其ノ前月分ノ給料總額ノ百分ノ二ニ當ル金額ヲ組合ニ交付ス

第十條 救濟金ヲ拂渡スヘキ事故發生シタルトキハ大林區署長ノ命シタル主任官吏、小林區署長又ハ公有林野官行造林署長ハ救濟金算定書ヲ添ヘ之ヲ大林區署長ニ送付スヘシ

前項ノ送付アリタルトキハ大林區署長ハ直ニ救濟金額ヲ決定シ關係官吏ヲ經由シテ之ヲ權利者ニ通知スヘシ

第十一條 大林區署長救濟金ヲ支拂ヒタルトキハ領收證ヲ徴スヘシ

第十二條 本組合ノ財産ハ大林區署長之ヲ管理ス
農商務大臣經理上必要アリト認ムルトキハ甲大林區署長保管ノ組合財産ノ一部ヲ乙大林區署長ノ保管ニ移サシムルコトヲ得

第十三條 山林局長ハ第四號書式ニ依リ林野現業員共濟組合資金別狀況簿ヲ備ヘ組合財産ニ關スル事項ヲ記載スヘシ

第十四條 大林區署長ハ左ノ帳簿ヲ備ヘ組合財産及其ノ收支ヲ整理スヘシ

- 一 林野現業員共濟組合收支金總括簿(第五號書式)
- 二 林野現業員共濟組合收入金明細簿(第六號書式)
- 三 林野現業員共濟組合支出金明細簿(第七號書式)
- 四 林野現業員共濟組合國債證券明細簿(第八號書式)
- 五 林野現業員共濟組合資金別狀況簿(第四號書式)
- 第十五條 大林區署長ノ命シタル主任官吏、小林區署長及公有林野官行造林署長ハ第九號書式ニ依リ林野現業員共濟組合員掛金徴收簿ヲ備ヘ掛金ノ徴收ヲ整理スヘシ
- 第十六條 大林區署長ハ毎年六月末日迄ニ前年度ニ屬スル組合ノ會計ニ關スル事項ニ付左ノ調書ヲ作製シ之ヲ農商務大臣ニ提出スヘシ
 - 一 林野現業員共濟組合收支計算書(第十號書式)
 - 二 林野現業員共濟組合財産明細書(第十一號書式)
 - 三 林野現業員共濟組合資金別狀況簿登載事項

附 則

本規程ハ大正八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

(書式略)

本報第八五八号于一九二二年一月廿七日發行

目次

- 一 林業振興委員會第四期別冊發售
- 二 林業振興委員會第四期別冊發售(第十一號書)
- 三 林業振興委員會第四期別冊發售(第十號書)
- 四 林業振興委員會第四期別冊發售(第九號書)
- 五 林業振興委員會第四期別冊發售(第八號書)
- 六 林業振興委員會第四期別冊發售(第七號書)
- 七 林業振興委員會第四期別冊發售(第六號書)
- 八 林業振興委員會第四期別冊發售(第五號書)
- 九 林業振興委員會第四期別冊發售(第四號書)
- 十 林業振興委員會第四期別冊發售(第三號書)
- 十一 林業振興委員會第四期別冊發售(第二號書)
- 十二 林業振興委員會第四期別冊發售(第一號書)

大正十一年十二月廿四日印刷
大正十一年十二月廿七日發行

農商務省山林局御編纂

東京市京橋區鈴木町二番地

發行兼印刷者 石丸 鶴吉

東京市京橋區鈴木町二番地

印刷所 東亞印刷株式會社

東京市京橋區鈴木町二番地

發行所 東亞印刷株式會社

電話 京橋二三四、二二五
振替貯金口座東京一九、一五四

辨香樓金口通東京一六、一五四
雲錦京 二三四、二二正

發祥地 東亞印刷株式會社

東京市京橋區橋本町二番地

印刷部 東亞印刷株式會社

東京市京橋區橋本町二番地

發行所 株式會社

東京市京橋區橋本町二番地

豐商海峽山林風物誌

大正十一年十二月廿五日發行
大正十一年十二月廿四日印刷

744-59



